

第46回

全道造形教育研究大会

札幌大会



1996. 7. 26(金)・27(土)

造形 = 愛・感・美・遊・創 in 札幌

美・遊・創

第1日目

札幌市立山鼻小学校  
札幌みなみ幼稚園

第2日目

北海道立近代美術館  
北海道立三岸好太郎美術館

第46回  
全道造形教育研究大会  
札幌大会  
1996



主 催

北海道造形教育連盟  
札幌市造形教育連盟

後 援

北海道教育委員会・札幌市教育委員会  
札幌市立幼稚園長会・札幌市私立幼稚園連合会  
北海道社会福祉協議会保育協議会・札幌市小学校長会  
札幌市中学校長会・北海道高等学校長協会  
札幌市教育研究協議会・北海道立近代美術館  
北海道立三岸好太郎美術館

連盟研究主題

自らの心を拓く造形学習の在り方

大会主題

造形=愛・感・美・遊・創 in 札幌

会 期

平成8年 7月26日(金)・27日(土)

会 場

札幌市立山鼻小学校・長尾学園 札幌みなみ幼稚園  
〒064札幌市中央区南14条西10丁目 〒064札幌市中央区南17条西4丁目  
北海道立近代美術館・北海道立三岸好太郎美術館  
〒064札幌市中央区北1条西17丁目 〒064札幌市中央区北2条西15丁目

第48回

全盛期を誇る経済界

日本経済

1948



目次

全盛期を誇る経済界  
日本経済

目次

全盛期を誇る経済界・全盛期を誇る経済界  
全盛期を誇る経済界・全盛期を誇る経済界  
全盛期を誇る経済界・全盛期を誇る経済界  
全盛期を誇る経済界・全盛期を誇る経済界  
全盛期を誇る経済界・全盛期を誇る経済界

目次

我が国の経済発展と経済界の発展

目次

全盛期を誇る経済界

目次

全盛期を誇る経済界

目次

全盛期を誇る経済界・全盛期を誇る経済界  
全盛期を誇る経済界・全盛期を誇る経済界  
全盛期を誇る経済界・全盛期を誇る経済界  
全盛期を誇る経済界・全盛期を誇る経済界  
全盛期を誇る経済界・全盛期を誇る経済界

# も く じ

大会挨拶	北海道造形教育連盟 委員長 白井 罔毅	2
札幌大会の開催にあたって	札幌市教育委員会 教育長 千葉 瑞穂	3
大会シンボルマークについて		4
会場案内図		5
会場紹介		6
開閉会式次第		8

## 大会1日目

大会1日目の日程 授業・分科会について	10
大会主題	12
8つの扉	26
授業、分科会会場図	27
造形と遊び	31
造形ともの・材料	41
造形と環境	48
造形とイメージ	57
造形とメディア	64
造形と個性	70
造形と技	76
造形と鑑賞	82

## 大会2日目

大会2日目の日程	90
会場案内（道立近代美術館・道立三岸好太郎美術館）	91
「感性の一日」の内容案内	93
講演会式次第	94
記念講演会 講師紹介	95
全道造形教育ネットワーク会議	96
北海道造形教育連盟名簿	98
全道18支部名簿	102
札幌大会運営実行委員会名簿	126
北海道造形連盟規約	132
全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧	133



## 「愛・感・美・遊・創」札幌で！

北海道造形教育連盟

委員長 白井 圀 毅

全道各地からの皆様、ようこそ札幌へ！心より歓迎申し上げます。

札幌市は、創建128年、今や、政令都市として、格調高い近代文化都市をめざして躍進を続けています。また、国際交流の進展とともにその拠点都市として国際的にも飛躍することが期待されています。

46回の歴史をもつ全道造形教育研究大会の札幌大会は、5年振り10回めの開催となります。その主会場となります山鼻小学校は、明治9年、清流豊平川に潤され、雄々しき藻岩山を仰ぎ見る山鼻の地に遠大な理想と強靱な開拓精神を抱いて入植した屯田兵の「学問が必要」という切なる願いにより明治11年開校されました。この学校創設の思いや「子供のための学校」という精神が今も継承され、新しい時代の教育の創造に努めているというところです。

さて、前回の札幌大会は、平成3年、三角山小学校を主催として開催されました。「子供のつくる喜びをひらく」を研究主題に、具体的に子供の側に立った授業づくりを課題とした魅力ある教材（題材の開発）と授業の在り方（授業形態・指導法）に視点をあてた授業を追求してきました。

更に、昨年度は、いしかり'95千歳大会では、「豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を」研究主題として、生きていく中で美しさを求める心、自己の思いを表し、生きていく力を育む造形教育の方向を探り、多くの成果を得ることのできた研究大会でした。

先に公表された中教審のまとめによりますと、これからの子供に求められる資質・能力は、変化の激しい社会に「生きる力」とであると明示されました。それは、「心の教育」を従来の新しい学力観に統合し、「資質・能力・心」の一体化された「生きる力」であります。

札幌大会の研究主題「愛・感・美・遊・創」は、まさに「生きる力」そのものであり、まことに時宜を得た、的を得たものと考えます。

山鼻小学校全児童による、子供の発想を大切に構成したジャンボ造形活動「はずむころろ」、また、授業開始時刻を段階的に配置したり、分科会も「8つの扉」ひ分け、幼小中高の合同の討議の場として設定し、運営も座長システムを取り入れました。

更に、紙工作の名人、伊藤 恵先生の表現講演「紙の造形」、地域の芸術文化の発信基地である美術館と連携した授業も新しい試みです。

今大会は、新たな造形教育の可能性を探る21世紀へ向けての札幌の主張の場であります。さっぽろの教師の願いや熱い思いが皆様に伝わらないはずはないと確信しています。どうぞ皆様の熱意で意義深く、そして今後の造形教育の在り方について少しでも示唆することができますれば幸いです。

終わりになりますが、ご後援くださいました北海道教育委員会、札幌市教育委員会、関係諸団体、大会の運営にあたられた札幌市造形教育連盟、札幌市教育研究協議会美術研究部の皆様に深く感謝申し上げ、挨拶といたします。



## 大 会 報 告

# 札幌大会の開催にあたって

札幌市教育委員会

教育長 千葉 瑞 穂

このたび、全道各地から図画工作科・美術科の多くの先生方の参加を得て、北海道造形教育連盟の第46回全道造形教育研究大会が札幌市で開催されますことは誠に喜ばしく、心からお祝い申し上げます。

全道造形教育研究大会の歴史は、昭和25年に開催された第1回全道図画工作教育研究大会をはじめとして、以来約半世紀になろうとしています。その間、一貫して子供のもつ豊かな感性を揺り動かし、創造的な表現の可能性を追究してきたところでもあります。

北海道造形教育連盟は、道内各地に点在する造形教育団体をまとめるとともに、常に時代の先取りをし、造形教育の方向性を示しながらその実践を積み重ねてこられました。永年にわたり本道の造形教育に貢献してこられたことに深く敬意を表します。

札幌大会の研究主題「造形＝愛・感・美・遊・創 in 札幌」もまた、これからの造形教育に求められているものを焦点化したものだと思います。「愛・感・美・遊・創」の五つの言葉に、学校教育の中で造形教育を通して、21世紀に生きる子供にとって大切な資質や能力を育てたいという願いを込めていると伺っております。

21世紀を目前にして、教育界の今日的課題はますます多岐にわたっております。先ごろ中央教育審議会が公表した「審議会のまとめ」によりますと、今後の教育の目標として「生きる力」の育成と「ゆとり」の確保を掲げ、完全学校週5日制の導入を提言しています。そして、この「生きる力」については、「自ら学び、考え、主体的に判断する資質や能力であり、豊かな人間性である」としています。

また、今回の札幌大会には新しい試みが随所に見られます。第2日の北海道立近代美術館や北海道立三好岸好太郎美術館での「アートレッスン」、「たんけん美術館」等もその一つといえます。このことは、学校と地域の教育施設との連携を図った教育活動であり、学校週5日制の完全実施時の過ごし方として、また生涯学習の視点からも注目されるものであります。

今大会でのこのような新しい試みは、これからの造形教育の在り方に指針を与えるものと大きな期待を寄せるものです。

時代が求めている教育がこの札幌大会で熱く語られ、北海道はもとより全国に新しい取組となって広がることを願っております。皆様の熱意によってこの大会が実り多いものになるとともに、北海道造形教育連盟が今後ますます充実・発展されますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。

# 大会シンボルマーク

アースもご期間の大会設計

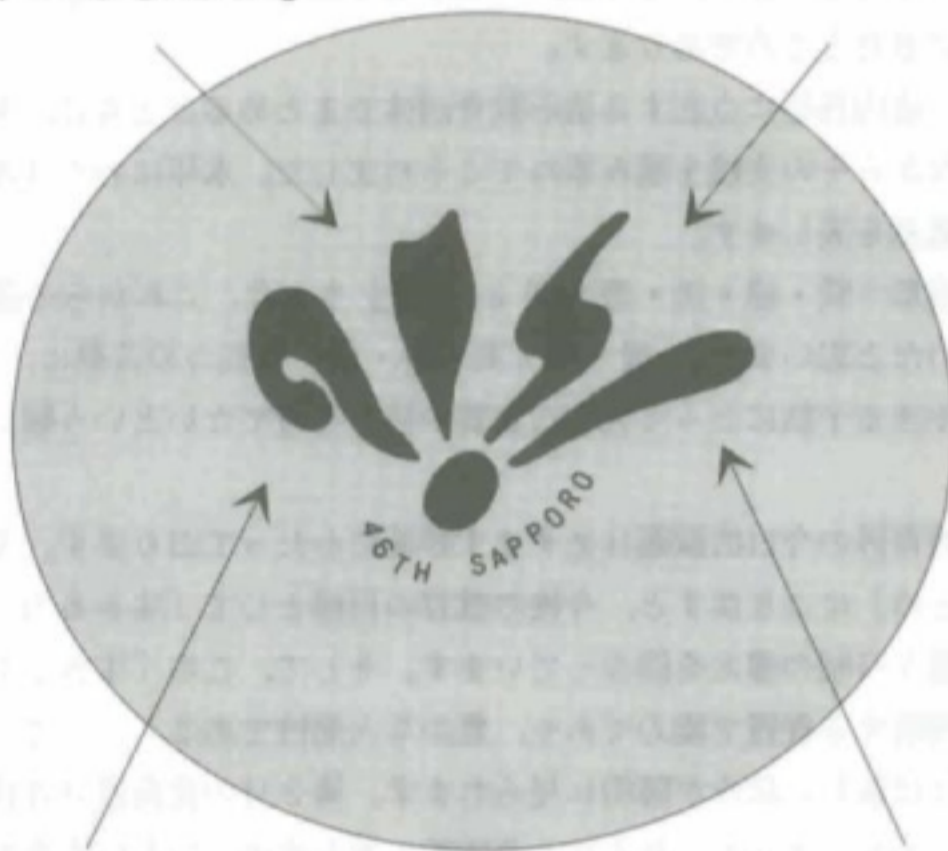
会場委員 堀口 基一

## 「絵筆」

いろいろな絵筆をもって、心のキャンパスに思い思いの世界を描いてみましょう。夢が集まる札幌の空にどんどんふくらんでいく「すてき」をデザインしました。

## 「いなずま&"S"」

「ひらめき」や「ときめき」を意味するいなずまマークと札幌の頭文字であるSの両方の意味をデザインしました。



## 「クエスション」

「おや、あれ？」などの意味を表すマークです。造形活動には不思議な不思議なミラクルがいっぱいです。ミラクルランド=札幌をデザインしました。

## 「びっくり！」

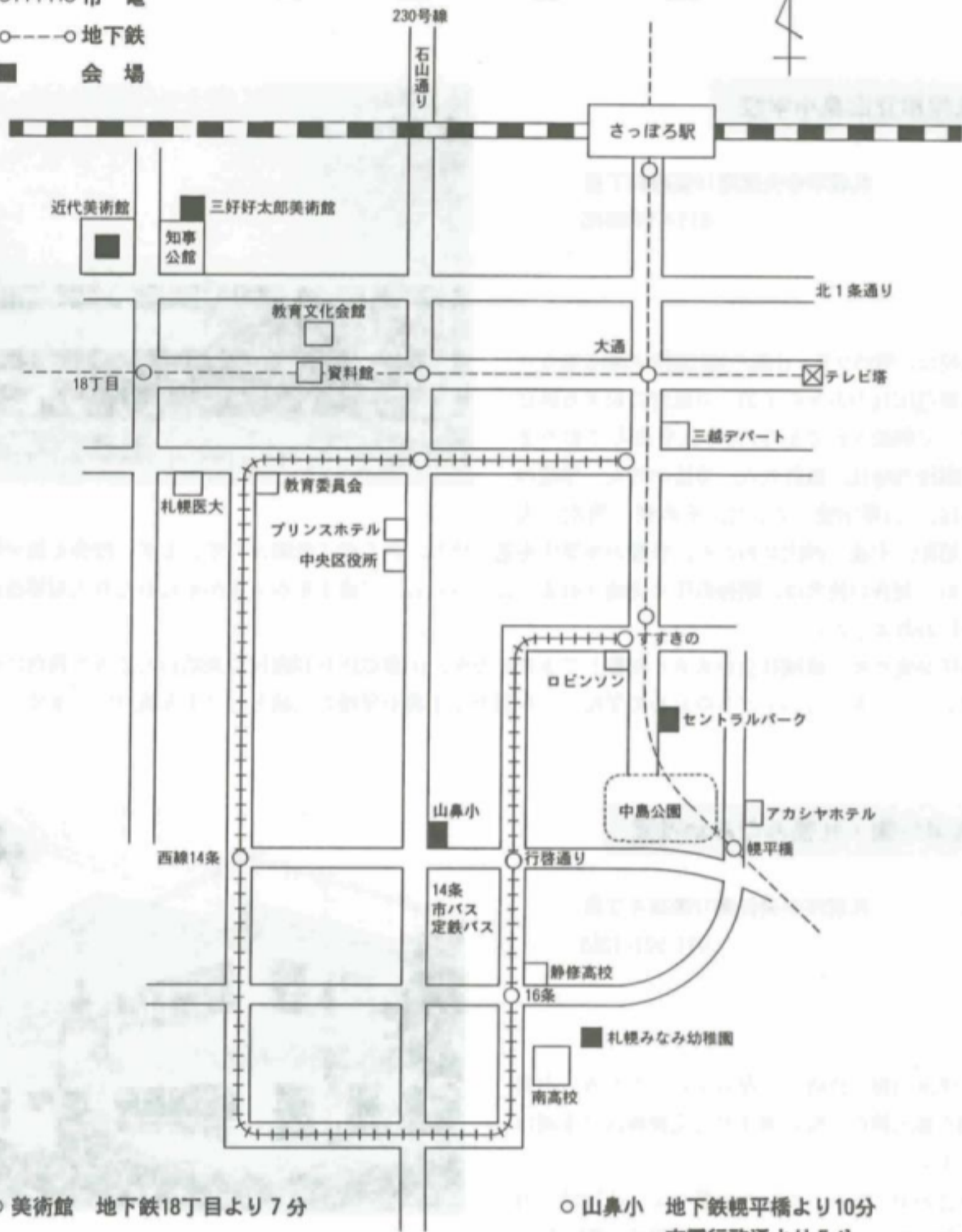
造形には「おどろき」がいっぱい。「あっ、い～、うまい、えっ、おお」の感動のあいうえおが心地よい刺激となる…。そんなイメージをデザインしました。

■大会シンボルマーク・扉シンボルデザイン製作者

札幌市立屯田西小学校 堀口 基一

# 会場案内図

- ++++○ 市電
- 地下鉄
- 会場



○ 美術館 地下鉄18丁目より7分

○ セントラルパーク すすきのより5分

○ 山鼻小 地下鉄幌平橋より10分  
市電行啓通より5分  
市電西線14条より5分  
市バス14条・定鉄バス2分  
(真駒内線石山鉄・定山溪線)

○ 幼稚園地下鉄幌平橋より10分  
市電16条より5分



# 会 場 紹 介

国内委員会

## 札幌市立山鼻小学校

札幌市中央区南14条西10丁目  
011-511-6616



本校は、明治9年、山鼻の地に開拓の跡を振るった山鼻屯田兵の方々の子弟への教育に対する熱意が実って開校されてから118年目を迎えております。開校当時は、教員3人、生徒が70人。学校の名称は、「山鼻学校」でした。その後、明治、大正、昭和、平成と四代にわたり、多数の卒業生を送り出し、各方面で活躍されています。校舎も数回増改築され、現在の校舎は、昭和47年に完成されました。さらに、平成4年から3か年にわたり大規模改造工事が行われました。

時代が変わり、地域社会が大きく変貌してきましたが、山鼻屯田兵村開村以来培われてきた教育に対する思い「一人一人の子どものための学校」が脈々と山鼻小学校の伝統として生き続けています。

## 長尾学園・札幌みなみ幼稚園

札幌市中央区南17条西4丁目  
011-521-1253



中央区山鼻に位置し、藻岩山のいただき、中島公園や護国神社の緑に囲まれた文教地区に本園はあります。

都会の中にありながら、自然のままの堤防の坂を有効に生かしたユニークな遊び場や、鴨々川のほとりのグラウンドなど、いつも子どもたちの明るいおおらかな歓声が響きわたっています。

本園は、昭和29年創立以来、感動する豊かな感性をもった子どもに育てたいと願い、体験を通した自然教育に力を注いできております。

### 北海道立近代美術館

札幌市中央区北1条西17丁目  
011-644-6881

北海道立近代美術館は、北海道における美術文化の発展に寄与するとともに、地域社会の人々に楽しみながら学び、考える場を提供する“知的レジャーセンター”を目指して、1977年7月に開館しました。以来「北海道の美術」「バシキンスとエコールド・パリ」「ガラス工芸」を中心とする近代以降のすぐれた作品の収集・保存・展示・さまざまな時代・分野にわたるユニークな企画展の開催、講演・講座などが開かれた学習の場としての教育普及活動、そしてこれらの活動の基礎となる調査・研究など“行動する美術館”にふさわしい多彩で充実した活動を続けています。



### 北海道立三岸好太郎美術館

札幌市中央区北2条西15丁目  
011-644-8901

三岸好太郎は、札幌に生まれ、31歳の若さで世を去った洋画家です。わずか10年余の間に次々と作風を変えながらもつねに独特のロマンチズムをたたえた多くの作品を描き、日本の近代洋画史に輝かしい足跡を残しました。

三岸好太郎美術館には、三岸好太郎の生涯にわたる代表作がつねに展示され、ひとりの画家の生涯と、彼の生きた時代と美術を一望することができます。



# 第46回北海道造形教育研究大会札幌大会

## 開会式次第

平成8年7月26日 山鼻小学校

	司会	札幌大会実行副委員長 札幌市造形教育連盟副委員長	多田 絃一
1. 開会のことば		札幌大会実行委員長 札幌市造形教育連盟委員長	伊藤 善彬
2. 挨拶		札幌大会会長 北海道造形教育連盟委員長	白井 罔毅
3. 祝辞		北海道教育委員会教育長 札幌市教育委員会教育長	
4. 来賓・講師紹介		札幌大会運営委員長 北海道造形教育連盟事務局長	吉田 俊雄
5. 研究主題説明		札幌大会研究部長 北海道造形教育連盟研究部長	菅原 清貴
6. 閉会のことば		札幌大会実行委員長 札幌市造形教育連盟委員長	伊藤 善彬

## 閉会式次第

平成8年7月27日 近代美術館

	司会	札幌大会実行副委員長 札幌市造形教育連盟副委員長	角力山 旭
1. 開会のことば		札幌大会副大会長 北海道造形教育連盟副委員長	奥野 郁男
2. 挨拶		札幌大会会長 北海道造形教育連盟委員長	白井 罔毅
3. 連盟旗引継ぎ		札幌市造形連盟 → 根室市造形連盟 伊藤 善彬 鍋谷 尊之	
4. 次期開催地区代表挨拶		北海道造形教育連盟副委員長	鍋谷 尊之
5. 閉会のことば		札幌大会副大会長 北海道造形教育連盟副委員長	奥野 郁男

1日目

野田の目目「金大

札幌市立山鼻小学校 長尾学園・札幌みなみ幼稚園

造形 = 愛・感・美・遊・創 in 札幌

8つの扉

あそび

もの・材料

環境

イメージ

ただけよさらばひろかえん

メディア

技

個性

鑑賞

# 大会1日目の日程

8:30

9:00

10:30

11:20

12:20

13:00

受付	階段式公開授業	開会式	扉・オリエンテーション	ランチタイム
----	---------	-----	-------------	--------

	扉	学年・授業者	題 材 名	授業時間帯・場所
1	造形とあそび	幼年少 上村 治子	冒険に出かけよう！ 海の中ってどんな世界？	9:30 10:15 会場 みなみ幼稚園
		幼年中 原田さゆり	つれたよ！つれたよ！ ～さかなつりをしよう～	
		幼年長 小口 典子	わぁー！とびだしてきたのはなんだぁ	
		小2 廣瀬 恵子	いろいろへんしん	9:00 10:10 プール
		中2 向井 正樹	〇〇舞の頭（かしら）をつくろう	9:30 10:30 音楽室
2	造形ともの・材料	小2 川島 正夫	みのまわりのたからものから	9:00 9:45 2の1
3	造形と環境	小5 堀口 基一	とんでんにし改造計画	9:30 10:20 3の2
		中2 千葉美智子	ステンドグラス	9:00 10:00 6の2
		小1～小6 山鼻小全校で	ジャンボ造形「はずむところで」 体育館は夢の世界	9:00 10:00 体育館
4	造形とイメージ	小6 押田 一朗	手作り楽器で交響楽団をつくろう！	9:15 10:00 3の2
5	造形とメディア	小6 松本 和彦	わくわくメディアランド	9:45 10:30 視聴覚室
6	造形と個性	中1 高橋久美子	粘土で本物より本物らしい野菜をつくろう ～いたずら造形～	9:00 10:30 図工室
7	造形と技	中2 石川 早苗	造形の秩序を考え構成する ～ポスターカラーで 美しく着色しよう～	9:15 10:15 6の3
8	造形と鑑賞	小4 氏家 珠実	「オリジナルストーリー・ぼくとわたしのお話の絵」 心を開いて語り合おう	9:10 10:20 3の3

13:00

14:00 14:10

15:00 15:10

16:00

18:30

授業の話し合い

第1ステージ

第2ステージ

グルーピング  
交流会

## 分科会

扉	会場	札幌の主張	提言者	座長	運営委員
1	体育館	<ul style="list-style-type: none"> <li>あそびを通して、または、あそびそのものために造形活動は一層広がる</li> <li>子どもの意欲が連続するヒントが“あそび”の中にある</li> </ul>	札幌みなみ幼稚園 三浦かおり 平和小 今谷 孝	日新小 佐藤 靖	宮の森小 篠原 寛
2	5 の 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>そのもののよさを最大限に生かし、ものと対話しながら楽しむのが造形活動</li> <li>語らいの時間を保障することで「もの」から「ものと一緒」の共存が生まれる</li> </ul>	美しが丘小 元茂 章子 旭 小 富波 修	屯田西小 富田 泰	創成小 稲實 順
3	5 の 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境を深く吟味すれば「環境から」、「環境への」働きかけが必ず生まれる</li> <li>五感で感じる原っぱ文化が子供を育てる</li> </ul>	ときわみなみ幼稚園 中村 直子 大通小 東 尚典 札幌緑小 小野 正二	栄南中 村谷 利一	厚別北小 土肥 宏充
4	5 の 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の心に何かを訴えたい伝えたいという意欲が生まれることが大切</li> <li>対象に対して、自ら働きかけたり要求したものが価値がある</li> </ul>	厚別東小 毛利 聡 西宮の沢小 谷山 圭子 東栄中 白崎 博	青葉小 西 寛	幌西小 桜田 豊
5	視聴覚室	<ul style="list-style-type: none"> <li>受け取るものからつくるものへ、教育的効果をあげるものから造形活動の道具としての活用をめざす</li> <li>絵筆のように使う道具として活用する</li> </ul>	新陽小 湯浅 大吾 南が丘中 黒柳恵利子	上野幌中 武市 尚政	平岡中央中 館内 徹
6	4 の 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「〇〇ちゃんらしい作品だね」という言葉のできる授業をつくる</li> <li>子供が安心して発想や構想を発表し、創造的に表現できる場に個性がでる</li> </ul>	西岡小 山室ゆかり 藤野南小 岡田 知之	向陵中 奥野 邦男	前田北中 合田 典史
7	図工室	<ul style="list-style-type: none"> <li>技は教わるものではなく学びとるもの</li> <li>技は自分のイメージを表す手段である</li> </ul>	藻岩南小 富樫 信博	西野第二小 芝木 秀昭	附属小 野切 卓
8	4 の 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>価値あるものを見定める目や心は、登山して楽しむ山の味わいに似ている</li> </ul>	附属中 岡澤 邦彦	東園小 藤井 正治	幌西小 箭内 浩之

# 大会主題



大会主題について

**造形＝愛・感・美・遊・創 in 札幌**

北海道造形教育連盟

研究主題 『自らの心を拓く造形学習の在り方』

札幌大会 研究部

研究副主題＝一人一人が造形的表現活動の喜びを実感するために＝

## はじめに

人の歴史は、未来を見つめそこに希望の光を求めながら直前の困難を克服してきたはずです。20世紀は多くの殺戮のすえ、平和の持つ大切さを魂のレベルにまで深く刻んだはずです。しかし、この混迷を打破するのは、誰なのか。そして、何がある源となるのでしょうか。あらゆる英知が、その答えを求め21世紀をめざしています。ここで、断言できるのは、この混迷を救う英雄的な救世主は存在しないということです。人が作りだした混迷は、我々一人一人の責任のもとに、その克服の責任を負わなくてはならないということです。

その時責任を回避するようなエゴイステックな方向を選ぶ時、永遠にその混迷から脱する術を失うことでしょう。

心の豊かさ  
優しさの方向

物質の豊かさのみではなく、精神的な心の豊かさ、優しさへ向かう流れは、人として、輝く未来を保証する大きな鍵なのです。

造形教育は、その心の豊かさを担う本質的な能力を持っていると思うのです。それは、限りなく個人を大切にし、個人の個性を限りなく尊重する世界であるからです。また、それだけでなく全日本造形美術者会議では以下のように記しています。

## 造形教育の力

〈21世紀にむかって造形教育の果たすやくわり〉

- ・目、手、頭脳による鋭い感性と直観的認識力を働かせ、個性的な創造活動をしていく能力を養う。
- ・試行錯誤の中で脳が「楽しい状態」「意欲ある状態」で創造認識活動が展開される。
- ・『ときめき・あこがれ・よろこび・やすらぎの教科』を心に刻み、独自の世界を創造する。
- ・色・形・空間・時間・光・音などノンバーバル（非言語）な手段による情報伝達。
- ・交流が重要になる時代にあって美術教育はそれに対応する能力を養う。
- ・子供文化の創造や発信を実現させる能力を有する。

今日的教育課題  
の中でますます  
大切になってきた  
造形教育の価値

昨年度から週5日制が月2回の実施となりました。『社会の急激な変化』の中にあって、学校教育も大きな変革の時をむかえています。単に教科の再編の行方に目を奪われることなく、なぜ変革が必要なのかその本質に立ち返ったとき、心を豊かに育て子供の願いを実現しようと積み重ねてきた、造形教育の歴史がますます大きな輝きを放ってくるのだという確信をもつのです。昭和女子大学教授熱海則夫先生が、「学校週5日制月2回対応授業改革の事例」（明治図書）に記されている事項を要約し、それに対して造形教育はいかに対応してきたか、さらにどう対応しようとしているかを対照表の形で表記してみましょう。この表記で分かることは、造形教育は「生きる力」に直結するものであり、その価値は次世紀の日本人として生きてゆく上で欠くことができないものであるということです。







造形教育の社会的価値

- ・ 個性的な創造活動をしていく能力を養う教科
- ・ ときめき、あこがれ、よろこび、やすらぎを心に刻む教科
- ・ 非言語な手段で情報伝達を担う教科

豊かな発想  
や構想を楽  
しむ教科

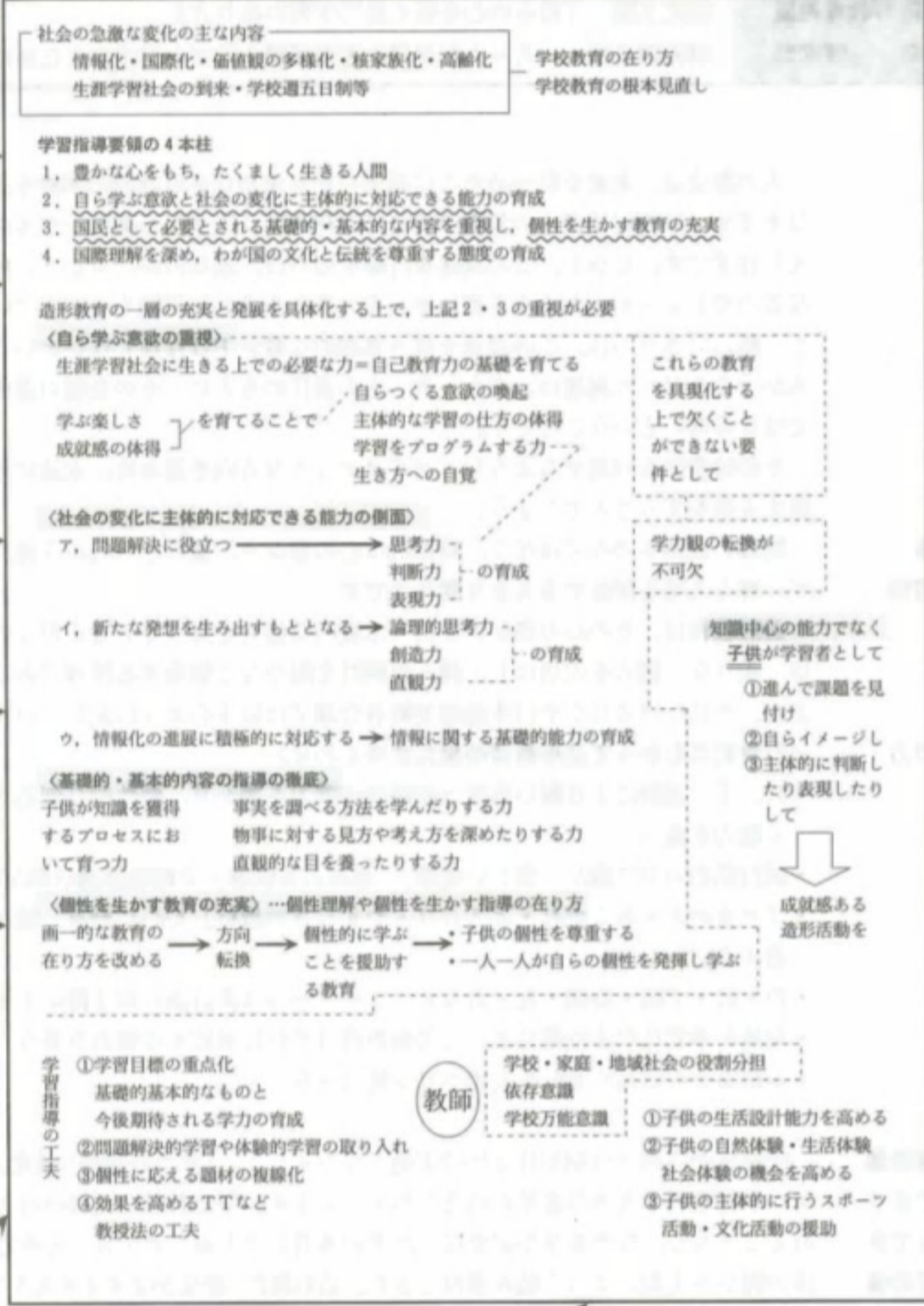
感性を磨く  
教科

創造的スキル  
を育み基礎  
基本と個性  
を共に伸ば  
せる教科

美を愛する  
心と目を育  
てる教科

豊かな表現  
力を育むの  
が造形活動

その子らし  
さを遺憾な  
く発揮する  
のが造形活  
動



生涯学習  
社会の彩  
りをなす  
一つが造  
形活動

子供の夢  
や願いを  
形や色に  
していく  
活動は必  
然的に子  
供の個性  
の伸張に  
つながる

一人一人の造形活動を大切にすると  
発想から構想を練り活動を展開していく  
ラーニングデザインが実現できるのが  
造形活動

五感を大切に実感や体験を重視して進める  
のが造形活動



教育課題を受け  
これまでの連盟  
の活動を振り返  
る

1991年第41回全道造形教育研究大会札幌大会を札幌市立三角山小学校を会場に開催しました。「子供のつくる喜びをひらく」を研究主題に学習者としての子供が教わることから、学ぶ主体になることを願って授業提案がなされました。

さらに、昨年度いしかり'95千歳大会で「豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を」の大会研究主題のもと、生きていく中で美しさを求める心・自己の思いを表し・生きていく力を育む造形教育の方向を探る大会が大きな成果をもたらした今年度の札幌に引き継がれました。心そして生きる力とは…その札幌の答えが、愛・感・美・遊・創であります。

さて、本年で46回をむかえます北海道造形教育連盟の全道大会は、50年になんなんとする当連盟の歴史そのものでもあります。

造形連盟の研究  
の歴史

昭和24年「札幌美育連盟」の組織化。北海道図画工作科連盟に発展。昭和34年北海道造形教育連盟として改称し今日にいたっている歴史は、まさに北海道の造形教育の足跡そのものです。『指導の構築』『創造の炎』の編纂の中で、北海道の造形教育のレベルの高さを全国に示すものになりました。

札幌連の誕生

1994年春北海道造形教育連盟の札幌支部を発展的に改称し札幌市造形教育連盟（札幌造連）を旗揚げしました。授業研究を中心に子供が造形学習に浸り、豊かな感性を培うことを願って、校種の壁を乗り越えグローバルな追及の場を創造したいと考えています。まだ、産声の段階である札幌造連にとって、今回の札幌大会は大きな試練の場があります。札幌造連中学校部や連盟本部の協力共同のなかで一人歩きをめざしています。さて、今回の札幌大会は試練であることと、試金石の場でもあります。新たな造形教育の可能性を試す21世紀にむけての札幌の主張です。

札幌大会の画期  
的内容

〈札幌大会の意気込み〉 〈札幌の主張〉

・大会コンセプト…エントランスフリー・エグジットフリーの構想。

造形教育に興味や関心のある方が、ふらりと会場に訪れたとしても、支流からやがて主流に辿り着く（エントランスフリー）また、問題意識を持って参加された方もその本質に一層近付き焦点化される（エグジットフリー）ようなシステムを、工夫したいと考えました。そこで、各授業で最も必要とされる時間を授業者が決め開始時刻を段階的に配置してみました。このことにより、授業にゆとりを持たせ子供のねがいを実現しやすくするとともに、参加者が「各授業の導入段階を数多くみたい」といった要求にも応えることができると思います。

お互いが学び合い・知り合える場として造形教育の大会を企画しました。

校種の壁や領域  
の壁にかざあな  
を

子供の発達段階に対して大人の認識にとらわれることなく、製作者である子供の側にたって見つめなおしてみたいと考えました。そこで、造形教育の要素を『8つの扉』（8ドアーズと名付けました）に分け、そこから、子供たちのつくる喜びを学校種にこだわることなく追及してみたいと考えたのです。したがって、分科会も『8つの扉』にそって幼小中高の合同の討議の場として設置しました。参加者が興味関心のある扉を自由に選択する『バイキング料理』式の設定です。また、この分科会の運営に関しても『座長システム』を導入しました。提言者が研究発表をしそれを聞き質疑応答をする従来型の分科会から脱皮し、参加者もその『扉』に入ることにより、分科会をつくる作り手となるよう座長が細やかに配慮します。

座長のいる  
『8 ドアーズ』

美術館との共同  
の大会

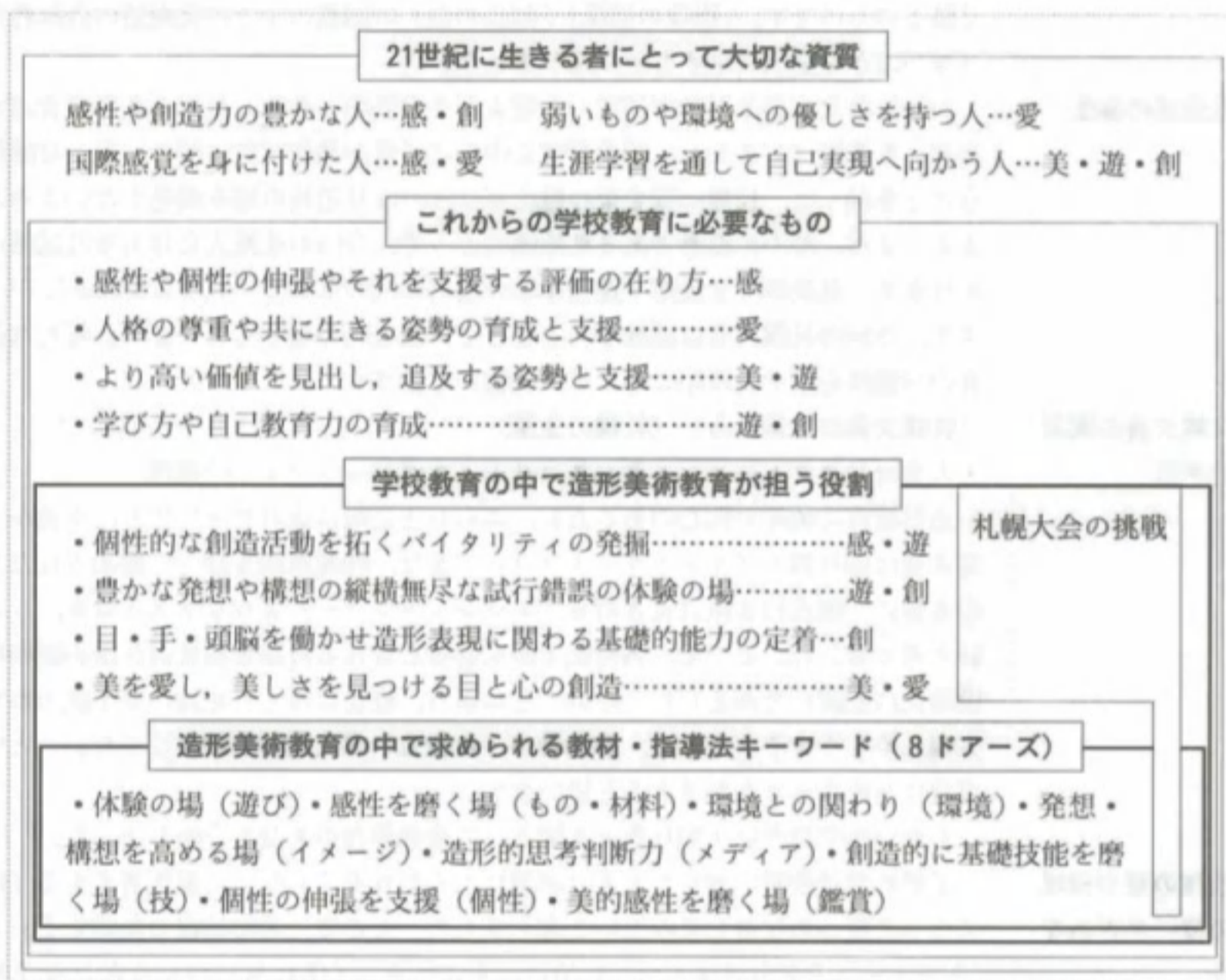
さて、今回の大会でのもう一つの目玉が、美術館との協力共同の大会であることです。地域の文化芸術の発信基地として、全道に多くの美術館が近年建設されました。この大切な社会資本を受診するだけの立場から、ともに発信者として造形教育振興に協力し歩み出したいと考え、美術館のお力をいただきました。

愛・感・美・遊  
・創を深呼吸し  
たい



造形教育の在りようを表現するには、あまりにも大きく大胆に見えるこの文字の配列と感じられるでしょう。しかし、私たちは、あえてこの造形教育の「枠」を越えたかに見える5つの文字にこだわりたいと考えています。それは、これまでに述べてきた新しい教育観にとって重要なキーワードであるばかりか、教育現場での造形教育の位置付けにとっても重要なキーワードであると考えています。また、この5つの文字が並列に並べられていることに危惧を感じることでしょう。たしかに愛はすべての人間生の根源に迫るものであり、創や美に関しても造形教育だけで語るには、奢りだとおっしゃるでしょう。それをあえて、マクロな視点に立ち、教育者として、今一番何が大切で、一番何を求められているのかを考えたとき、大きく深呼吸した全身に、この5つの言葉を吸い込む度量の大きさが必要であると考えたのです。以下の図を通して、この5文字にかける意気込みを感じてください。

主題の5つの言葉の持つ感覚を、ゆり椅子に座って、つぶやきましょう。



感・美・遊・創  
愛

**愛** …人間・ものに寄せる、そのものの幸せを願い、自分の手もとにおきたいと思う温かい感情。いつくしむ心。たいせつに思う心。（学研国語大辞典）

この愛がすべての造形教育活動・教育全過程・人間の活動の土台になればと当然のように願っているのです。

具体的には子と子・教師と子・など人間同士を結ぶこちよいいりボンのように愛があり、さらに子供達の周りにある対象・材料や道具など造形活動に欠かせないものに対しても愛が苗床となって様々な価値が育成されていくものと思うのです。

そこで、我々の造形教育の土台にまずこの愛を敷き詰め全てを出発させていきたいと考えました。美を愛し、美しさを見付ける心や目を育てたいと願っているのです。

すべての土台に  
愛が…

へー  
なるほどー  
好きだなー

海辺のここちよ  
さ

近くの自然から  
学べたら

美意識が育つ環  
境を

生涯学習社会の  
鍵 「遊」

「創」はトリ

札幌の主張を8  
つの扉に込めて

**感** …感動の感であり・感性の感であり・五感の感でもあり・実感の感や体感の感でもあります。スキー遠足で下手な滑りをよそに先頭きって森の中に分け入ります。宮沢賢治の世界に入り込んだようなきらきら光る風浪細工の中に立った時久々に心が揺らめくのです。やはり教師が揺らめく心を持たなくてはならないのです。一昨年の横浜の全国大会では感性を「価値あるものに気付く感覚」と解釈されていました。なるほど「へー」「なるほどー」「好きだなあー」と感じる感覚なのですね、それ、忘れかけている現代人のオアシス探しなのかもしれません。情感溢れる造形作品を目にしたとき、反発を感じる心の奥で、こっそり誘う、海辺のようなここちよさを見付けるのは、人間だからなのです。

感性や個性を伸張させ、それを温かく支援する評価の在り方もここでは問われています。

**美** …江戸の町はそれは果てしなく続く灰色のくすんだ町並みであったといえます。木と土の壁と粘土を焼いた瓦の屋根なのですからそれもうなずけます。そこに藍染めの大暖簾はさぞ目だったことでしょう。その藍にしても日本の土から生まれたものなのです。しっとり馴染むはずです。

このような環境の中、繊細な色彩感覚が自然に育っていったのです。美意識は、環境が育てるのかもしれませんが。そう考えると今の日本の都市環境はぞっとします。簡単なことなのです。日本の自然の中に生れ育ってきたことを大切に、そこにより高い価値を見出し、追及しようとする姿勢を育みたいのです。

強い意思で再び日本人の繊細な美意識を生かした空間づくりをしたいものです。その環境が美意識を育む大きな美育学校となるに違いないのです。

**遊** …つくることの楽しさや成就感を育てることにより自らつくる意欲を喚起し、主体的な造形活動の仕方の体得や造形学習における問題解決の能力の育成など自己教育力の基礎を育てる上で、キーワードとなるのがこの「遊」の一文字なのです。自ら学ぶ意欲の側面を支えるのが「楽しさ」であり「成就感」であるならば、やはり鍵を握るのは「遊」なのです。

造形教育研究収録『創造21』（連盟研究部発行）では、幼稚園から中学校まで授業研究を通して「遊び心」や「遊び」を考えてみました。

その中で気付いたことは、限りなく主体的であり、楽しく、興味関心のわくものには「遊」の心があるということです。生涯学習社会に生きるうえで必要な力は「遊」が生み出してくれるのかもしれませんが。

**創** …こんな端に追いやるつもりはないのです。トリを「仕切る」のがこの「創」なのです。愛を苗床に感・美・遊を味わい最後に鏡を見ると立派に成長した自分がある…その映る姿が「創」なのです。創造性溢れる温かで豊かな姿それが造形教育を通して育てられる子供の姿です。

・進んでつくりたいものを見付け出し

・自ら構想を練り

・主体的に判断したり表現を楽しむ

この一連の造形活動の中で生きて働くダイナミックな学習が実現します。

「自らの心を豊かに拓く」ことにつながるのは間違いありません。

造形表現に関わる基礎的な能力の定着も、この創という言葉の前置きにしなければ、ただの技術の伝達にしかありません。

この5つの大きな大きな言葉を、造形美術教育の中で、今求められている教材観や指導法に吹き込み、いきいきとした息吹を「8つの扉」から感じたいのです。

造形教育「8つの扉」(ドアズ8)から札幌色の主張を感じてくださいそしてご意見をください

### 造形と遊び 札幌の主張

- 造形活動の中に遊びの要素を取り入れることによって、興味や関心がわき、遊びを通してまたは、遊びそのもののために造形活動は一層広がる。
- 遊び心を造形活動に生かすことにより、子供の興味や関心が持続し飽きないで最後まで追及する活動が生み出される。

### 造形ともの材料 札幌の主張

- 日本人(自然と共存する文化を持つ)の「もの」に対する感覚は、自分の言う通りに従わせ征服させるのではなく、そのもののよさを最大限に生かし、ものと対話しながら楽しむところにある。(もの材料の特質を生かす)
- もの自体に子供が働きかけずにはいられない魅力が内在している。
- 子供はもの・材料と語り合う時間を楽しんでいる。従ってこの語らいの時間をたっぷり保証してあげたい。このことにより、より発想がふくらみ主体的に材料に働きかけるようになる。「もので」から「ものと一緒に」の共存が生まれる。

### 造形と環境 札幌の主張

- 子供達を取り巻く環境が有効な意味を持っているのか教師の吟味が必要である。深く吟味すれば、「環境から」の働きかけや「環境への」働きかけが必ず開始される。
- 造形活動をする上で、手に触れるもの・におい・音・掲示物の配置・用具の配置・材料の準備・活動範囲・季節・自然の活用・地域の特徴などを五感で感じる原っぱ文化が子供を育てる。

### 造形とイメージ 札幌の主張

- イメージを豊かにするには、見たり感じたりして、様子を思い浮かべ人の心に何かを訴えたい伝えたいという意欲が生まれることが大切である。
- 対象にたいして、自ら働きかけたり要求したりしたものの方が価値がある。したがって、今の自分や身のまわりの事柄や事象をはっきりさせたり、探ったりする活動があってはじめて豊かなイメージが醸成される。

### 造形とメディア 札幌の主張

- メディアに対する固定概念を砕くところからはじめよう。「受けとるものからつくるものへ」「教育効果をあげるものから造形活動の道具」としての活用をめざす。
- 子供の表現手段としてメディアの活用を考える。
- 子供に触らせてはいけないものから、造形活動の手段として「絵筆のように使う」道具として活用する。
- イメージを豊に育む媒体としてのメディア活用術を追及する。

### 造形と個性 札幌の主張

- 造形活動での個性的表現とは、その子らしい発想や構想を周りに認められるやり方で自分らしい表現ができるようになることと定義したい。「○○ちゃんらしい作品だね」という言葉のでる授業をつくる。

■個性を生かす授業は、苗床に子供たちが安心して自分の発想や構想を発表し、創造的に表現できる場があってはじめて成立する。

■個性を生かせる題材をつくる上で、多様な表現ができるように素材や用具、技法を拡げていくように、題材の配列を能力や系統性から今一度見直す活動が大切である。

## 造形と技 札幌の主張

■「技」を教えこむものとしてとらえるのでは、子供にとって本当に使える力にならない。「技」は教わるものではなく、自分で学びとるものである。

■「技」は自分のイメージを形や色にするための手段である。

■「技」の獲得のためには、試行錯誤こそ大切であり、そのための時間を保証することも教師の重要な役割である。

## 造形と鑑賞 札幌の主張

■美しさやよさをすすんで感じとろうとする機会を設定することで、対象の美しさやよさを感じとる心が育つ。

■自分にとって価値あるものを見定める目や心は、一人一人が登山して楽しむ山の味わいに似ている。この登山がとっても素晴らしいものであることを、できるだけ的手段を講じて児童・生徒に伝えることである。

■対象から受ける思いを率直に表現したり、友達の考えを聞いたりしていくうちにそのものの価値に気付いていくのだ。

・迷路の中を自分でルートを見付けるような鑑賞

・雪山に長靴で新しい道をつくるような鑑賞

・砂山を崩して宝ものを発見するような鑑賞…色々やらせてみよう。

積み上げをさらに

これからの社会や教育そして造形活動の未来を見つめた上で大会を考えたい。未熟でも、遠くを見つめる姿をそして、教師としての意欲を示す大会にしたいと実績を積み上げてきました。その中で語られてきた言葉や心が『札幌の主張』です。札幌連では、授業研究を中心に（幼稚園の授業も中学の先生が参観しました。）『おもしろ冬工房』（1泊2日の泊まりがけの研修会）や大会の基礎理論を語り合う『夏研究所』から始まり『冬研究所』そして『春研究所』と夏・冬休みなどを利用しての長時間の話し合い、放課後夜遅くまでの論議の中で、次第に絞り込まれてきた『主張』です。

まだまだ未熟な独りよがりの吹きかもしれません。参加された全道の先生の中で一層価値あるものにしていただければと思います。

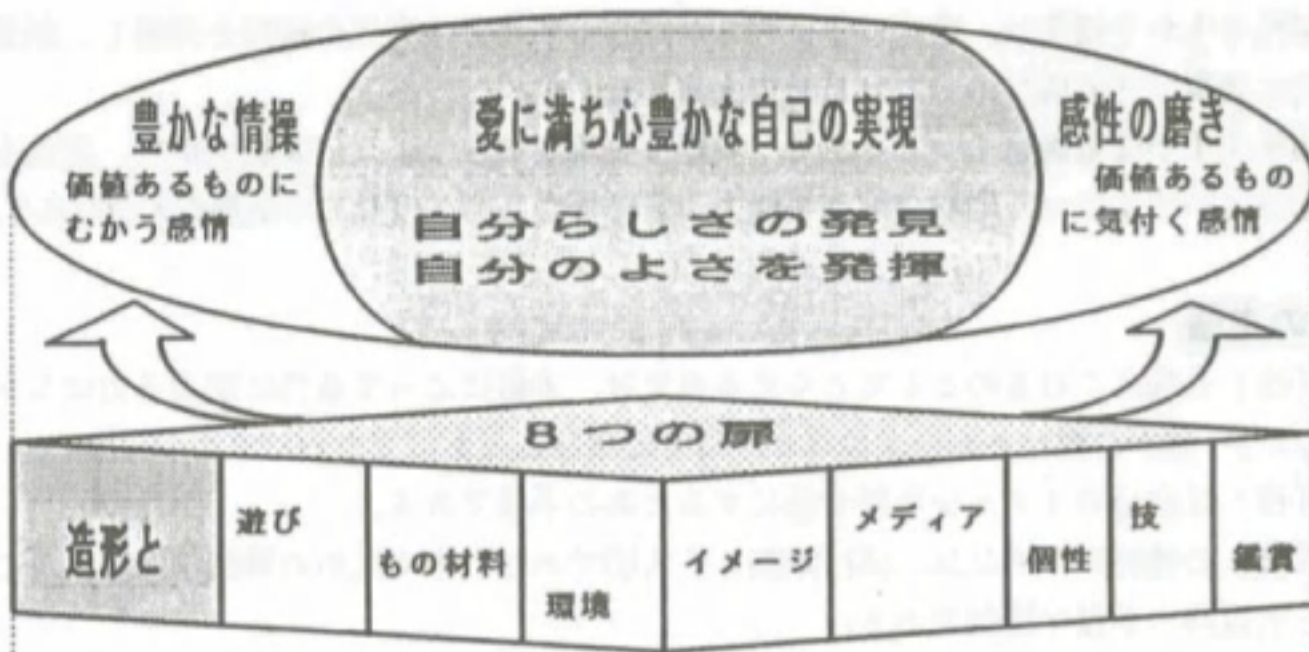
『札幌造形劇場』の開演です

昨年の石狩大会で研究主題の説明をした際、『子供主体劇団』が演じる学校劇場を例に造形教育の在りようを考えてみました。演出者としての教師と主人公の児童生徒が、対象や身近な材料・ものを通して、自らの心をより豊かに拓くことができれば、表現活動の喜びを実感し、成就感や達成感を自分のものとしてとることができると思っています。それが、一層自らの心を豊かに開拓していくことにつながるのだと思います。私たちは、さらに、そのことを通じて、近年一貫して掲げてきた連盟の4つの課題実現へ近づくものであると確信しています。

連盟の4つの課題

- ①子供が主体的に取り組み自らの願いや夢を実現してゆくような授業づくり。
- ②基礎・基本を重視するとともにその子らしさが遺憾なく発揮される教材の開発。
- ③人間教師として子供と共に成長を続ける造形教育を担う教師の資質向上。
- ④北海道の造形教育研究のアイデンティティー確立をめざしたネットワークづくり。

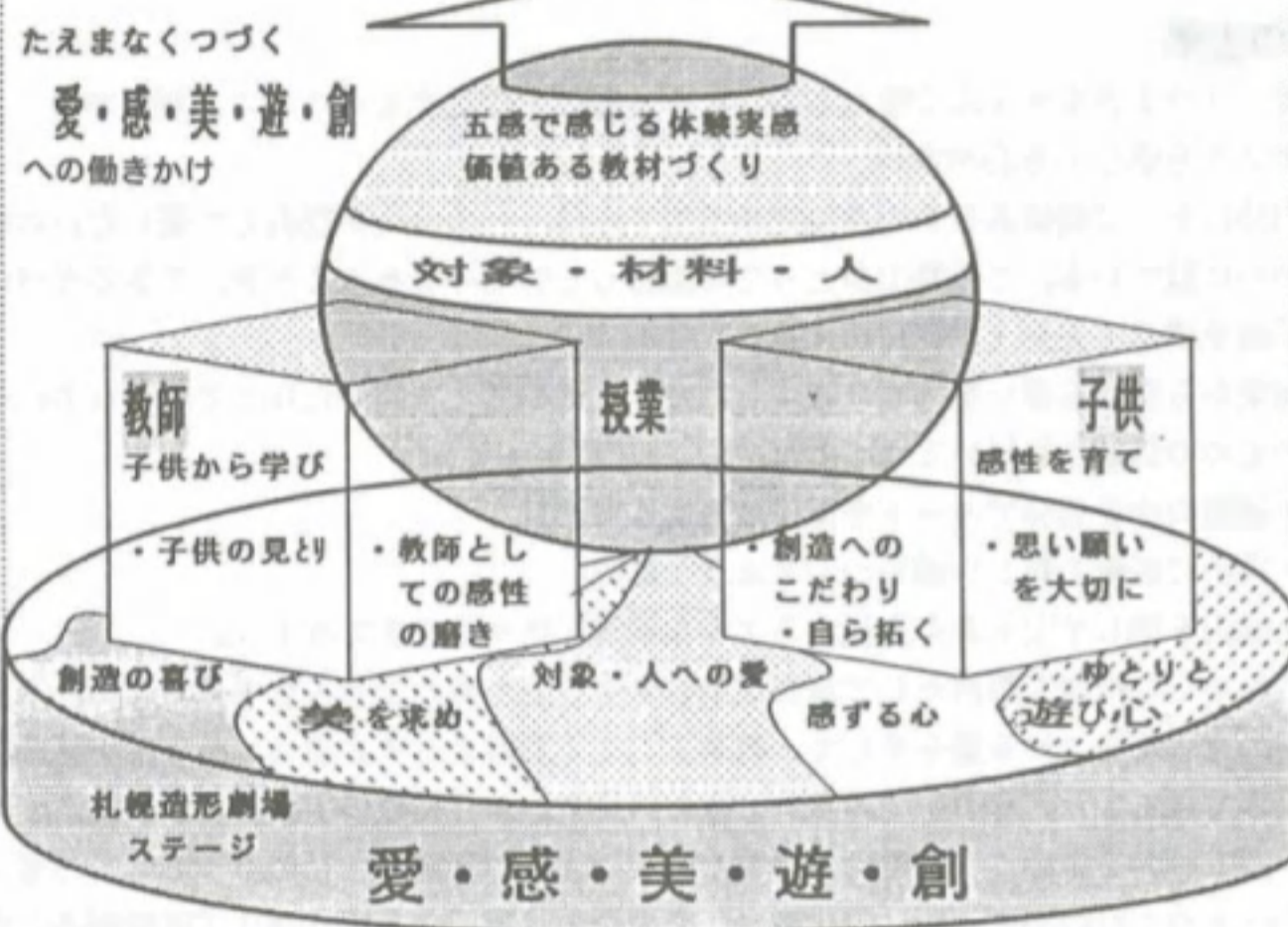
札幌大会が、全道の研究主題と課題実現に一步でも近づくものになればと考えます。



愛感美遊創ステージ  
札幌造形劇場の開演



◆ただの石が手の中  
で次第に兄弟のよう  
な存在になっていく  
「石の顔」(6年)



◆新しい素材が子供  
の創造性に火をつけ  
つぎに驚きと感動が  
「宇宙へ」(5年)



◆遊び心がいつしか  
真剣勝負になってい  
く。「一枚ください  
ね」と描む心が大切  
「本物はどれ」(5年)



◆冒険心と空想  
体験そしてらく  
描き体験がひと  
つになって  
「鳥島ワールド」  
(2年)



◆「八百屋さんをだま  
せるか」この板書が子  
供の遊び心と野菜にた  
いする思いの高まりに  
「野菜のはりこ」(5年)

〈文責〉全道大会札幌大会研究部長 菅原 清貴  
理論援助 札幌市立中学校美術部会 角力山 旭  
伊藤 尚  
阿部 時彦



## 研究主題の具現化

—研究主題と「8つの扉」—

### 研究主題と 8つの扉との関係

21世紀に生きる人間像を私たちは「愛・感・美・遊・創」としました。これは私たちが豊かな人生を送るためには欠くことの大切なものといえます。

豊かな心こそが、うるおいのある豊かな人生を保障してくれるといっても過言ではありません。その生涯にわたって育てていきたい「愛・感・美・遊・創」は学校教育においても、重要なものであることには変わりありません。

「いじめ」の問題も、殺伐とした心の現れに他なりません。

そこで私たちの研究の中心としている美術・図工教育においても、豊かな心を育てる人間形成がなによりの命題といえます。

### 日常の造形活動の 基盤になっている のは「愛」

人と人が触れ合う教育の場では、何より互いの関係が「愛」に満ち、互いに高めあえる関係になっていることが重要です。子供と一緒に感動し、喜びを共有できる関係こそが、造形活動を支えるものとなっています。

ある学校での授業公開で、こんな風景に出会いました。

1年生が校庭のウサギ小屋のまわりでウサギにさわったり、餌をあげたりして遊んでいます。そして、ある女の子が回りで見ている参観者の目を気にしながらそろそろと、担任の先生に近寄り耳元で、

「先生、あのね。ウサギの体ってふわふわで気持ちいいんだよ。先生もだっこしてみてください。」そうすると、先生は子供の指さす方に行き、子供と一緒にウサギに触れて、「ほんとだね。敬子ちゃん、おなかのところはもっと柔らかくて、温かいよ。」「ほんとだよ！どきどきしているよ。」……

など、互いに通じ合う感動がある授業が展開されていきました。ここに私たちがめざす教育の理念があります。子供と触れ合う心と心の交流があって、造形活動も成り立つのです。

### 8つの扉は互いに ネットワーク化さ れている

造形活動の分野は、「感動」を形と色で表すことといえます。遊びの延長に形や色の表現があっても、表現にいたる過程には、材料とのかかわりがあったり、イメージの拡充があったり、様々な広がりや幾重にも重なり合った、造形の「8つの扉」があります。

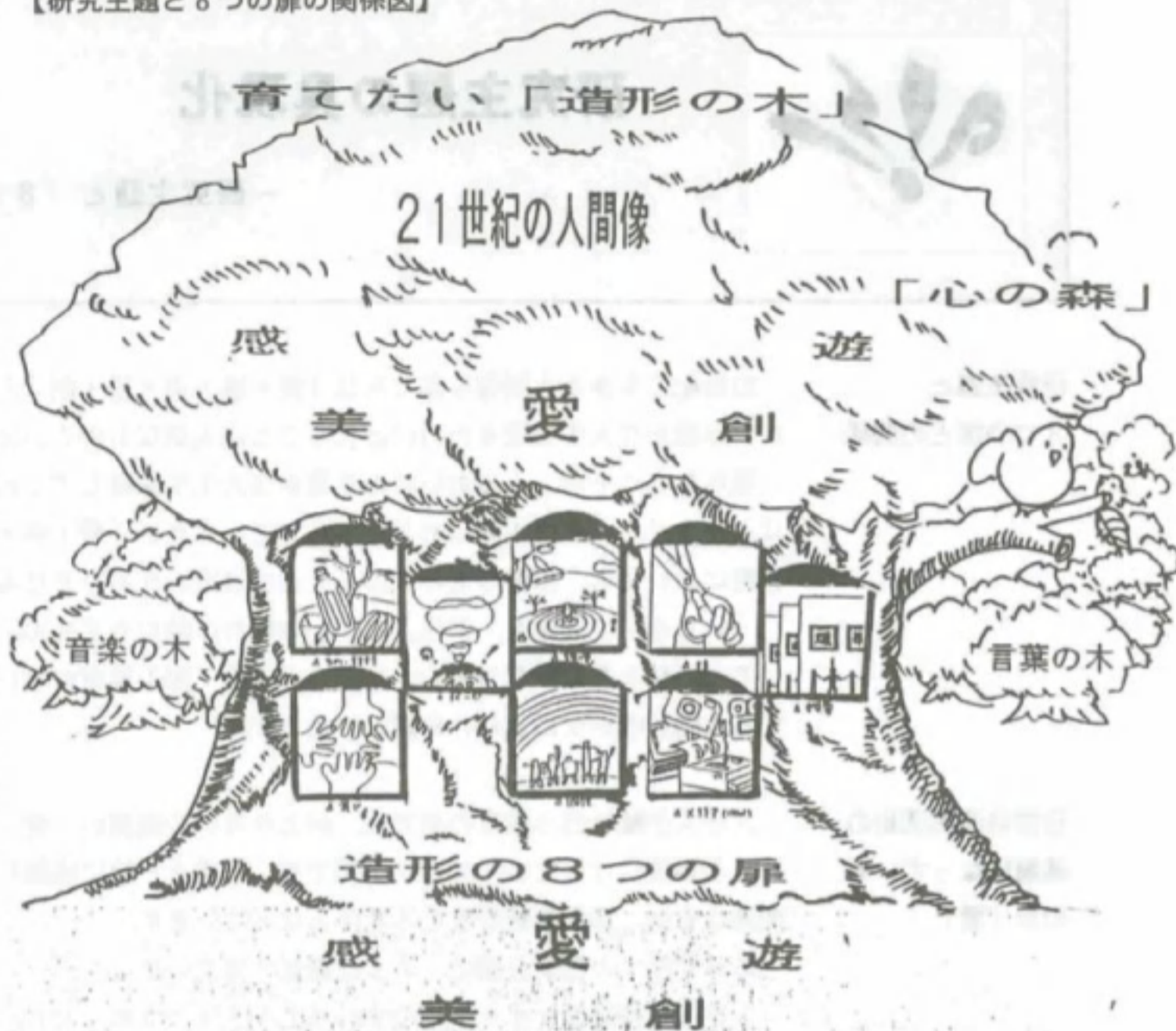
ですから、きっかけとしての扉は一つでも、互いに関連し合っているのです。その過程で「愛・感・美・遊・創」が大きく、そして豊かに育っていくのです。

よい環境の中で、豊かに育つ情操を私たちは、「8つの扉」から切り込んでいったのです。



育てたい  
「造形の木」  
豊かにしたい  
「心の森」  
【人間形成の木】

【研究主題と8つの扉の関係図】



子供を支える教師や親、社会環境

めざす授業像は  
「感動」のある授業

「8つの扉」を授業づくりの重要な要素として考えました。【教材化のポイント】どの「扉」を取り上げても、造形活動にとっては、大切なものです。たとえば、「遊び」は、活動の源にもなりますし、「ゆとり」ととらえることもできます。幼児においては、「生活」そのものともいえます。造形活動も、この「遊び」にもっと着目していくと活動の幅と可能性は更に拡大していきます。

見えないウサギが  
見える

「イメージ」も造形活動には、重要な要素です。

先のウサギの授業は、さらに続きます。参観者の誰もが、このあと教室に帰って絵を想像して描くのか、または、ウサギを連れていって見ながら描くのか予想しながら見ていました。そのとき、授業者はウサギを抱くようなしぐさをしながら、「みんなの大好きなウサギをだっこして教室にいこうね。」とまるで、ウサギが、そこにいるかのようにして教室に戻るのです。教師もまた同じように見えないウサギに語りかけ、イメージを広げていったのです。

教室に戻った子供たちは、見えないウサギに語りかけるように、画用紙にふわふわの毛をしたウサギをのびのびと描いていったのです。

日常の心の耕しが  
感動を生む

子供も教師も特に驚いた様子もなく当たり前のように活動するのです。日頃の心の耕しがここにあります。「感動」はこんな一コマにも表れるのです。

(文責 札造連授業研究部長 阿部 宏行)

## 「愛」を苗床とした「造形活動」

ときめき  
あこがれ  
よろこび  
やすらぎ

愛を  
テーマにした  
題材

いじめや不登校が増えています。社会が進歩し、生活がどんどん便利になり、そのスピードに心が追いつかなくて、しっかりと縫い込められなかったために出てきたほころびのようにも思えます。覚えることやできることばかりが大切にされてきた教育の結果とも見えます。

そう考えるとき、造形活動の受け持つ役割は、とても大きく、大事なんだと再認識されます。図画工作や美術など造形活動は、心を豊かにして生きていくことに直接的に関わっている教科だと思うのです。そうであるなら、心を育てるという視点をもう少し強く認識して学習を組み立ててみてはどうでしょう。

図画工作や美術など造形活動は「ときめき・あこがれ・よろこび・やすらぎ」のある活動であり、また、それを持たなければならない教科であるというお話を聞きました。まさにその通りだと思いました。そして、その底に流れていなければならないのは、「愛」なのではないでしょうか。

図工の学習で、4年生の子供たちなりに、心が温まるような学習を経験させたいと考えていました。ただつくるのではなく、つくることで自分の心の奥底にある愛するという気持ちを発見したり気づいたりする、そんな学習です。

### 小4年 題材名 「大好きな人へ」

～自分の大好きな人に、工夫してつくったメッセージを贈る～

「今、君やあなたの心の中で、とても大切にしている人がいるはずです。それは、お父さんやお母さんかもしれません。例えば、ある人は、今も病気がちで体が弱く、いつもお母さんに心配をかけていて、いつも看病してもらったりとても優しくしてくれることに、お礼がしたいのです。お礼とまでいなくても、ありがとうというメッセージを伝えたいのです。でも言葉で言おうとするとうまく言えません。それで何かをつくって、その中にメッセージを込めて、今のありったけの気持ちを伝えましょう。」

「ある人は、お兄ちゃんがいつも遊んでくれてうれしく思っている人がいます。わたしが友だちとけんかして悲しくても、そんなときには、遊んでくれます。そんなお兄ちゃんにありがとうの気持ちを伝えます。」

自分では意識しないでいる、心のどこかで、ありがたいとか、大好きだとか、頼りたいとか、そういう存在を、4年生なりに見つめ直してみる学習を考えてみました。これは、愛がテーマです。4年生には、愛というテーマはまだ難しいかもしれません。でも、4年生には4年生なりの愛というものの感じ方があると思いました。

**愛** ①親兄弟のいづくしみ合う心。広く、人間や生物への思いやり。②男女間の愛情恋愛。③かわいがること。めでること。大切にすること。④愛敬、愛想。⑤好むこと……愛唱歌、愛読書、愛好する。⑥〔仏〕愛欲、愛着、渴愛。⑦〔キリスト教〕神が人類に幸福を与えること。

**愛する** ①心がひきつけられ、慕う。いづくしみ、かわいがる。大切に思う。②特に、異性間で相手を慕う。恋する。③好きこのむ。……芸術を愛する。山を愛する。④適度にあしらう。⑤愛撫する。



## 材料に 愛をこめて

誰かのためにつくること、そして何より自分のためにつくることを大事にしながら、それを表現するために、どうしたらうまく表現できるか、子供たちは一生懸命に考えます。

心からの思いを持つことで、こんなものをつくりたいというものが、次第に形をもって出来上がっていきます。この材料はここで生きる。これを使うことでうまくつくることができる。というように、すなわち、自分の思い通りに材料を生かしていくという作業を通して、自然に子供たちは材料に愛着をもち始めることになるのです。

一度役目を果たし、捨てられてしまうガラクタたちが、もう一度役に立ってくれる。そんな経験を、自然に、意識しないうちに、獲得していくように思います。ものが大事にされていくという経験を積むことになるように思います。



## 愛と 美・感・遊・創

札造連の新しい方向のキーワードは、当初「美・感・遊・創」でした。この四つは、これからの造形教育において欠かせない大切な要素としておさえられました。しかし、不登校やいじめなど、時代はうねりを見せてあたらしい問題を投げかけてきていました。それに対応するテーマを探っているうちに、この四つの要素を有機的に結びつけるものとして「愛」という要素にたどりついたのです。「美・感・遊・創」といって、単に「美しければよい、感じるものがあればよい、遊びがあればよい、創造性があればよい」というのではなくて、そこには、「まごころ」や、「思いやり」といった良質の思いがこめられてこそ、初めて、札造連のテーマとして主張できるのではないかと考えたのです。

低俗な表現ではいけないと思います。心のないいい加減なつくりかたを育てる教科ではないと思います。ただ、つくればよい、表せばよい、上手であればよいという教科ではないと思うのです。

題材の開発や、授業の意欲付けなどで、子供たち側に立って考えることは大切ですが、そこには、子供たちに迎合しない確かなスタンスを持つことが必要です。今までの題材や、楽しい題材の開発でもこうした視点から見直してみることも必要だと思います。

(文責 札造連授業研究部中学年部長 土肥 宏充)

# 8つの扉

DOORS-8

7月 26日 (金)	感性 と 創造	札幌市立山鼻小学校	札幌みなみ幼稚園
7月 27日 (土)	感性 と 学び	北海道立近代美術館	北海道立三岸好太郎美術館



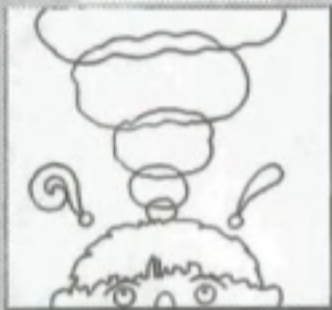
造形と遊び



造形ともの・材料



造形と環境



造形とイメージ



造形とメディア



造形と個性



造形と技

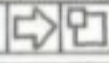


造形と鑑賞

- 階段式授業公開 ▶
- エントランスフリー ▶
- エグジティブフリー ▶
- バイキング式分科会 ▶
- グループピング
- 交流会 ▶
- 全道ネットワーク ▶
- 表現講演会 ▶
- アートレッスン ▶



美術館と大会



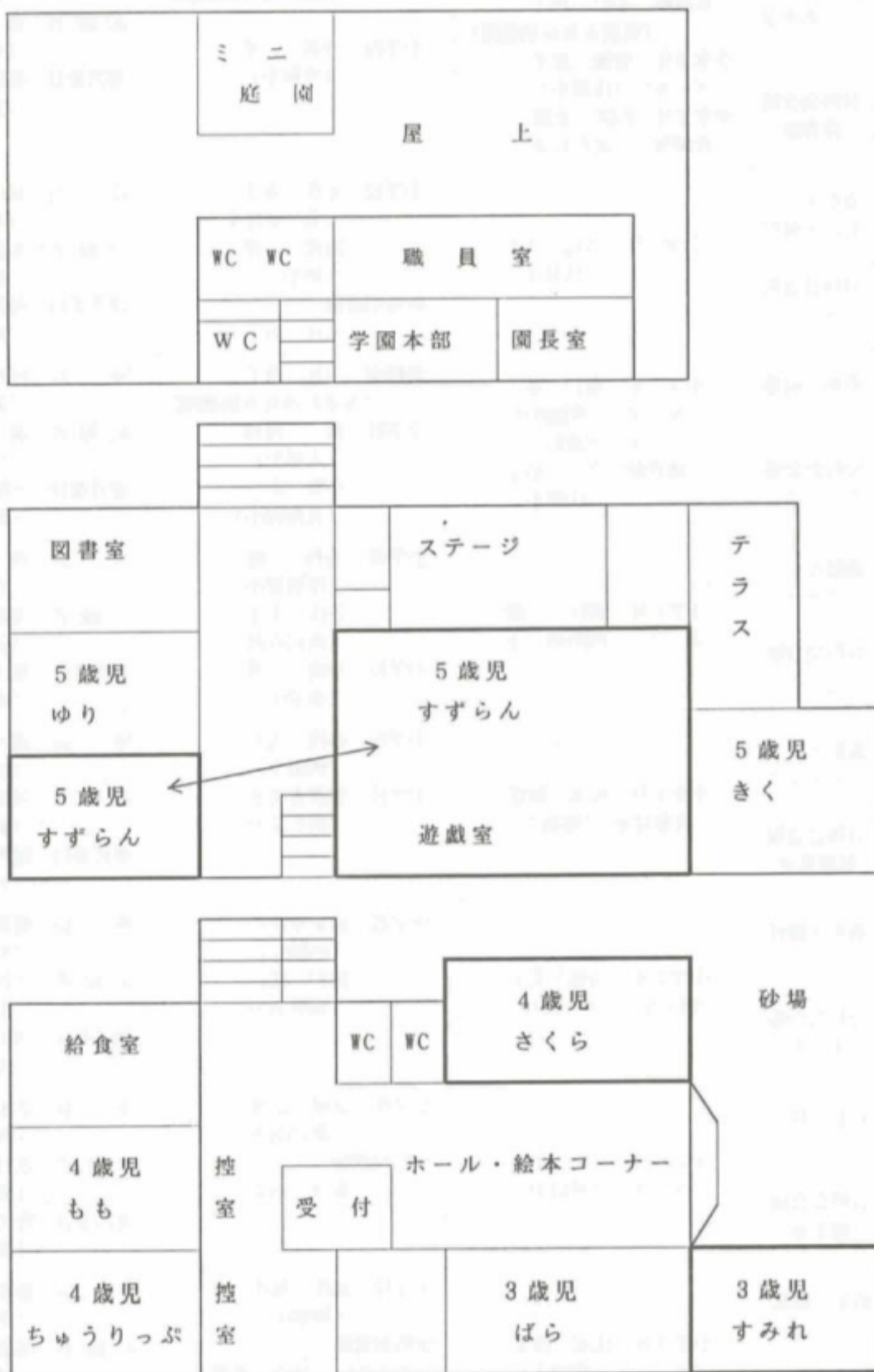
第46回  
全道造形教育研究大会  
研究主題

造形=愛・感・美・遊・創  
in 札幌

7 / 1996  
26日 (FRI)  
27日 (SAT)

	扉	公開授業〈授業会場〉	提 言 者	備 考
1	造形と あそび  分科会会場 体育館	幼稚園：(会場：札幌みなみ幼稚園) 年少組 上村 治子 年中組 原田さゆり 年長組 小口 典子 (札幌みなみ幼稚園) 小学2年：廣瀬 恵子 〈プール〉(山鼻小) 中学2年：向井 正樹 〈音楽室〉(北白石中)	幼稚園：三浦かおり (札幌みなみ幼稚園)  小学校：今谷 孝 (平和小)	座 長：佐藤 靖 (日新小) 記 録 者：藤 はずみ (白石中) 運営委員：篠原 寛 (宮の森小)
2	造形と もの・材料  分科会会場 5-1	小学2年：川島 正夫 〈2-1〉(伏見小)	小学校：元茂 章子 (美しが丘小) 富波 修 (旭小) 扉特別講師 永井 智子	座 長：富田 泰 (屯田西小) 記 録 者：加藤 正幸 (新琴似北小) 運営委員：稲實 順 (創成小)
3	造形と環境  分科会会場 5-2	小学5年：堀口 基一 〈6-2〉(明園中) ジャンボ造形 〈体育館〉今 裕子 (山鼻小)	幼稚園：中村 直子 (ときわみなみ幼稚園) 小学校：東 尚典 (大通小) 小野 正二 (札幌緑小)	座 長：村谷 利一 (栄南中) 記 録 者：森 美由紀 (いなづみ幼) 運営委員：土肥 宏充 (厚別北小)
4	造形と イメージ  分科会会場 5-3	小学6年：押田 一郎 〈3-2〉(西野第二小)	小学校：毛利 聡 (厚別東小) 谷山 圭子 (西宮の沢小) 中学校：白崎 博 (東栄中)	座 長：西 寛 (青葉小) 記 録 者：澤波 隆信 (前田中央小) 運営委員：桜田 豊 (幌西小)
5	造形と メディア  分科会会場 視聴覚室	小学6年：松本 和彦 〈視聴覚室〉(稲積小)	小学校：湯浅 大吾 (新陽小) 中学校：黒柳恵利子 (南が丘中)	座 長：武市 尚政 (上野幌中) 記 録 者：阿部 俊樹 (新陵小) 運営委員：館内 徹 (平岡中央中)
6	造形と個性  分科会会場 4-1	中学1年：高橋久美子 〈図工室〉(宮の森中)	小学校：山室ゆかり (西岡小) 岡田 知之 (藤野南小)	座 長：奥野 邦男 (向陵中) 記 録 者：古谷 壽朗 (苗穂小) 運営委員：合田 典史 (前田北中)
7	造形と技  分科会会場 図工室	中学2年：石川 早苗 〈6-3〉(琴似中)	小学校：富樫 信博 (藻岩南小) 扉特別講師 森川 昭夫	座 長：芝木 秀昭 (西野第二小) 記 録 者：浅井 邦昭 (陵北中) 運営委員：野切 卓 (附属小)
8	造形と鑑賞  分科会会場 4-2	小学4年：氏家 珠実 〈3-3〉(桑園小)	中学校：岡澤 邦彦 (附属中) 扉特別講師 造形作家 松原 成樹	座 長：藤井 正治 (東園小) 記 録 者：田辺 詩恵 (緑丘小) 運営委員：箭内 浩之 (幌西小)

# 札幌みなみ幼稚園授業会場



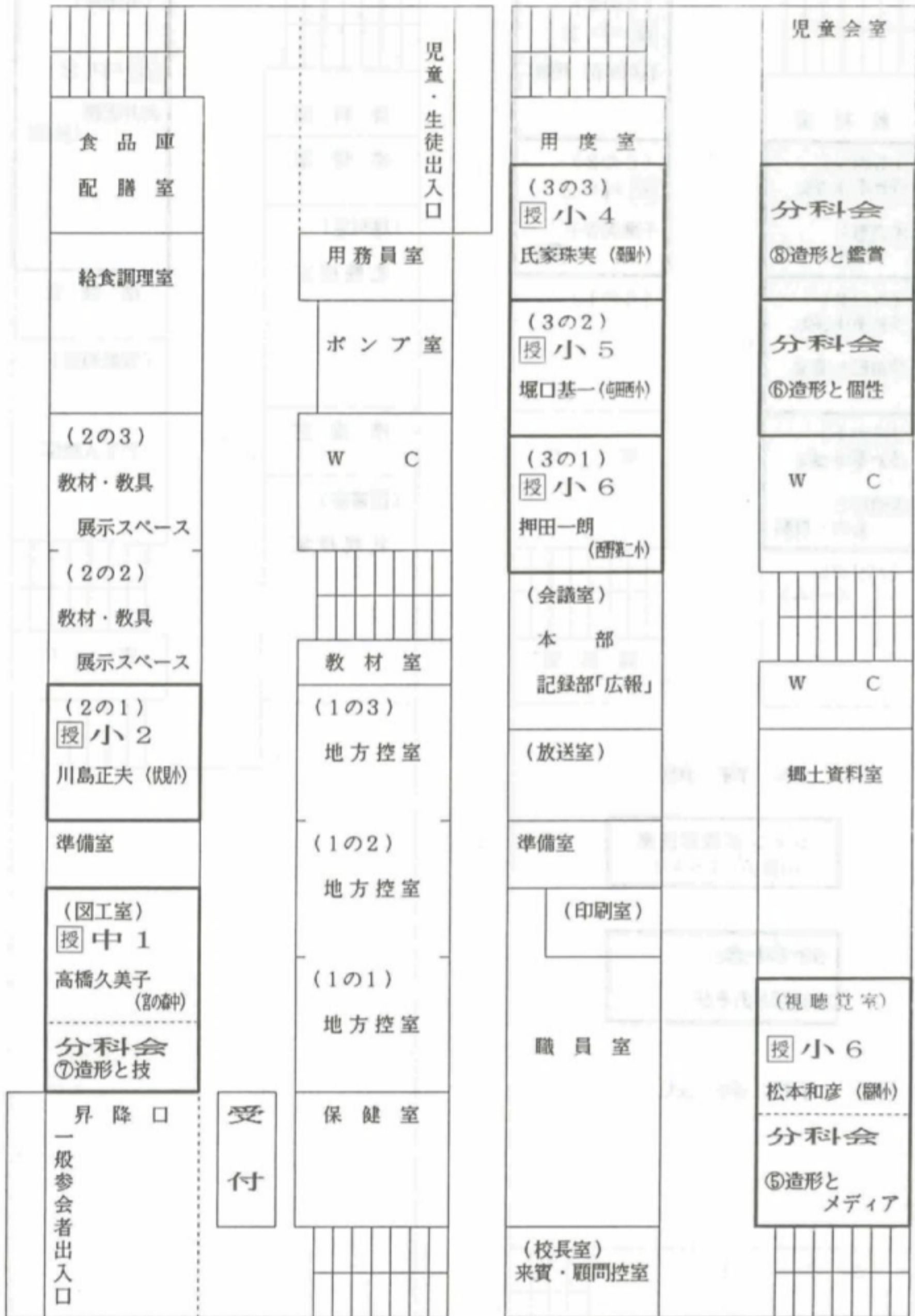
(プール) 授小2

廣瀬 恵子

山鼻小学校 会場図

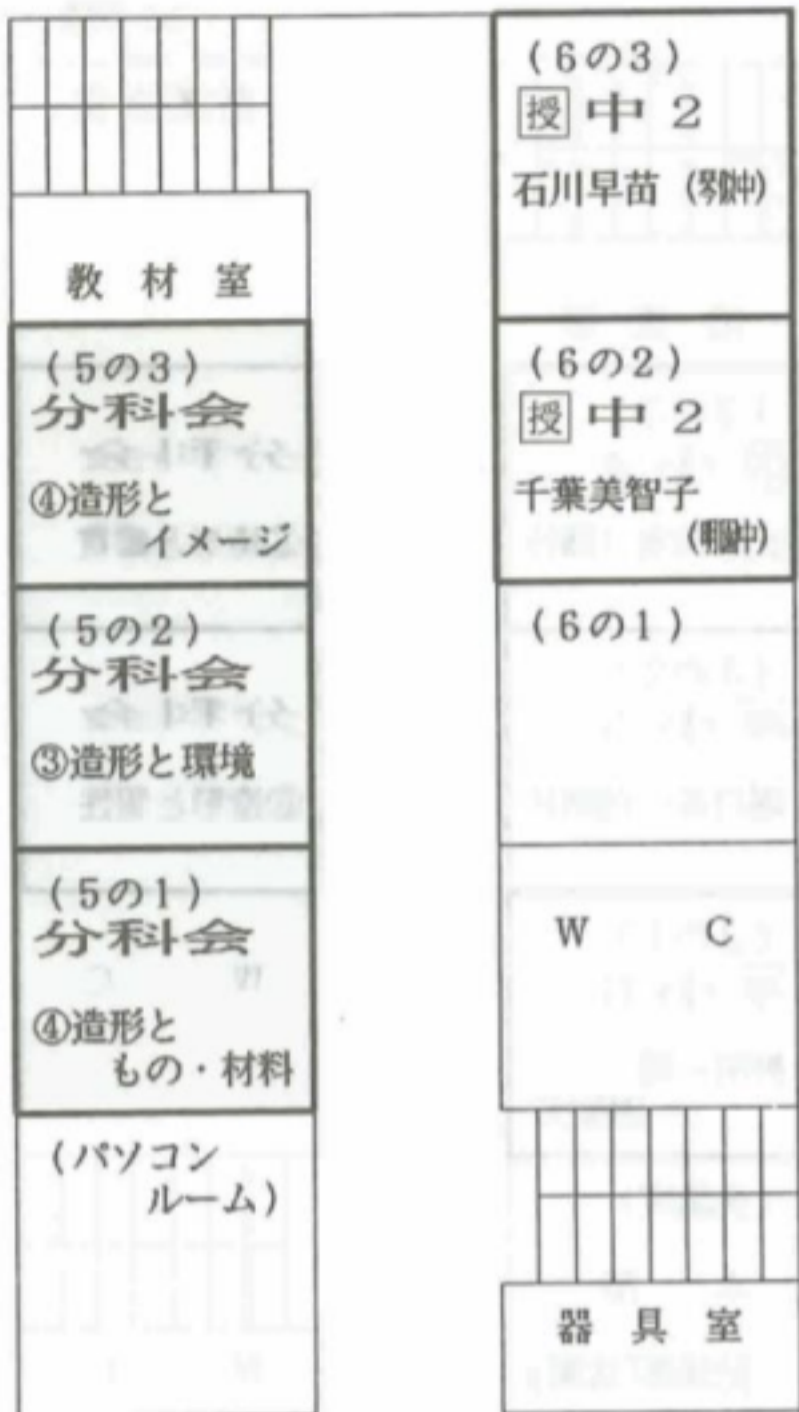
1 階

2 階





3階



体育館

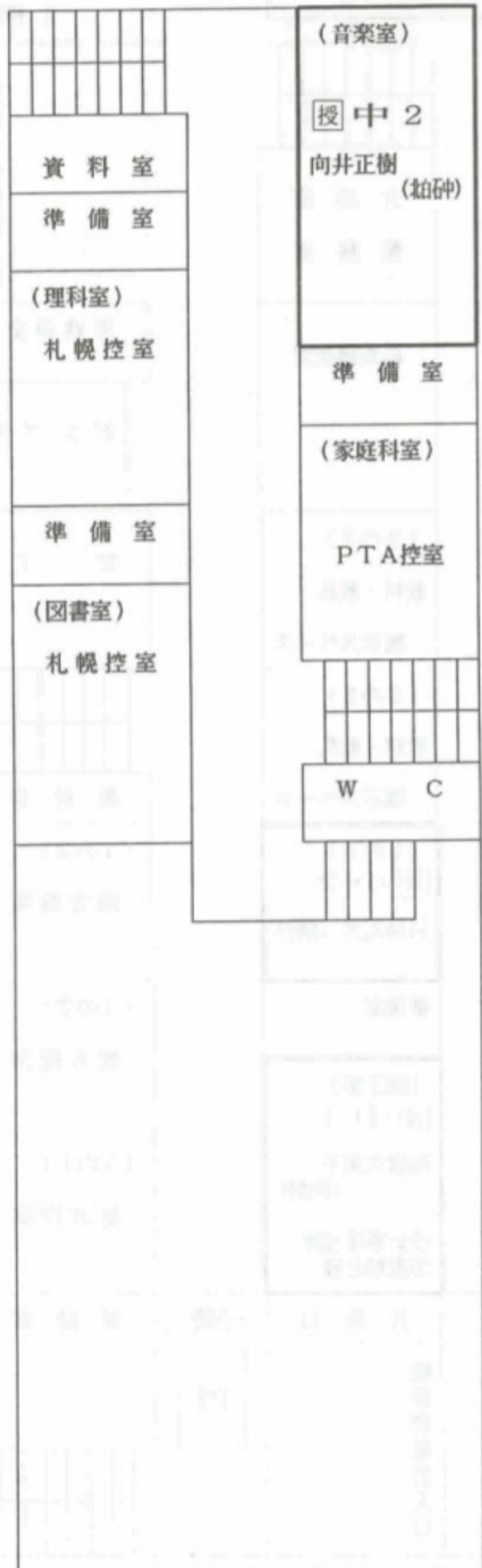
ジャンボ造形授業  
山鼻小 1～6年

分科会  
①造形とあそび

開会式

ステージ

4階



造形と遊び

造形ともの材料

造形と環境

造形とイメージ

造形とメディア

造形と個性

造形と技

造形と鑑賞



## 第1の扉（ドアーズ1）

# 造形と遊び



11:20 12:20(昼食)13:00 14:00 14:10

15:00 15:10

16:00

	扉オリエンテーション	授業の話し合い	第1ステージ		第2ステージ
1 造形と遊び	○扉の主張 ・紹介 ・授業について 進行 篠原 寛	◎授業から 上村 治子 (札幌みなみ幼稚園) 原田さゆり (札幌みなみ幼稚園) 小口 典子 (札幌みなみ幼稚園) 広瀬 恵子 (山鼻小) 向井 正樹 (北白石中)	○授業についての話し合い	提言について ○提言1 三浦かおり (札幌みなみ幼稚園) ○提言2 今谷 孝 (平和小)	○提言と話し合い

造形と  
遊び

造形と  
もの材料

造形と  
環境

造形と  
イメージ

造形と  
メディア

造形と  
個性

造形と  
技

造形と  
鑑賞



これ勉強なの？遊びなの？楽しくってしょうがないよ。

遊びと  
造形表現

「遊び」…子供にとっては毎日の生活そのものです。遊びは楽しいものです。楽しいから誰もが喜んで熱中してしまいます。遊びは子供から大人まで必要不可欠なものです。特に大人になるほど遊びを意識して生活しなければなりません。遊びは心のゆとり・心の楽しみ・新たなエネルギーを生み出すもとになるのです。

現代社会は、高度成長によって学歴重視のあまり、心がゆがんで、いろいろな問題が生じてきています。

今の社会だからこそ、豊かな情操教育が必要になり、自分の内面を豊かに造形表現するためにも「遊び」を造形教育に取り入れることは必要なのです。

幼稚園から高校まで一貫した「遊び」を取り入れた造形教育の必要性こそ広めていかなければなりません。

遊びは本来無目的なものです。造形表現に取り入れる「遊び」は子供にとっては無目的かもしれませんが、教師側にとっては豊に造形表現するための「遊び」であり目的を持っています。

体験学習からエネルギーギッシュな活動に

まず「遊び」を取り入れることにより、興味・関心を持たせるという目的があります。さらに「遊び」ですから、全身をつかっての活動になります。この子供に興味・関心を持たせる全身活動こそが造形活動にエネルギーを与え、エネルギーギッシュな活動へとつながっていくのです。活動にエネルギーを与えられた子供達は、もっと楽しく遊びを発展させていく中で、造形活動に工夫が見られるようになり豊かな表現へと活動は広がっていきます。

造形の一人歩き

さらに造形活動に「遊び」を取り入れることにより、「遊び」という活動を保証された子供達は、自分の思いで、あるいは友達といっしょに「遊び」という全身活動が教師の手を離れ、一人歩きを始めます。同時に、造形活動も一人歩きを始めるわけです。遊びに夢中になって、いつのまにか造形活動が膨らみ、広がり、子供の無限の可能性を引き出します。

遊び感覚で表現する子どもようす

でかくしたり、小さくすると？

「普通の大きさ（広さも）ものすごく大きくしたり、反対に小さくしたら」と考えるだけで楽しくなり、やってみたくくなります。

小さくしたらガリバーになった気分、大きくしたら小人になった気分になる。こんな「遊び心」を刺激すると…。



「ガリバーに着せる服を作ってあげよう」

ガリバーのお話から「小人の国の人達にとってガリバーはどのくらいの大きさなんだろう？」と絵本を参考に話し合います。

「服のボタンと人間が同じくらいだよ」「それなら体育館いっぱい大きさの服でなきゃ着れないね」「何で作る？」「どうやって作る？」子供の思いはどんどん膨らんで、体育館いっぱいのでっかい服が…。「小人の国の人達からみると、ガリバーってこんなに大きかったんだ。」感動と作った満足感がいっぱい。

「ドラえもんからスモールライトを借りられたら？」

ドラえもんのポケットに入っているスモールライトがもし本当にあったら？「どんなことしたい？」「なんでもスモールライトで小さくなったらおもしろいね。」「町を小さくして作ってみよう」「どんな町にする？」「建物」「公園」「乗り物もあったらいいね」「空飛ぶ乗り物がいい」「なんでつくる？」「なんだか大男になって町の中を歩いているみたい」「8ミリビデオに撮ってSF映画をつくってみるのもおもしろいね。」「それなら脚本も作って練習しなくちゃ」ただ作るだけではおもしろくない。遊びながら夢が広がり、遊びながら作っていく。作ったもので遊ぶ。遊ぶために作る。



「造形と遊び」学習指導案

題材名 「冒険に出かけよう！海の中ってどんな世界？」

指導者：上村 治子



題材について

この期の子どもは、身近にふれるもののすべてを遊び道具にしてしまう。そこで、ここでは題材として新聞遊びを取りあげてみた。

新聞を広げたり、つないだり、もぐったり、隠れたりしながら、イメージを作っていく楽しさや、新聞の形を変えながら、あそびに参加していく喜びを活動体験させてみたい。

扉との関連

新聞は身近なものであるが、子ども達にはどういう存在だろうか？  
既成のあそび道具ではないもので、遊びができることを知り、身近かにも、そして、あそびそのものにも、興味や関心が生れ広がってくれることを期待したい。

指導計画

- 第1次-新聞をちぎる。丸める。・・・“てるてるぼうず”づくり(1/3)
- 第2次-新聞をまく、広げる、丸める。・・・ゲーム遊び(2/3)
- 第3次-新聞紙あそび・・・公開保育日(3/3 本時)

本時の目標と展開

◎形が変化していく新聞あそびに、楽しく参加していく。

幼 児 の 活 動	保 育 者 の か か わ り
○登園 ・朝の会 ○新聞あそび <ul style="list-style-type: none"> <li>・広げる…その上に座る。寝る。</li> <li>・つなげる…大きく広がったことの驚き。</li> <li>・もぐる…体を見せないように隠れる。</li> <li>・隠れる(新聞は平面の状態)</li> <li>・ぐちゃぐちゃにする。</li> <li>・たくさん丸めたものが加わる。</li> <li>・その中に体をうずめて遊ぶ。                          ※海のイメージ——(立体の状態)</li> <li>・かたづけ</li> </ul> ○・帰りの会 降園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶を交わし、個々に視診していく。</li> <li>・そっと広げてみる。破れても大丈夫だと話す。                          漠然としたイメージを、広げたことで海へとつなげていく。</li> <li>・海の中へ探険に出かける。                          沢山の新聞が加わったことで、期待感を持ちながら、探険を進める。新聞の海の中で、充分体を動かせるように、教師が体で示し、促したり、声をかけていく。</li> <li>・かたづけは、海と切り離して進める。                          気がつく動物に変身していることを知る。                          又、遊ぶことを約束して、今日を終わる。</li> </ul>

## 「造形と遊び」学習指導案

題材名 「つれたよ！つれた」～さかなつりをしよう～

指導者：原田さゆり



### 題材について

子ども達にとって、さかなは身近でとても親しみやすいものである。日常の保育で取り入れている絵本の読み聞かせの中でも、いろいろなさかなとの出会いがありイメージをふくらませていくきっかけができていく。そこで自分達で想像して作ったさかなを釣って遊ぶ事でさらに楽しい活動となっていくことが期待できる。

### 扉との関連

「さかな」という題材での活動の中には、自分がさかなになって遊ぶという身体表現も入れてみた。それは今まで出会ったさかなをイメージしたり、保育者の言葉がけでいろいろなさかなを表現して楽しむ遊びの広がり考えたからである。又、粘土や折り紙でさかなを作って遊んでいくうちに、もっと違う素材を使ったり、立体的なものを作りたいという要求も出てくるだろう。このような活動を通して、自分達で作ったさかなをみんなで釣って遊ぶ事は、さかなを作った満足感や作ったもので遊ぶ楽しさを知る事ができると考えた。実際に自分で作った物で遊ぶ事は、子供達が積極的に遊びに参加するきっかけにもつながると考える。

### 指導計画

第1次-さかなになって遊ぶ（1/5）

第2次-いろいろなさかななどをつくる（2/5～4/5）

第3次-さかなつりをして遊ぶ（5/5 本時）

### 本時の目標と展開

◎自分で作ったもので遊ぶ楽しさを知る。

◎積極的に遊びに参加し、さかなつりを楽しむ。

幼児の活動	保育者のかかわり
○登園・朝の会	・挨拶を交わし、個々に視診していく。
○さかなつりをする	・楽しくさかなつりをして遊べるように配慮する。
・今までの活動を振り返り、さかなつりに興味を持つ。	・積極的にさかなつりに参加できるように言葉がけをする。
・池にさかなを泳がせる。	
・自分のつりざおを持ち、さかなつりを始める。	
・さかなを釣って楽しむ。	
・かたづけ	
○・帰りの会 降園	・次回の遊びに期待を持たせて、降園する。

公開保育 「造形と遊び」 5才児年長組(32名) 札幌みなみ幼稚園

## 「造形と遊び」学習指導案

題材名 「わぁ～！ とびだしてきたのは、な～んだ？」

指導者：小口 典子



### 題材について

この期の子どもは、夢や想像への好奇心がとても強い。そこで題材として子ども達がとても興味をもっている「おばけ」を取り入れた。一人ひとりの子どもが、おばけやしきのイメージの世界に入りこみ、身近材などを利用して楽しみながらいろいろな物を考え作っていくことは、遊びの世界へのいっそうの広がりが期待できる。

### 扉との関連

新聞をびりびりやぶいて体につけたりダンボールでおばけの家をつくったりしているうちに、子ども達はおばけになりきり遊びはじめる。お部屋をとびだし、おばけやしきに変身し、暗くなったお遊戯室は、子ども達の想像的な遊びの世界をいっそう広げていくものとする。

### 指導計画

- 第1次-新聞あそびでイメージを持つ(1/5)
- 第2次-大道具やおばけをつくる(2/5~3/5)
- 第3次-道順やお約束などを考える(4/5)
- 第4次-おばけやしきで遊ぶ(5/5 本時)

### 本時の目標と展開

◎おばけやしきをみんなで完成させ、おばけ役、お客さんになりきって、全身で楽しむ。

幼児の活動	教師のかかわり
○登園・朝の会	・挨拶を交わし、個々に視診していく。
○おばけやしき	・活動を振り返り、おばけやしきに期待を持たせる。
・今までの活動を振り返る。	・雰囲気盛り上げるよう声をかけていく。
・ルールを確認する。	・けがや危険がないよう配慮する。
・おばけやしきをつくり楽しく遊ぶ。	・楽しい雰囲気を進める。
・おばけ役、お客さんになりきる。	・次への期待をもたせる。
・かたづけ	
○・帰りの会 降園	・みんなでかたづけをする。

公開授業 「造形と遊び」 小学2年 札幌市立山鼻小学校

## 「造形と遊び」学習指導案

題材名 「いろ・いろ・へんしん」

指導者：廣瀬 恵子



### 題材について

太陽が燦々とふりそそぐ暑い夏。プールに入って、全身で楽しく水遊びをしている子供たちの姿。水遊びは子供たちにとって、正に切っても切り離せない遊びの一つなのである。この水遊びをヒントにして、身近にある空き容器のペットボトルに水と絵の具を入れ、色水をつかって遊ぶということを考えてみた。子供たちは自分の思いに合せた色水をつくり、プールの中で浮かしたり沈めたりひっぱったりして遊ぶであろう。そのうち次第に、新しい色水を考えたり・水の量を加減したりして、並べる・積む・あるいは色水の美しさに気付いて、お城や遊園地や舟などをつくったりするであろう、と考えている。そういう意味からしても、この題材は子供たち一人一人が遊びながら思いが広がり、発展的な造形表現へと展開されると考えている。

### 扉との関連

色水遊びをプールという場で行うことによって、水をふんだんに使うことができ、しかも水着で活動するため衣服の汚れに気遣うことなく、ダイナミックに遊びができる。またプールの中での遊びは、プールサイドでの並べる・積む・転がすなどの他に、浮かす・沈める・ひっぱるといった新たな要素が加わり、より一層遊びに興味・関心がわいてくる。そこには、自分の思いで・あるいは友達と一緒にになって、全身を使って豊かな造形表現が見られると考える。

### 指導計画 70分

- ・ペットボトルに色水をつかって遊ぶ (70分)
- (ペットボトルは事前に集めておく)

### 本時の目標と展開

目標 ◎色水を思いのままにつくり、それを使って楽しく遊ぶことができる

おもな学習活動	教師のかかわり
○ペットボトルに思い思いの色と水を入れ、色水をつくる。 ・色水づくりに夢中になる子もおおいに考えられる	・子供にとって必要のありそうなものは、事前に用意しておく。
○色水の入ったペットボトルで、自由に遊ぶ。 ・プールの中に入って浮かす・沈める・引っ張るなど ・プールサイドで並べる・積むなど ・一人であるいは友達と一緒にお城・迷路・遊園地など何かをつくる子 ・色の美しさに感動する子	・濁りのない色、水の量と浮き沈みなどは、遊びの中で個人的に関わっていく。
○必要に応じて新しい色水をつくり、思い思いの遊びを続ける ○楽しく遊んだことを発表する。	・評価方法 色水づくりを楽しみ、それを使って楽しく遊ぶことができたか。



公開授業 「造形と遊び」 中学2年 札幌市立北白石中学校

「造形と遊び」学習指導案

題材名 「〇〇舞の頭（かしら）をつくろう。」

指導者：向井 正樹



題材について

【造形と遊び】単に遊び道具をつくらせるのではなく、造形活動そのものを遊ばせてみたい。また、その活動が子供達の「表現」でありたい。

【遊び】ここでいう遊びは、発展的で総合的なものと規定します。完結し閉じてしまうのではなく、次々と他の活動につながっていくものにしたいのです。制作は6～7人のグループで、身体の動きや思考、情緒が交錯して、総合的な活動として進んでいきます。

扉との関連

【張り子】針金、凧糸、木工ボンド、和紙、のり、その他身近材など手に入りやすい材料で、割合容易に立体がつくれ、骨組みを丈夫にすれば、大きなものも可能であることからこの指導を計画しました。伏線として、学校祭や修学旅行「ねぶた」見学への発展も期待しています。

「遊び」は創作の出発点

【舞】「張り子」が、この授業の出発点ですが、それに動きと音の要素を加えて楽しい「獅子舞」のようなものにしようと思いました。班ごとに、動物の頭部（架空の生物も含めて）を制作させ、音楽も自分たちで選ばせて振り付けまで取り組ませたい。

指導計画 12時間

第1次—イメージスケッチをする。〔1時間〕 第2次—計画決定、役割分担。〔1時間〕 第3次—針金骨組み。〔3時間〕 第4次—紙貼。〔2時間〕 第5次〔本時〕—彩色、装飾。〔2時間〕 第6次—舞。〔2時間〕

本時の目標と展開

目標 ◎楽しい彩色をさせる。一形と色と音の合成を楽しもう。

おもな学習活動	教師のかかわり
① 仕事分担 確認、色をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 進度確認</li> <li>• 題材提示 作例提示 (VTR)</li> </ul>
② 下絵にしたがって手分けして彩色を開始する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 彩色指示</li> </ul>
③ 持ち寄った身近材をならべて相談/装飾開始。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 装飾指示</li> </ul>
④ 音楽に乗って動かして観て相談/装飾。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• BGMとして舞の音楽</li> </ul>
⑤ モデルグループ舞う → 「舞」のイメージを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 作例提示</li> </ul>

計画は場合によっては、変化していくことを指導者側は許容していく。発展的な変化を期待する。

遊びの山場

提 言 「造形と遊び」

5才児年長組(32名) 札幌みなみ幼稚園



題材名 「ステキに変身! だいへんし〜ん」

指導者: 三浦 かおり

### 扉との関連

子ども達の生活の中心は遊びである。その遊びの中から造形活動が始まるので、それを保育者が援助しながら発展させていくことが必要となってくる。子どもの遊び心を壊さずに育てていくために特に興味、関心のあるものを取り上げ、更に身近な材料を取り入れていきたいと考えた。そこで子ども達の大好きな変身ごっこに視点をあててみた。

### 実 践

変身ごっこを題材とし、子ども達に好きな動物を選ばせた。前日、子ども達にどんな動物に変身したいのか、なげかけておいたので当日は抵抗なく動物を選ぶことができた。まず、自分達でお面を作る。お面をつけただけで子ども達は想像の世界に入りこんでいき、ライオンの子がうさぎの子たちを追いかけたり、といった劇ごっこの的なものへと発展していった。そこで、もっとステキに変身しようということで服作りを提案し作り始めた。材料は新聞紙、身近材等を使用した。子ども達の意欲をもっと高めるためにスズランテープ、紙テープ、ビニールテープを用意し、作った服への装飾も出来るように工夫した。女の子は服に色々細かい飾り、男の子は、剣や靴などを作った。服ができあがった後、みんなで見せあい、リズムに合わせて自由奔放に創作し踊ったりもしたのでとても楽しい活動となった。



### 考 察

今回は「ちぎることと、くっつけること」が主活動であったが、今後は「ねじることや、つなげること」も活動の中で子ども達ができるように援助していきたいと考えている。作りながら遊びが変化していき、その中で工夫が生まれ、飾りが増えるたびに変身をより自分のイメージへと近づけていくことで遊びが盛り上がっていき、ただ変身するだけでなく絵本の中の登場人物になりきって劇ごっこなどに発展できればと考えている。

子どもの造形活動は遊びの世界へと直結している。したがって、結果ではなくあくまでも創る喜び、創りだす感動の過程が大事でそこにいきつくまでが一番期待感があり盛り上がる場所である。

提言 「造形と遊び」

小学校1年 札幌市立平和小学校



題材名 「なげて、つなげて」

指導者：今谷 孝

### 扉との関連

### 造形遊びの要素

### 実践について

入学前に様々な素材にふれ、遊びを通した集団化を経験している子が多くいる。1年生の週2時間の図工の時間は少ないと感じている子が多いようである。風や砂、地面、新聞紙、絵の具などを素材に「造形遊び」をすると、生き生きと取り組む姿がある。造形遊びを考えると、活動そのものに価値がある、繰り返してする遊び的安心感がある、結果として残らないが過程に熱中できる、教室を出て違った場所で楽しさを味わう、身近なものが道具になり材料になる、自分の体を基準にした全身的活動、友達と一緒に活動できるなどの要素があげられる。

この題材「なげて、つなげて」もその要素を含む、玉を投げ、落ちた所に釘を打ち、紐でつなげていく活動です。投げた玉の行方で、紐が交差しながら出来上がっていくのを楽しむのです。そして、それを使って、みんなで遊ぶことができることをねらっています。

用意するのは、釘(10cmくらい)、スズランテープ、金槌、紅白玉。当日は、リレーの練習のためにトラックの線が引いてあったので、その上に間隔を開け、紅白玉を置いて、場所を決めました。次に、玉の位置に釘を打ち、紐のはじをむすびつけます。なかなかうまくできない子には、自然と近くの子が教えにっていました。テープをトラックの外側に伸ばしたところで、グラウンド横の丘に登って見ると「なんかワラジムシみたい」「おおきいなあ」と声をあげていました。いよいよ玉を投げ始める。みんなで一斉に投げて、落ちた所に釘を打ちます。トントントンと浅すぎず深すぎずにと金槌を振り始めます。スズランテープを釘に結び付けるのに、ピーンと張れない子も周りの子に教えてもらいながら、活動を進めていきました。遠くに投げる子、一直線を意識する子、どんどん曲げていく子。広いグラウンドに4色のスズランテープが並び始めました。テープがなくなったら、自分で切って付け足します。グラウンドがテープでいっぱいになってきたら、「上から見てみたい」との声。みんなであがって見ると、初めの揃った美しさと違うので「なんか変」「真っ直ぐでないのがある」とちょっと不満の声。誰かが「あの上で鬼ごっこしてみたいな」と声を出した。

「いいね」「線踏んだら鬼になる」と話が弾む。望んでいた展開ではあったが、自然と出てきたことに驚きながら、「鬼につかまらない所があったらいいねえ。さんかくみたいに線で囲まれて所は安全地帯で鬼が入ってこれないようにしてもいいねえ」と声をかけると、「やろう」「あるよ、それ」と声を弾ませて、再びグラウンドへ。みんなが「ここ」「これもかこまれてる」と安全地帯を探し始める。中休みが近づき時間が

なくて、教師が石灰で印をつけたけれど、子供たちにさせてあげたかった。鬼を決め、10数えて鬼ごっこが始まったが、線を踏まないように走り、安全地帯によって楽しくふれあう遊びができた。みんなで釘を抜いて、スズランテープを集めるといつものグラウンドに。「楽しかったなあ」「もっとつけたかったなあ」という声が何より嬉しく聞こえた。



造形と遊び

造形ともの材料

造形と環境

造形とイメージ

造形とメディア

造形と個性

造形と技

造形と鑑賞



## 第2の扉（ドアーズ2）

# 造形ともの・材料



11:20 12:20(昼食)13:00 14:00 14:10

15:00 15:10

16:00

	扉オリエンテーション	授業の話し合い	第1ステージ	第2ステージ
2 造形ともの・材料	○扉の主張 ・紹介 ・授業について 進行 稲實 順	◎授業について 川島 正夫 (伏見小) *材料をより魅力的な材料に生き返らせる	○提言1 元茂 章子 (美しが丘小) *シュレッターで処理した紙を使って ○提言2 富波 修 (旭小) *使えなくなった木琴に新しい命を与える	○座長によるまとめ ◎実技研修 講師 永井 智子 (大倉山小) *自然材を生かしたすてきな飾り



材料がぼくの手で、生まれかわったよ。

造形における  
ものとは  
材料とは

ものとの対話がイ  
メージを生み、イ  
メージをふくらま  
せる

どこにでもありそうな小石、喫茶店のマッチなどでも自分にとって特別な思い入れがあれば、それは宝物となります。たいして使いもしないのに、引き出しの中にしまっておいて時々引っ張り出しては眺めたりすることがあります。

ものは、子供が感情移入できる対象の最小単位と定義することができます。子供がものに感情移入し「～に見える、みたいだ」「～に使えそう」という見方や感じ方ができるようになった時、ものはその子にとっての材料になると言えます。最初から手段としての材料ありきではないのです。

それでは子供がものに感情移入するためには何が必要なのでしょうか。

その根底にはものとの対話が必要不可欠です。ものとの対話は材料経験が不足している子に新たな体験の機会を与えます。また、箱の中のをひっくり返してみんな出す、並べる、積む、匂いを嗅ぐなど遊びを含んだその行為自体が主体的にかかわろうとする意欲をふくらませていきます。さらに、ものとの対話が、材料のもつ心地好い感触、その形のよさ、美しい色合いなどの気づきを生み、その子らしい造形的反応に子供を導き、図画工作科の目標である造形活動そのものの楽しさや創意工夫することの喜びを子供に味わわせることができるのです。

つまり、ものとの対話の中からイメージが生まれ、そのイメージがふくらむことで、子供は手を働かせてものを変えていこうとものに語りかけていくということです。

ですから、我々は子供にものとのふれあい、言い換えればものとの対話の時間を十分に保障してあげる必要があるのです。



広がる  
「材料を生かす」  
ことの意味

教師の材料に対する  
考え方

5年生の  
実践から

「愛」がものからの  
語りかけを柔らかく  
受け止める

このような材料体験は「材料を生かす」ことの幅を広げていきます。はじめに表したいイメージがありそれに必要な材料を選択するという「もので」つくっていくという関係にとどまらず、ものとの対話から受け取ったこと対話の中で試したことを関係づけてそこからイメージが生み出されていく、言わば「ものと一緒に」つくっていくという関係にも広がっていきます。時には子供が「紙粘土にいろいろなものを混ぜ自分だけのオリジナル紙粘土をつくっていく」などというように、ものそのものを自分にとって魅力的な材料に変えていくという新しい働きかけ、生かし方の工夫も生んでいきます。つまり、ものが表現手段として選択される物質にとどまらず、対話の中から生まれた表現する側の思いやこだわりによって既に表現の一部となるのです。

それでは、教師は子供にもものを与えさえすればいいのでしょうか。

教師である我々は問題がそんなに単純でないことを知っています。題材の中に、子供が「ものとの対話から自己の内面を見出すことができる」「ものが何になりたいか感情移入できる」「ものの持つ造形性に着目できる」ような関わり方やふれあいを潜ませることが重要です。そのために教師は子供の造形的な反応を予測しながら子供ともの・材料の出合わせ方を工夫したり吟味したりする必要があります。

5年生の木を使った『つくりたいものをつくる』の実践です。目の前に山積みされた木切れを子供たちは手（感触）や目（視覚）や耳（聴覚・・・木を叩いた時の音）を使って木のぬくもりを感じ取っていました。ものとの触れ合い対話です。さらに、この木切れは木工工場から捨てられたものたちであることを知り、まだまだ何かに使えるのに捨ててしまうのはもったいないという全員の考えをベースにこのままでは捨てられてしまう運命の木たちにもう一度命をプレゼントしようということで学習がスタートしました。

「元気を出してくださいね。私があなを素敵なものに生まれ変わらせてあげます。」という優しさ、愛が、ものからの語りかけを柔らかく受け止め、さまざまな試し（働きかけ）を生み、それらに関係づけ、自分らしいこだわりを持って、主体的に読み替えていくという有機的な視点が題材に生まれたのです。



## 「造形ともの・材料」学習指導案

題材名 「ゆめの木をそだてよう」

指導者：川島 正夫



## 題材について

毎日の生活の中では読み終わった新聞紙が、電車の網棚に、駅のゴミ箱に投げ捨てられ、毎月の廃品回収の日にはまとめて処分されている。

しかし、そのままではゴミとして処分されてしまう新聞紙も扱い方の工夫によって多様な造形活動ができる。身の回りにたくさんある新聞紙に自らの身体を使って働きかけ、自分にとっての材料をつくっていく活動は、低学年の子供たちにとって意味のある学習である。

今回はその自分の材料を使って、「自分だけの夢の木」をつくる題材を設定した。子供たちが自分でつくった材料から発想し、自分らしさを発揮して思いをふくらませながら造形活動に没頭する姿を期待している。

## 扉との関連

今回は新聞紙を主材料として題材を構成してみた。低学年の子供にとって比較的容易な造形操作（ちぎる・切る・丸める・筒にする・揉むなど）を行える「紙」であって、身の回りには捨てるほどたくさんあるというのがその理由である。いくらでも試しのきく「新聞紙」に働きかけることで、平面材料が立体（塊）になり、子供はその塊を使って表したい思いを広げ活動に向かう。「新聞紙」という「もの」に手を加えることによって自分の「材料」を自分で作り出していくのである。自分でつくった木から思いを広げ、「夢の木」にするために子供は様々な身近材を集めて製作していく。新聞紙でつくった木から発想し、自分の思いに合う「みのまわりのたからもの」を自分で見つけ製作していくのである。

## 指導計画 7時間

第1次—新聞紙から夢の木をつくる（4時間）

第2次—夢の木に思いを託す（3時間）

夢の木になるように夢の実などをつける（1時間：本時）

## 本時の目標と展開

目標 ◎自分の思いにあった「夢の木」になるよう材料の生かし方や組み合わせを工夫してつくる。

おもな学習活動	教師のかかわり
<div data-bbox="216 2258 611 2309" data-label="Section-Header">夢の木をつくりあげよう</div> <p>○友達「夢の木」のよいところを見つけよう 材料の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実などぶら下げているもの</li> <li>・色 ・切る、丸めるなどの働きかけ</li> </ul> <p>○自分の表現を見直したり、友達のよいところを取り入れて製作活動をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よさを焦点化することによりこれまでの取り組みを位置づけたり、新しい課題に気づかせていく</li> <li>・思いを確認し、どのようにしたらよいか支援していく。</li> </ul>

提 言 「造形ともの・材料」

小学1年 札幌市立美しが丘小学校



題材名 「シュレッターで処理した紙を使って～遊ぼう～つくろう～描こう」

指導者：元茂 章子

材料の持つ  
魅力と可能性

今は、どこの学校にも置かれているシュレッター。シュレッターで処理された材料の持つ紙は、細かくてふわっとしている。思わずその中に手を入れてみたくなるし、集めてみたくなる。風になびかせてみたくなるし、袋の中に詰めてみたくなる。捨ててしまうにはあまりにももったいない、何かできそうだしつくれそう…と思ったのが今回の実践のきっかけである。1年生の子ども達が材料を使って楽しく遊んだり、様々な発想をしたり、指先もフルに使って活動したりする姿を願いながら実践に取り組んだ。

材料と関わる

まず、大量のシュレッターで処理した紙とビニール袋、傘袋、すずらんテープの紙テープなどを用意しておき、それらの材料で自由に遊んでよいことを伝えた。

子ども達は喜々としてシュレッターの紙で遊び始めた。つかんで舞い散らす、集めて積み上げる（山、ケーキ）、かぶる（雪ん子、雪だるま）、中にもぐりこむ、袋に詰める、袋に詰めた紙を撒く袋に紙を詰めて回転させるなど、様々な活動を楽しんだ。

紙で遊ぶ

袋の中に詰めたものから思いついたものをつくり始めた子が何人か出てきた。そこで、「何かになりそうだね。思いついたものをつくってみない？」と提案した。

いか、バクバクきば、ロケット、おひめさま、へび、リース、プロペラ、プレゼント、ボクシング…など、いろいろな楽しい発想の作品ができた。



袋の中に紙を  
詰めてつくる

この実践から約1カ月後に、シュレッターで処理した紙を絵の具で染

めて乾かし、それとクレヨンやコンテパステルを使って絵をかく実践を試みた。赤、黄、青、緑、ピンク、黄緑、水色に染められたシュレッターの紙を子ども達の目の前にゆっくりと置いていく。子ども達は紙から発想したものを口々に話した。色画用紙は子ども達に選ばせ、まず、糊を使って指で絵をかき、その上に染めたシュレッターの紙をふりかけた。次に、自分のイメージに近づけるために、クレヨンやコンテでかきたしていった。海の中、花畑、虹、宇宙…など、カラフルで発想豊かな作品ができた。

紙で絵をかく



子ども達は、シュレッターで処理された紙に親しみ、それを变身させる楽しさを十分に味わった。その子らしい発想でつくることができたように思う。この材料が持つ造形的可能性や他の材料との組み合わせによる可能性を今後も考えていきたい。





材料を知る  
感じる

材料から発想し何かを作るとき、材料に対して主体的にかかわることが大切である。そのためにはまず、材料を知ることからはじめなくてはならない。単に使ってみるのではなく、使いたくなるような心の動きや材料から様々なことを感じとることで発想がより豊かになっていくのである。

今回、学校や家庭には古くなって使うことができなくなったものがいくつかあると思うが、それらを材料にした題材に取り組んだ。

遊びながら  
気づく

偶然、こわれかけた古い木琴があったので、子供たちに紹介したところ、バチで叩いてみたりしながら遊び始めた。このまま捨ててしまうのはもったいないので、自分たちで生まれ変わらせようということになった。

まず、鍵盤などはずし、分解してしばらく遊ぶことにした。子供たちは、ばらばらになった鍵盤を並べ替えてみたり、ドミノだおしのようにしてみたりと思い思いに遊びはじめた。

材料との対話で  
広がるイメージ

分解したことで遊びの幅も広がり、子供たちはさらに工夫しながら遊びつづけた。また、そのことが材料のよさや扱い方などに気づくきっかけにもなり、作りたいもののイメージを膨らませることにつながったのである。

材料のよさ  
を生かす

遊びを通したことで木琴の音や形など材料としてのよさも感じ取ることができた。また、その体験が創作意欲を高め様々な発想の作品ができた。

子供たちは風鈴、ゲーム、木琴ドミノ音なる迷路、ロボット木琴、玩具など楽しみながら取り組んだ。



また、思うような音がならないので何度も組み替えたり、ゲームをつかった子供は遊びながら工夫を重ねたりと、材料の特性を生かそうとする姿が見られた。

まず、材料で遊んでみる活動が、その材料で何かしたくなる、作りたくなるというような創作意欲を高める上でも、有効であったと考える。

身近ではない材料であっても、それらとできるだけ深くかかわれるような時間や機会を大切にしていきたい。

実技研修 「造形ともの・材料」

扉特別講師

永井 智子 (大倉山小)

\*大倉山の自然を生かし、木のつるや枝を使ってすてきな飾りをつくる。身の回りにある材料を見つける目や生かすコツなどを実際につくりながら学ぶ。

メモ



造形と遊び

造形ともの材料

造形と環境

造形とイメージ

造形とメディア

造形と個性

造形と技

造形と鑑賞



### 第3の扉（ドアーズ3）

## 造形と環境



11:20 12:20(昼食)13:00 14:00 14:10

15:00 15:10

16:00

	扉オリエンテーション	授業の話し合い	第1ステージ	第2ステージ
3 造形と環境	○扉の主張 ・紹介 ・授業について 進行 土肥 宏充	◎授業についての話し合い 堀口 基一 (屯田西小) いい場所みつけた。ここに○○があったらいいな 千葉美智子 (明園中) スタンドグラスを通る光は心の光。	○ジャンボ造形の主張 授業者 代表 今 裕子 (山鼻小) —「はずむころ」— 体育館は夢いっぱい ○提言1 中村 直子 (ときわみなみ幼稚園) 「冒険の森」は子どもの心をゆり動かすね。	○提言2 東 尚典 (大通小) 宝物いっぱいの「オオドリ」—環境と子どもたちを結ぶ造形活動— ○提言3 小野 正二 (札苗緑小) 作品と一体化する「環境」の工夫

造形と  
遊び

造形と  
もの材料

造形と  
環境

造形と  
イメージ

造形と  
メディア

造形と  
個性

造形と  
技

造形と  
鑑賞



ここにいると気持ちいいな。

「私」と環境

イメージする環境

「環」と「境」

人→環境

環境→人

心のバランス

目に見えない環境

みなさんは「環境」という言葉を聞いて、まずどんなことをイメージしますか。私の場合は、街並や自然、日頃目にしている風景などを最初に思い浮かべます。しかし、少しの間思いをふくらませ、イメージを広げていくと、部屋の様子や教室、砂漠や工場などいろいろな景色が思い浮かんでいきます。つまり、環境という言葉はとても広い意味を持つ言葉で、人によって、あるいは場合によって様々な内容を表す言葉であるということがわかります。

「環境」という言葉はもともと輪の形をした玉を表す「環」と土地の区切れや境目を表す「境」の2文字が合わさってできた言葉で、単純には「まわりの状況」を表しますが、もう少し深く解釈すると「まわりの雰囲気」とか「なんらかの関係を持ち、影響を与えるものとして見た外界」などの意味を持っているようです。辞書を読みながらふと考えてみると、確かに人は生まれたその瞬間から自分を取り巻く全てのものに関わり、影響を受けて生きていきます。受動態に受け入れながら適応していくことや能動態に自らの知恵を駆使して働きかけることなどを繰り返し行っているわけです。

「環境」が人間の生に直接に、または間接に大きな影響を持っていることに注目してみると、知識として理解され、残る部分はもちろんのこと、もっと広い意味で人柄や気持ちの部分形成するうえでは一言に語れないほどの重要性を秘めていると言えるのではないのでしょうか。私たちは「環境」に関わり、また「環境」が私たちに強く関わりながら人としての人格を形成しているのだということを痛感するのです。

何らかの欲求を実現する「機能的な環境」ややすらぎを与えてくれる「心地よい環境」、非日常的であるがために「ときめきを与えてくれる環境」など私たちは無意識のうちにそれらを求め、心のバランスを生み出そうとしているのではないのでしょうか。

また、先に述べたような物としての環境だけではなく、精神的な心地よさや人格形成に大きな影響を持つ要素として「人」という「環境」もあるのではないかと思います。生きていく上で人との関わりを無視して考えるわけにはいきません。少々解釈が拡散気味ではありますが、私にとっては心のつながりという「環境」も目に見ることのできる「環境」と同等、あるいはそれ以上の重要性を持っているのですから…。

なぜ大切なのか

さて、前項では私の環境に対する思いを述べてきましたが、ここでは造形教育において「環境」を理解し大切にすることがどうして今必要なのか、ということについて述べたいと思います。

造形と環境の接点

まず環境を重要視する根本となる考えは、造形教育が人の心を育む活動そのものであるという考えです。前項でも述べましたが、環境の影響を常に受けながら生きている私たち人にとって、造形活動と環境のもたらす影響にはたいへん重要な接点があると思うのです。

受動と能動

そのひとつは、受動的な部分、つまり環境からの働きかけによって心が動かされ造形活動を展開していく場合やより活動しやすい状況を生む場合があげられます。また、能動的な部分としては、自分が過ごす場所や状況を自らの造形活動によってより心地よいものにしていったり、より潤いのある生活を見つめたりする場合があります。受動的な側面と能動的な側面は明確に分離されるものではありませんが、環境をいろいろな角度から解きほぐしてみると浮き彫りになってくるという意味でご理解していただきたいと思います。

環境の吟味

もう少し具体的に考えてみますと、子供たちの造形活動において子供たちを取り巻いている環境が本当に有効な意味を持っているかどうか、という教師の十分な吟味が必要であるということなのです。活動の内容によって柔軟に環境を理解していかなければ、「環境から」の働きかけも「環境への」働きかけも起こりえないでしょう。心を育む造形教育において環境を軽視するということは、造形教育、つまり心を育むことそのものを軽視することになるといっても過言ではないと思うのです。

どんなことが  
できるのか

では、実践レベルではどんなことが私たち教師にできるのでしょうか。このことを考えていくにあたり、私たちの環境理解について自問してみたいと思います。子供たちが造形活動をしていく環境についてどんな期待や可能性を持っているか自分の五感をフルに使い感じとることが題材を構成する上でとても大切だと思います。活動の場所として目に見えるもの、手に触れるもの、においや音など効果的な利用が考えられます。提示物や用具の配置、材料の準備、活動範囲など直接的なものもあれば、季節を感じたり、自然を見つめたりといった間接的なものもあります。

教師と環境

仮想現実の今

子供たちの生活圏を関わりの大きい環境とするならば、地域の特長を把握し生かす手立ても考えられます。仮想現実の広まる現代において、「環境」という実体験を大切にし、感じたり、味わったりすることは頭で理解することではなく、人として最も大切な「心」を育むことそのものだと思うのです。



## 「造形と環境」学習指導案

題材名 「とんでんにし改造計画」

指導者：堀口 基一

### 題材について

この題材では、環境という広い意味をもつ言葉のなかでも子供たちにとってより身近である学校という空間に焦点を当てて活動を構成しています。毎日通い、勉強や遊びなどの友達とのふれあいの中、特に意識することもなくあたりまえの世界として生活する学校。「自分の学校、自分たちの学校・・・」など口に、耳にすることは多いと思いますが、子供たちが能動的に関わりながら過ごす部分のごく限られたものです。そこで学校という子供たちの日常に能動的に関わることでより心地よい生活を生み出すのではないかと考えました。子供たちの環境に対するアイデアやひらめきが一方通行で終わってしまうのではなく、環境からのより心地よいはたらきかけともなり、人と環境双方向での心の潤いをもたらすのではないかと考えました。

### 機能的要素と心地よい要素

使い易さ、便利、案内、安全など機能的な要素も校内には十分に考慮されていますが、楽しさ、美しさ、ユーモア、不思議さなどの心地よい要素は意外とシャープに削り落とされているようにみえます。校内看板や注意書きなどのストレートな情報ではなく、環境にはたらきかける造形活動が、心のあたたかさをふくらませ、よりたのしい生活をもたらすものと考えました。

### 扉との関連

心を育む造形活動はいつも、何で（材料）、どこで（環境）という条件のもと行われます。とすると、環境へのはたらきかけや環境からののはたらきかけが、造形活動そのものに大きな意味をもっているといえます。環境とは、様々なサイズ（スケール）をもつ言葉ですが、本題材では、その中でも、子供サイズである学校という環境を中心に考えました。身近である環境へのはたらきかけは、造形活動そのものだけではなく、日常生活にも大きな影響力をもち、あたたかな心を育み営みとして重要な活動であると思うのです。

### 子供サイズの環境

### 指導計画 7時間

- 第1次—すてきな場所を発見しよう。（2時間）
- 第2次—つくりたいものをつくろう。（4時間）
- 第3次—すてきな場所交流会（1時間）

### 本時の目標と展開

目標 ◎じぶんのすてきな場所を生み出そうと、環境を意識してつくりたいものをつくる。

おもな学習活動	教師の関わり
「～な場所に～なものがあつたらいいなあ」 そうすると、〇〇な気持ちになるんだよ。 ・場所や対象を意識してつくる。 どんなどころに、だれのために、どんな気持ちに・・・	・子供のイメージを大切にしながら関わっていく。 ・発想面、技能面などのよさを認め、伝えていく。

## 「造形と環境」学習指導案

題材名 「光と色で輝くフロアをつくろう」

指導者：千葉美智子



### 題材について

この題材では、環境を装飾するということに重点を置き、1年生での経験を生かしながら、ステンドグラスの持つ独特の美しさを十分に表現させたい。

ステンドグラスの良さに自ら気づき、それを他にも伝えることの喜び、楽しさを味わい、校舎（環境）の美化にかかわっているという意識を高めたい。

### 扉との関連

生徒にとって学校は身近な、またとても重要な「環境」である。本校は創立35年であるが、新校舎になってから12年くらいで古いとは言えない。にもかかわらず“荒れた時期”があり破損箇所が多く汚れも激しかった。そんな学校をなんとかきれいにしよう、という意識が生まれ清掃活動や美化活動が見直されるようになり、それと平行して生徒の作品展示、さらにきれいに明るく見える展示一窓ガラスに貼るステンドグラスとなっていった。

実際に貼られたステンドグラスの色に光が当り廊下の床にたくさんの色が映る様を見て感動したり、関心を持った生徒は多い。ステンドグラスの展示と校舎の美化がかかわっているという意識はわずかではあるかもしれないが芽生えつつある。今回の制作ではさらに美しく見える形、配色をめざし環境の美化の意識を高めたい。作品を大切に作る心、校舎をきれいにしようという心から校舎を大切に作る心につながっていくことを願っている。

### 環境への関心 環境を大切に する心

### 指導計画 11時間

第1次—構成と配色計画 混色練習（5時間）

第2次—ステンドグラスシートに着色（5時間）

第3次—作品鑑賞と自己評価（1時間）

### 本時の目標と展開

目標 他の作品の良さを学びながら配色計画に沿って着色を進める。

おもな学習活動	教師のかかわり
<b>学習目標の設定</b> ・貼られている自分の作品や他の作品を見て生かせる部分は、とりいれ配色計画に沿って着色をすすめる。	・生徒の配色計画と作品をビデオプレゼンターで紹介 進行状態や美しい点、注意事項などを確認  ・個人指導  ・何人かの作品をとりあげ鑑賞し感想を述べさせる。
<b>制作</b> ・配色計画に沿って着色をすすめる。 ・ステンドグラスの絵の具の特性を生かし混色し着色する。	
<b>評価</b> ・自分や友人の作品を鑑賞する。 ・自己評価をする。	



## 「造形と環境」学習指導案

題材名 「ジャンボ造形—はずむところ」—体育館は夢がいっぱい—

指導者：山鼻小学校全教諭（代表 今 裕子）

### 題材について

造形活動の心地良さや楽しさがつくりながら感じられ、終わった時に『あーいい気持ち』と感動の余韻となごり惜しさをもてたらいいな、といつも考えています。

大勢で遊ぶ機会が少なくなり、子供の遊びの空間もますます人工的になっている今、学校が子供の広場として機能したらどんなに素敵なことだろう。体育の学習、集会、行事、そして休み時間など友達と過ごす体育館を、思いきり造形表現の場としてかわらせてみたい。そして、山鼻小学校の「原っぱ文化」の子供の発言の基地としてとらえ、次のようなテーマで造形活動を進めてみたい。

### 子供たちの願い

○1・2・3年—異学年グループで大きな大きなお友達をつくる。主材料はダンボール。3年生が体をつくり、1、2年生はおしゃれな服をつくり、飾る。

「夏の国からこんにちは」⇒「動物」「フルーツ」「虫」がテーマ。

○4年生—ペットボトルの魚が体育館を泳ぐ。みんなの魚が集まれば、スイミー、ジャンボな魚になる。1～3年生がつくったお友達も気持ちよさそうにゆれています。岩や昆布、周りの環境づくりも工夫する。「アクアランド・やまはな」は材料の特性を生かし、涼しげに心地よく海を表現する。

○5年生—21世紀までもう少し。現在118歳の山鼻小学校の未来は？

ダンボールを中心に構成し、「宇宙都市山鼻」を宇宙船とタワーで組み立てていく。大人のイメージコピーはない楽しい発想でつくり、宇宙船「地球号」は夢の旅立ちに向けて発進する。

○6年生—山鼻の歴史をたどっていくと、原生林に囲まれた激しい自然に出会う。「大地（地球）のおくりもの」は過去・現在・未来へと続く命の営みに挑戦。材料はダンボールを中心に身近材で構成し、環境と自然—環境と人間にこだわりながら造形表現したい。

### 扉との関連

この夏、子供の心にキラリと光る何かが始まる。かつて子供だった大人たちの記憶のどこかに「原っぱ文化」があるように。大勢の子供たちが集まって、アイデア出し合い助け合い、困った時は大人の知恵も借りながら、ジャンボなのは作品や子供の数や場所の広さばかりではなく、創造力と夢の大きさもましてくるようだ。

### 指導計画 5時間

第1次—ジャンボ造形会議を構成し、テーマ作成、ポスター等で啓蒙活動をする。

第2次—材料を集める（ダンボール、ペットボトル、ハンガー、チラシなど）

第3次—材料を切ったり組み合わせたり工夫を加えながらつくる。

### 本時の目標と展開

目標 ◎完成への見通しを持ち、みんなで協力してつくろうとしている。

おもな学習活動	教師のかかわり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに 集めた材料を生かし、加工したり組み合わせながら学年・学級テーマにそって製作活動をしてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じたかかわり</li> <li>・掲示・展示にかかわる援助</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の全体を見直しながら、協力して仕上げる。</li> <li>・みんなの作品の工夫や面白さを紹介し合い、良さを交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館全体の環境構成に目を向けさせる</li> </ul>





題材名 「みつけた ほらでーきた！」

指導者：中村 直子

幼児期の造形  
表現とは

〈表現と環境〉  
・ 自由な空間

・ 教師の  
働きかけ

・ 意欲をかき  
たたせる素材

環境の吟味

幼児期の表現には、大人の私たちにとって、とても理解しきれない行動がある。それは、幼児期の特性である未分化性や、感覚的傾向の強さからなされる表現である。幼児期には、自分を発見し様々な手段で自分を表し、自分の力や存在を確かめてみる時期である。その子としての感性や思考を働かせ、その子としての表しを、まずはそのまま受け入れることが大切であると思う。

一人一人の表現したいという欲求をみだし、豊かな表現力を育てていく為には、環境として、一人一人がそれぞれの思いで、それぞれのペースで遊びが展開できる自由さが必要である。幼児の興味の趣くままに探索できる自由な空間や時間は勿論教師自身の幼児の見方が重要になってくると思う。

例えば、ある時、教室の隅に廃材を置いておいた。ある幼児は、すぐに見つけ色々な物を作り始めていた。その隣では、何人か集まって同じ形の物を手にして会話が弾んでいる。一方では、全く見向きもせず自分の遊びを楽しんでいる。同じ環境にいながら、遊びの取り組み方は様々である。この時に大切なことは、環境への関わり方より、一人一人の活動の背景を探りながら、それぞれが自分の遊びのペースを自分で作っていくことを見守っていくことだと思ふ。見向きもせずいた幼児には、その活動の質を見極めながら新たな環境の構成を考えていくことが必要になってくるだろう。

幼児期ほど、周囲の大人たちの刺激を敏感に受け、反応していく時はないかも知れない。特に、教師は幼児にとっていつもお手本になっている。その教師が幼児の起こした活動に共感し、共に行動を起こすことにより、活動が広がったり、深まったりする。感動体験を共有することが、幼児の成長や発達につながる。ただ、この際問題になるのは、教師自身の感動体験である。教師自身が豊かな感動体験を持っていないければ、幼児の感性に強く働きかけることができるだろうか。

幼児の身の周りには様々な素材。幼児と共に生活していると、それらを思わぬ使い方をしている場面にでくわすことがよくある。例えば、偶然に拾った1本の枝が魔法使いのほうきになったり、つえになったりする。

この写真は、冒険の森（園地内にある山林）で拾った枝を使って遊びを楽しんでいるところで、枝並べ競争から始まりお家づくりへと発展していった場面である。幼児はいつも自由な発想で自由なイメージで物と出会っている。どんな物でも表現の素材となりうる可能性を持っているのである。

幼児は、良い作品を作ろうとして活動しているわけではない。自分の思いを表しさらに、表すことによりイメージを膨らませ、楽しんでいる。これは、表現する過程を楽しんでいるわけで、作品はその一つの結果に過ぎないのである。

私たち教師は、その幼児がどんな思いで、どんなふう楽しんでいるのかを見ていくことが大切であり、幼児の心をゆり動かすような環境作りを常に提供していくことこそが重要なのではないだろうか。





題材名 「大通はみんなの宝箱」

指導者：東 尚典

扉との関連

環境の日常性  
を変える造形  
活動

実践について

オオドオリ  
ブランドマーク

自分を飾る⇒  
身近な環境を  
変える喜び

四季の造形  
マップ

この題材は、子供達の身近な環境（地域）から、造形活動を通して色々なものを獲得して行き、それをもとに更に近い環境（自分自身や学校・教室）に造形的な観点から関わり、変えていこうという試みである。

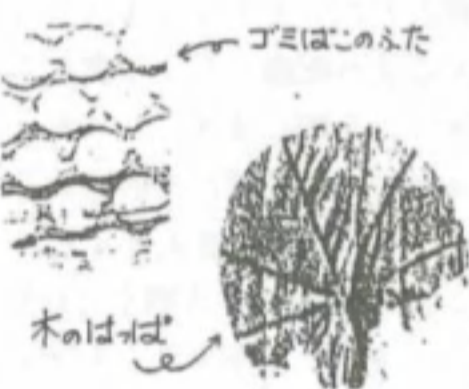
造形活動は、環境に対して、日常の生活の上での関わりとは違ったアプローチ方法として効果的ではないかと考える。身近で日常的な子供達の周囲の環境も、造形活動を行う舞台として見直すことで、それまで気づかなかった非日常性を見せてくれるのではないかと考えた。更に、この題材を通して、教室や学校の中では得られない様々な経験が、造形活動の意欲の向上や、新たな造形的視野の広がりにつながっていかれることを願っている。

今回の実践は、四季を通じて構成してある。

実践の出発は、大通公園をステージにして行った。この実践は「かたち」をテーマにして、「オオドオリブランド」と名付け、こすり出しの手法で色々な形を探して手に入れようという活動である。そして、持ち帰った「かたち」をブランドマークにして、自分の気に入りの服や帽子、アクセサリ作りを試みた。

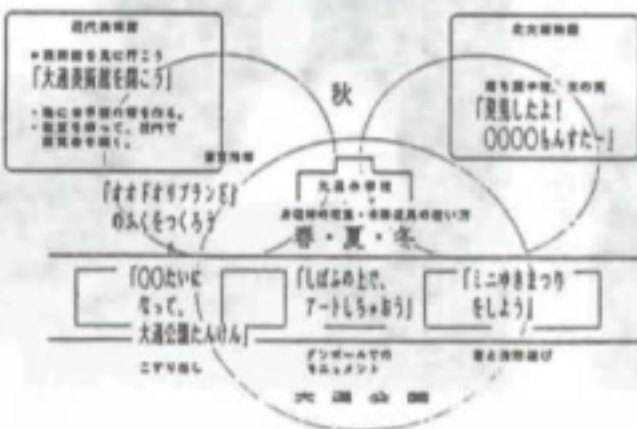


子供達は、日常の遊びの空間である公園内を歩き回り、夢中になって形探しに取り組んだ。「かたちさがし」の探検隊といった設定と教室から飛び出した開放感が活動の意欲を高めたようである。そして、思いがけない場所や物から、未知の形をたくさん探し出していった。友達と一緒に活動することで、同じ所をこすっても、こすり方や使った色の違いで、写しとった形の感じが変わってくることに気づく子も出てきた。



教室に戻って、「オオドオリブランド」入りの服を作る活動に移ると、楽しみながら自分を飾ることができた。準備の段階から、好きな色の材料を探して持ってきたりして、進んで考え、作る工夫をしようとする姿が見られた。

ビニール袋に穴を開け、手や足を通しながら、気に入った場所にマークをはっていったり、古着を思い思いに切って、服のデザインを変え、テープ等で飾りをつけたりベルトを巻いたりしながら、鏡に映したり、友達と比べたり、子供達の活動に積極性が多く見られた。こすり出しに使った紙が小さく、せっかくの形を生かし切れない面もみられたが、どの子も、自分なりの工夫をしながら、気に入りの姿に変身できたことに、とても満足した様子だった。





題材名 「ナチュラルワールドをつくろう」

指導者：小野 正二

扉との関連

造形活動に  
生きる「環境」  
の工夫

実践について

作品と一体化  
する「環境」  
の工夫を

『環境』とは子供たちを取り巻くあらゆる事象（例えば、教室環境であったり、自分の住む家やその地域の環境であったり…）である。そして、子供たちが造形活動を行う時、その『環境』というものが、少なからずその活動に影響を与えるものだと考えている。

そこで今回は、造形活動を行う時に、子供たちの意欲を高めたり、発想を広げたりしていけるような『環境』づくりを工夫してみようと考えてみた。『環境』からの働きかけ、また『環境』への働きかけを行いながら試行錯誤し、自分のつくりたいものをつくりあげた時、子供たちは満足感と達成感を十分に味わうことができるだろう。また、『環境』というものを意識することで、今まで気付かなかった新しい造形的な視野を広げていってくれればと願って、次の実践を試みた。

今回の「ナチュラルワールドをつくろう」では、まず子供たちが自由に使える空間を用意するところから始めた。図工室を1週間借り切り、そこを「ナチュラルワールド」にしてしまおうというわけである。また、今回の使う素材としては自然の枝木や木の株、木の実など普段目にしているが、なかなか材料としては使った経験のないものを選んだ。未知なる素材との出会いが子供たちの興味をわき起こすきっかけになればと考えたのである。そして、いろいろな形や大きさの木をたくさん集めて、それを「ナチュラルワールド」の国王からのおくりものという設定で子供たちへ提示して見た。目の前に積み上がったおくりものの山は、子供たちの造形的意欲を高めるのに十分役立ったようである。

さらに、今回は図工室の床一面に青いビニールシートを敷いておいたり、周りには草や砂などを用意しておくなど、子供たちが「ナチュラルワールド」をつくっていく時に、よりそれらしい臨場感が味わえるよう配慮した。子供たちはそれらを自由に配置し、自分達のつくりたい世界のイメージを膨らませていった。また、このように教室全体を1つの世界として意識させることで、子供たちの中からは、生き物や建物ばかりでなく、周りの環境づくりに興味をもって取り組む子も出てきた。「ここは大草原だから草の生き物をつくろう」とか、「空を飛ぶ生き物を天井からつるしてもいい？」など周りの環境側からつくりたいもののイメージをふくらませてくる子もでてきた。



「しっかりちばってとめなくちゃ！」

「大草原に葉っぱの生き物をつくったよ」



造形と遊び

造形ともの材料

造形と環境

造形とイメージ

造形とメディア

造形と個性

造形と技

造形と鑑賞



## 第4の扉（ドアーズ4）

# 造形とイメージ



11:20 12:20(昼食)13:00 14:00 14:10

15:00 15:10

16:00

	扉オリエンテーション	授業の話し合い	第1ステージ	第2ステージ
4 造形とイメージ	○扉の主張 ・紹介 ・授業について 進行 桜田 豊	○授業について の話し合い 押田 一朗 (西野第二小)	○提言1 毛利 聡 (厚別東小) ○提言2 谷山 圭子 (西宮の沢小)	○提言3 白崎 博 (東栄中) ○提言につ いての話 し合い

造形と  
遊び

造形と  
もの材料

造形と  
環境

造形と  
イメージ

造形と  
メディア

造形と  
個性

造形と  
技

造形と  
鑑賞



ぼくのゆめ広がるよ。

イメージと  
造形表現

情景とは、  
心の中に何かを  
訴えるところの  
ある場面

表現しようとす  
る「きっかけ」

イメージは、  
体験や感性の育  
み（心の耕し）  
を大切に

イメージする活  
動を繰り返しな  
がら具体化して  
いく

イメージとは、心の中の情景のことです。そして、心の中の情景は、他には見えないものです。ですから、訴えたい伝えたい心の中の情景を形や色で具体的に表していくことが造形表現といえます。

例えば、小学校1年生が「楽しかったこと」をテーマに絵を描きました。遊園地へ遊びに行った、お誕生会をしたなどその子の心に強く残った場面を描きます。それらの絵をよく見ると、ジェットコースターに乗って髪が風になびきとても怖そうな表情の自分がいたり、ほしくてたまらなかったおもちゃなのでしょうか、プレゼントをもらってうれしそうに遊んでいるところを大きく描いたりするなど、その時の気持ちや見たことと感じたことなどをしっかり表しています。

このようにイメージは、見たり感じたり、その様子を思い浮かべたりする人の心に、何かを強く訴えることがある場面を、その子らしい造形表現によって他に見えるものとなっていきます。

イメージは、どのようにしてつくられ、どう表現されるのでしょうか。

私達は、日常生活の中で「このことを絵にしてみたい、つくってみたい」と思うことは、そう多くはないと思います。ましてや、その時々思い描いたイメージは、忘れていくことが多いのです。きっかけが必要なのです。

そのきっかけは、他から与えられたものよりも自ら働きかけたり要求したもののほうがより価値のあるものです。

そのためには、自分や自分を取り巻く環境を日頃から見つめていることが必要です。こんな時すごく楽しかった、うれしかった、おもしろかった、発見した、感動した・・・などの様子が心の中に強く残ることによってイメージはつくられていくのです。

イメージは、今の自分や身の周りの事柄や事象をはっきりさせたり、探ったりする営みかあってこそつくられるものです。この営みの中で、心が耕かされ感性が育まれるのです。幼児期のお絵かきは、こうした意味においてとても重要です。

イメージは、自分の感情や思いを通して形づくられるものです。そして、時間が経つにつれて変化していくものです。始めからはっきりした姿、形になっていることよりも、もやもやとおぼろげに見えているといった方がよいかもしれません。

イメージする  
子どもの様子

子どもの夢や冒  
険心を揺さぶる  
題材との出会い  
(きっかけ)

イメージは、小  
さなイメージの  
連続や組み合わせによって実現  
していく

想像することを  
楽しみながら自  
分の思いを膨ら  
ませていく

思いを実現して  
いく過程に造形  
の喜びがある

イメージは、心の中だけで形づくられるのではなく、造形表現をする過程で変化しながらより具体的になっていきます。ここに造形とイメージの強いかわりがあります。

小1年 題材名「この足あとはどこにいくのだろう」 6時間扱い

～ぼく・わたしのぼうけん～

(お話を作りながら絵に表す)

私は、公園を散歩していました。その時、何かの足あとを見つけました。「何の足あとだろう？公園の外までずうっと続いているなあ。この足あとはどこに行くのだろう」私は、足あとをたどっていきました。足あとの主が見たことややったことを想像して絵に描こう。

このお話をした後、何の足あとか想像しながら粘土で足あとの主をつくりました。「ここでね、池があったからのぞいたの」「ここでサッカーして遊んだよ」などと自分が足あとの主になったつもりで、お話を作りながら足あとをつけていきます。ここで、その足あとがまっすぐになっている子より、曲がりくねっている方がいろいろなお話ができたようです。足あとの動きは、その子の持っている公園のイメージと重なり合ってつながっていきました。

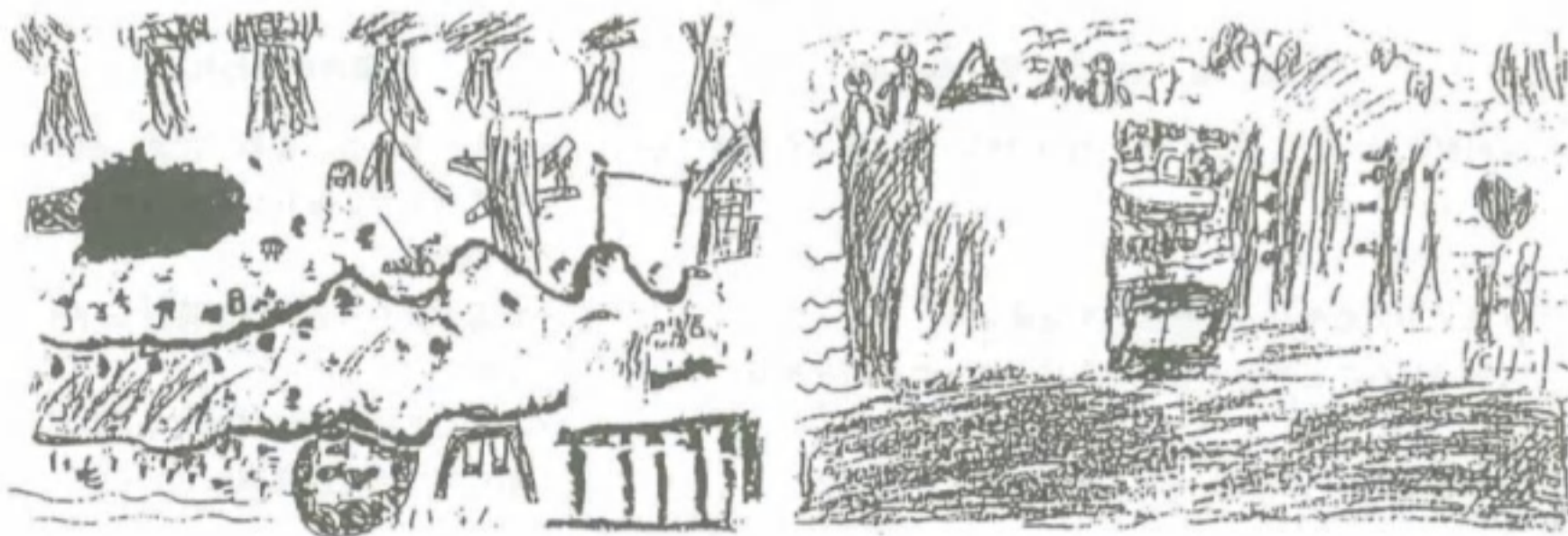
Mさんの足あとの主は、ペンギンです。散歩する道が中央にあり、その道にそって足あとがあります。所々に道からはみ出た足あともあります。その足あとの行方には、木があったり、池があったり、花壇があったりします。Mさんの絵にどんどんいろいろなものが描きこまれていきます。足あとの主が草むらに隠れています。紙を貼って見つからないようにしています。こんな所にMさんの遊び心が生かされます。

とうとう足あとが見えなくなりました。Mさんは、別のペンギンの住む楽しい世界を描きました。

その世界では、ペンギンの結婚式をしています。2匹のペンギンの周りにはお祝いするたくさんのペンギンがいたり、教会などがあります。

Mさんは、先日いとこの結婚式に出席しています。きっと華やかな雰囲気強く心に残ったのでしょう。その思いがペンギンの世界に表されました。

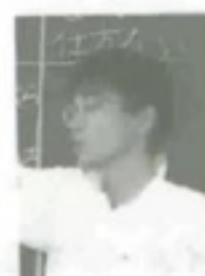
「足あと」から始まったお話は、「楽しいペンギンの世界」へと広がっていったMさんのイメージ。想像することを楽しみながら自分の思いをのびのびと表現していきました。



## 「造形とイメージ」学習指導案

題材名 「手作り楽器で、よさこいソーラン」

指導者：押田 一朗



## 題材について

この題材は、簡単な曲を演奏するための楽器を作る活動である。最後には自分たちで作った楽器で曲を演奏する。その曲に必要な音を考え楽器を作っていくが、グループによって音の高低差があってもよい。材料の音の特徴などを効果的に活かし、また工夫して楽器を作らせてみたい。

## ○題材の目標

- ・作りたい楽器をイメージすることができる。
- ・曲に必要な音ができるように、材料を工夫することができる。
- ・材料の特徴を活かして楽器を作ることができる。

## 扉との関連

「イメージ」とは、今までの体験を活かして、作りたい物が思い浮かぶことであると今まで考えていた。しかし、その前にイメージを起させるには、「子供が作ってみたい」という気持ちが高まるものでなければならない。そこから、イメージは始まるものと考えている。楽器作りは、子供の作りたいという意欲を起させる教材であると考えている。

頭で思い浮かんだものは絵で表したり、試しに作ってみることで、形がより確かなものになっていく。また、絵で表したりすることで、自分のイメージも形作られていくのではないかと思う。「イメージ」は、作りたい物が思い浮かぶことだけではなく、実際に作り、試行錯誤するなかで、自分の作りたいものへ近づいていくことも「イメージ」の広がりと考えていきたい。また、作る中で作品が変わっていくことは、子供の変容ととらえていきたい。

## 指導計画 7時間

- 第1次—グループでどんなふうに演奏するか話し合い、音や楽器を分担する。(1時間)
- 第2次—材料の特徴やよさに気づき、材料を決める。(1時間・本時)  
イメージスケッチをしてみる。(1時間)
- 第3次—集めた材料を使って、曲に必要な楽器を工夫して作る。(3時間)
- 第4次—音楽交流会をする。(グループごと)(1時間)

## 本時の目標と展開

- 目標 ◎材料の音の特徴に気づくことができる。  
◎自分の作りたい楽器をイメージすることができる。

おもな学習活動	教師のかかわり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料を加工しながら、音の出方や鳴り方、響き方を調べる。</li> <li>・音の出方や鳴り方、響き方を交流する。 気づいたことやおもしろい方法があったら紹介する。</li> <li>・楽器のイメージスケッチをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろい音、変わった音、材料を活かしている音などがあれば、ほめていく。</li> <li>・楽器の作りの方向性や指針を与えていく。</li> <li>・おもしろい方法や材料を上手に活かしている子供をほめていく。</li> </ul>



題材名 「いろいろ いろいろ ものがたり」

指導者：毛利 聡

まず、楽しく  
イメージして  
みよう！

「図工って楽しいな」という気持ちは、低学年にとってとくに大事である。ここでは、表現することの楽しさが感じられるかどうかポイントであり、表現のもとになる子供の思い（イメージ）がまずなければならないと考える。

この題材では、色や形を通して子供たちのイメージを広げることで図工の楽しさを感じさせたいと考えた。

イメージと  
表現

子供の思い  
イメージ  
(ふしぎな〇〇)



製作  
(絵巻物づくり)

制作活動の中で  
生まれるイメージも大切



いろいろ いろいろ ものがたり

- 1, 混色による色づくり
- 2, ふしぎな〇〇づくり
- 3, 絵巻物づくり

ふしぎな  
ぼうし  
つえ  
てぶくろ  
くつ  
から広がる  
子供の  
イメージ

<最初のイメージ>

<絵巻物の中での表現>

ふしぎなぼうし

動物に変身 → うさぎ、ハムスターになって遊ぶ

中から…ハンバーグ、風船 → 冷蔵庫が空っぽだ!ハンバーグを出してみんなにここに空を飛ぶ → ぐるりと回るとそこは南極

アイデアが閃く → 道に迷っても大丈夫、お母さんのお料理もボンとひらめくよ

いいことがある → 変身

ふしぎなつえ

動物に変身 → ハムスターになって冒険

小さくなる → 星に乗って

出す(星、おやつ、花…) → みんなを呼んで楽しく食べよう

どこでも見える → 強く振ったら、南の島へ

ごみを消す → 汚いごみもあつというまにきえるよ

のびる → どろぼうたいじ

ふしぎなてぶくろ

暑い場所では涼しく、寒い場所では温かく → 南極のペンギンとなかよし

ふしぎなくつ

駿足、壁でもかけ上がる → 運動会も負けないぞ! 1等賞だ



表現の中で広  
がりつながる  
イメージ

生まれた  
イメージと  
活動の中で  
育つイメージ

子供たちは、まずそれぞれの「もの」の不思議な力を考えた。一生懸命に色をぬり、形をつくってきたので、愛着もあり不思議な〇〇と考えることができた。製作をする中で、そのイメージをふくらませたり、考えなおして変更したりしながら絵巻物を完成させることができた。そして、自分や友達の商品のおもしろさを感じながら絵巻物の物語を楽しんだ。

この題材では、イメージは自分たちの生活や経験を通じて、想像の中から生まれ、楽しい表現をする中で、ふくらみ、変化をしていくことが感じられた。



提言 「造形とイメージ」

小学5年 札幌市立西宮の沢小学校



題材名 「宇宙からとどいた種」

指導者：谷山 圭子

扉との関連

「どんなときに、図工をやめたくになりますか？」と子供たちに聞いてみた。

①なかなかイメージが浮かばない時 ②方法が思いつかない時 ③失敗したりうまくいかない時にやる気がなくなるとの答えが多かった。

高学年になるにつれて、イメージが画一的になり、いきいきと想像することに苦手意識をもつ傾向が現われてくる。感じ方や表現の仕方や固有の能力の違いが顕著に現われてきて自信が深まる子もいるが、自信をなくして意欲の減退につながる子もいる。

どの子も意欲をもって造形に取り組むために、イメージのほりおこしとなるべき発想段階でのアプローチを効果的なものにする必要がある。

ゆさぶり、ひきつけ、くらいつかせる《きっかけ》をもとにすれば、「なかなか浮かばないイメージ」も「思いのほか浮かんだ」に変わるものである。

イメージのほりおこし

実践について

そこで、この題材では、導入時の発想源として、「宇宙からとどいた種」の話を劇化して見せることにした。役者2名、音響・照明係1名による協力授業で、真っ暗な舞台であやしく光る種をブラックライトで照らし、宇宙への夢をかき立てた。

その種から芽生え育つ宇宙の植物をイメージしスケッチしたところ、それぞれの夢や知識をもとにさまざまな植物を空想することができた。

子供による造形ドラマのオープニングは教師によるミニ劇で・・・

さらに、イメージを形にする段階では、子供の欲求を満たし意欲を持続させるために、自由造形という方法をとった。

表現方法や材料の選択を全く自由にし、その子なりの表現方法で構想させ、造形を進めた。



活動の選択肢は子供の側にある

平面的作品 (23人)

砂絵・貼り絵・木彫レリーフ  
共同制作による貼り絵など

立体的作品 (74人)

紙粘土や針金を利用した作品  
廃材を利用した作品など



「自由につくりたい・表現したい」「いろいろな材料を使いたい」という子供の欲求が満たされ、意欲的な活動を展開することができた。

活動の選択肢の大部分が子供の側にあったわけであるが、その活動を支援するために、学級単位ではなく、学年合同の協力授業の形態で授業をすすめた。

学年の教室・ワークスペースをオープンにし、活動場所を広げ学年担任3名で分担して指導にあたった。学級の枠を越えた交流も見られた活動であった。

## 提 言 「造形とイメージ」

札幌市立東栄中学校

白崎 博



アイコンの歴史  
始めにイメージ  
ありき

自ら作り、生活と  
密接に絡み合った  
時代の背景

生活という匂いそ  
のものが希薄とな  
り、つくらなくて  
も得られる時代の  
背景

自ら表現しようと  
する内的な要求に  
大きな個人差が生  
まれた

内面を捉えること  
がより困難に

中学校では、単に  
美術の教科だけに  
とどまらない。  
様々な活動の中で  
イメージを具体化  
する場面が多く見  
られる。  
学級活動  
色々な行事 etc

昔、まだ人類が洞窟に暮らしていた頃、赤く燃える炎の前で、人が、どんなことを夢想し考え、生きていたのだろうか。手を使い、道具を活用する中から、ものを生み出し、明日を夢見て絵や偶像を残していった。いわゆる美術的なものとは、こうした生活に根ざした生きていく上での造形を、表現手段として使うなかから生まれたのだろう。イメージを何かの方法で表現することこそ、人間としての本質的な部分を垣間見る事ができる。それこそ造形する事への明確な意味と意識があったからだと考えられる。

幼児期ほど自分の世界にひたり、ものにたとえて、あこがれや願望を表現することが可能だ。それ故にイメージを具体的に表現する創作活動の意味は大きい。しかし、時代は益々、大人の感覚が幼い心にも紛れ込み、夢を奪ってゆく。いわば、夢を描こうと思っても描けなくなったり、描きたい、作りたいという意欲そのものを失ってしまっていないのか。(いつかしら、夢を描けない地点に立っている自分、代償として生活の豊かさや快感を追い求めてしまう自分) イメージを造形に結び付ける事が、より困難になる理由はここにあるのだろう。こうした背景をうけて、中学校では「子供の中にあるイメージをどのように表現させるのか」という事よりも、やや技法や技術論に突き進んでしまう場合が現実として多いのではないか。無意識のうちに、数多くの部分的なマニュアルを作り、狭い道を歩かせてしまっている。(私たちの中にも、困難さから、それを望む声が多くあったのではないだろうか)

造形とイメージを考える場合、蓄積された知識と記憶に加え、造形しようという意志が基本として考えられるであろう。記憶の断片は、大切なパーツだと考えている。しかし、詰め込んだ知識はすぐに忘れてしまうと同時に、形を記憶するためには、カメラのように記録するのではなく、手やからだを使ってより確かに記憶される(画家が、数多くのデッサンを通してものを見るように)明確なイメージこそ、造形に結びついてくるのは、経験的に判断できる。

イメージとは、こうした[記憶の中の様々な感情や感覚とともに蓄積されたパーツ]をどう選択し、最も生理的にあう表現様式に照らし合わせ、形として作りあげるかにかかっている。

新しい文化の波、機械を道具としてより活用しようとする動きが、ここ数年飛躍的におきてきた。幼児期から、コンピュータを導入されようとしている。その分、イメージを表現する手法は現代において、急速に様々な幅を生んできている。「手」と「頭」がどのような関係で今後成り立っていくのか、とても難しい判断を迫られてくると予測している。造形すること、様々な美術作品に触れる事や見ることは、用意になってくる。生涯教育という考え方も一方ではより、強くなってくると思われる。それだけに、私達指導する側が、どのような考え方をもち、指導しているのか問われ続けているのだろう。「造形とイメージ」という視点で探してみたい。

造形と遊び

造形ともの材料

造形と環境

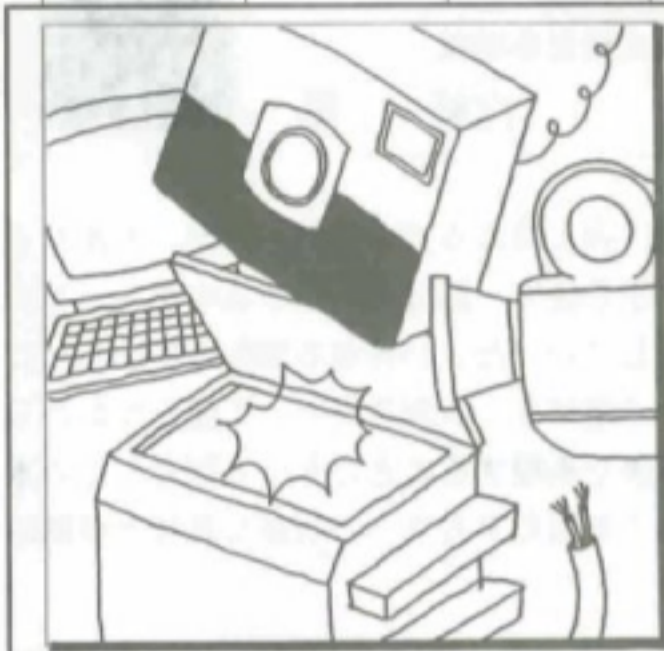
造形とイメージ

造形とメディア

造形と個性

造形と技

造形と鑑賞



## 第5の扉（ドアーズ5）

# 造形とメディア



11:20 12:20(昼食)13:00 14:00 14:10

15:00 15:10

16:00

	扉オリエンテーション	授業の話し合い	第1ステージ	第2ステージ
5 造形とメディア	○扉の主張 ・紹介 ・授業について 進行 館内 徹	◎授業についての話し合い 松本 和彦 (稲積小) 「わくわくメディアランド」 *ビデオカメラによるコマ撮りアニメーション	○提言1 湯浅 大吾 (新陽小) 「わくわくコピーランド」 *コピー機を造形手段として活用	○提言2 黒柳恵利子 (南が丘中) 「わくわくインターネット」 *美術部のホームページを見ながら

造形と  
遊び

造形と  
もの材料

造形と  
環境

造形と  
イメージ

造形と  
メディア

造形と  
個性

造形と  
技

造形と  
鑑賞



かんたん。かんたん。

私達と  
メディア

情報の伝達は、口コミなど直接的なものから、絵や記号、活字、ラジオ、テレビ、コンピュータ、そして、マルチメディアというように機器を利用し、よりハイテクで間接的な手段へと多様化してきました。伝達は時代とともに、私達の生活様式や思考回路まで変化させてしまいました。しかし、これだけ多くの影響を与えているメディアの多くは、家庭で利用されているもので、学校教育と関係しているものはほとんどありません。

学校と  
メディア

「学校音楽、校門を出ず」という話題が以前取りざたされていました。“学校の音楽”と“生活の中の音楽”の溝を表したのですが、このことは、そのまま「学校造形教育、校門を出ず」とも言えるのではないのでしょうか。

私達は、メディアを「家庭で行うもの」「受け取るだけのもの」「指導効果をあげるもの」というように、固定的な見方をしていたのではないのでしょうか。

メディアを  
造形活動の  
道具として

ここでは、子供と学校、そして、メディアという三つの観点から、子供の生活の中にあるカメラやビデオ、学校の中で使われているコピー機やOHP、コンピュータなどを「受け取るものからつくるものへ」「教育効果をあげるものから造形の道具」として活用を考えていきたいと思います。

道具からの  
授業改善

チューブ絵の具の出現が、芸術家達の活動のフィールドを広げ、印象派という新しい流れを芸術にもたらしたように、表現するための道具の開発、新しい使用方の発見は、発想や技法など表現することへの可能性を広げてくれます。

学校での造形教育を考えた場合どうでしょう。私達は、「つくってみたい、やってみてみたいという子供の興味ややる気を大切にしたい。」「子供の発想を大切にしたい。そのためには、表現方法に選択の幅を持たせ、子供が自由に選択できる自己決定の場を増やしたい。」と願っています。道具という面から授業改善を考えた場合、表現における私達の既成観念を破り、表現方法や技法、道具などを固定的に見ず、従来の領域や表現技法にとまらない表現方法を考えていくべきではないのでしょうか。

これからは、コンピュータやビデオカメラといった現在学校で視聴覚機器として使われているものが、子供たちの表現手段として大いに使われ、一般化されていくでしょう。今、私達が絵の具といったらチューブ絵の具を思いうかべるように。

子供と  
メディア

教育機器を活用した造形活動とは、創造的な活動を支える道具として機器を考え題材を開発していくことです。しかし、道具といっても高価なものや操作に注意が必要なものもありますから、機器の扱いには、学年発達を考慮しなければなりません。たとえば、ひところ高級品として店頭に並んでいたカメラも、レンズ付フィルムの出現により、今では子供のおもちゃのように市場に出回ってきました。子供でも簡単に操作できることや手頃な値段などが、子供の道具として活用できる要因になりました。

このように機器を、子供に触れさせてはいけないものから、学年の発達に合わせ造形活動の手段として大いに活用させることが大切です。“鉛筆のように、機器を子供が使う時代”が来ているのです。

## 実践例

### 【カメラ編】

レンズ付きフィルムやコンパクトカメラなどを用いて、子供自身が被写体を見つけ写していきます。近距離、光量不足、手ぶれなどの注意事項を確認してから活動を始めます。

#### 「私の好きな風景」(小学校高学年)

ダンボールで額縁をつくり、校庭や校舎などの自分の好きな風景を探して写真に写します。

### 【ビデオカメラ編】

コンパクトビデオも、一般に広く普及してきた機器です。自動焦点、内蔵マイク、再生機能などを装備し操作も簡単です。

#### 「1分間CM」(小学校高学年)

ポスターと同じように、見る人に、瞬時に伝えるものにCMがあります。ここでは、身近な生活の問題である「廊下歩行」や「空き缶のボーイ捨て」などを取りあげて、見る人に伝わるCMを工夫しながらつくります。

### 【コピー機器】

一般には事務機として使われているコピー機も、同じものを何枚も写すことができるので、版画の分野の一つと言えます。コピー機のガラスの天板にいろいろなものをのせて、スイッチを押すとおもしろい形が誕生します。

#### 「おもしろい顔」(小学校中学年)

### 【OHP編】

図や文を拡大して、スクリーンに映写することができますし、セロハンや油性ペンを使って、光と影の世界に色をつけることができます。

#### 「変身！！影」(小学校中学年)

普段慣れた道具を組み合わせて、光を当てるとおもしろい影に変身します。

子供が使うこと  
によって可能性  
が広がる



提 言 「造形とメディア」

小学3年 札幌市立新陽小学校



題材名 「一何が出るかな？一わくわくコピーランド」

指導者：湯浅 大吾

今なぜメディア  
なのか？

その功罪という部分では賛否両論あるが、子供達がメディア機器に囲まれ、それらを利用して生活し、今後その傾向が進んでいくということは現実である。生涯学習ということから考えると、その罪の部分に補うことばかりでなく、学校教育でも目的意識を持って利用したり、使用方を自分なりに工夫するといった主体的にメディアにかかわっていく態度を育てていくことも、今後重要になってくると思われる。

表現活動にメディア機器を活用することのメリットの一つとしては、自分はどう表現してみたいという「発想・構想」の段階と、実際に表現していく段階に生じる「表現の技能」とのギャップをフォローしてくれることがあげられる。

メディアを積  
極的に活用し  
ていくために

メディア機器を「造形活動の道具」として取り入れる場合、その必然性が問われる。言い換えると、「目新しいから使ってみよう」というのではあまりにも消極的である。「その機器を使うことでしか表現できない。」というような「教育的価値」に裏打ちされていることが大切である。さらに、機器の操作、機器に対する関心という面で「学年発達段階」も十分考慮されていなくてはならない。

コピー機の持  
つ表現力に着  
目して

普段、事務機として使用しているコピー機であるが、コピーできるものは何もプリントばかりではない。厚さや色に制限はあるが、様々なものをコピーすることができる。(半)立体物をコピーすると、その厚みや凸凹が陰影となって表現されてくる。モノクロームという効果もあるのだろうが、写真とも違い、不思議で新鮮なインパクトを与える表現が生まれてくる。



また、透明な素材や光を反射する素材でできたものをコピー機にかけると、これもまた、独特な表現となってコピーされてくる。

これらに、同じものを即座に何枚もつくることのできる複写機能や、同じ形のまま大きさだけを変えてコピーできる拡大・縮小といった機能を組み合わせて、「コピー機を造形活動の道具」として活用する本題材を実践した。(資料参照)

学校とメディア  
今、思うこと

「造形活動の道具」としてのメディア機器を考えると、その機器の持つ特徴＝「よさ」を十分把握することが肝要である。そうした上で初めて、固定的にとらえられている使用方にとどまらない、よりよい「造形活動の道具」としての活用方が見えてくる。学校現場におけるメディア機器の環境やその使用が十分言えない今(物理的な問題・指導者・消極的な利用状況)だからこそ、私達は、その施行錯誤を大切にしたい。

## 提言 「造形とメディア」

題材名 『わくわくインターネット —造形教育におけるメディアの可能性を探る—

提言者 札幌市立南が丘中学校 黒柳恵利子



造形教育に  
「メディア」は  
必要か？

「メディア機器の教育的価値が確立していない」「あえて目新しいものを導入する必要性を感じられない」…メディアに対するこのふたつの保守的抵抗感を私たちはやわらげていきたい。子どもたちにメディアの新しさや可能性を伝えたい…私たちが、まず、知ろう！

「鉛筆を握る」と同じように「コンピュータのキーを叩く」あるいは「マウスを操作する」のは、TVゲーム世代の小中学生には実に容易なことであり、抵抗感はまったくない。南が丘中学校では、美術の時間や美術部の活動の中で、「kid98」という簡単に操作できるペイント系ソフトを使っているが、学年に関わらず、基本的な操作を1、2時間指導すると、あとは子どもたちが「自分で勝手に」使いこなしていく。コンピュータの表現ツールとしてのメリットは「高度な技術がなくても整った線や形が容易に描ける」「色面・グラデーション等を容易に作ることができる」「画像の拡大・縮小・反転・変形・移動・コピー・削除等ができる」などである。これらは、表現領域での身に付けさせたい力と態度の中の特に構想力を養う上で大変有効と考えられる。

インターネット  
の威力

コンピュータはスタンドアローン（1台独立）で使用する時代ではないといわれる。インターネットということばがポピュラーになったのは最近であるが、互いに接続されているコンピュータの活用法はどんどん多様性を増している。まず、「データベースとしての価値」である。

www（ワールド・ワイド・ウェブ）の機能を使えば、世界中のあらゆる情報を瞬時に手に入れることができる。世界各地の美術館、各地で開催されている美術展、画家やデザイナーの作品などを容易に検索することができる。学校関係のホームページに接続すれば、中学校はもちろん、高校、大学など幅広く学生・生徒の作品を見ることもできる。制作資料として必要な写真やデータ等も簡単に検索することが可能である。

つぎに、「作品発表としての価値」がある。インターネットには、情報を受け取ることに加えて、情報を発信できるという機能がある。サーバーというコンピュータに自分の作品を置いておくと、いろいろな人に見てもらえ、電子メールなどで、自分の作品についての感想や評価を受け取ることもできる。南が丘中学校美術部のホームページは、開設以来、一ヶ月に200名ほどのアクセス数があり、部員の作品制作の励みとなっている。

最も可能性が広がるのが「共同制作の場としての価値」である。情報のやりとりが可能であるという機能を利用すると、いろいろな方法での共同制作ができる。インターネット上で設定したテーマについて制作した作品をネット上に集約し、情報のやりとりをしながら、一つの作品を作り上げていくということもできる。また、同時に同じ画面を見ながら複数の人間がそれぞれのコンピュータを操作しながら制作に参加していくという形式もとることができる。TV会議システムのように随時画像を見せ合いながら意見の交換も可能である。南が丘中学校美術部では、昨年末から「バーチャル雪祭り」というプロジェクトに参加し、札幌や千歳をはじめ、東京や九州の小中学生と交流しながら、ネット上でデザインを練り上げた雪像を「さっぽろ雪祭り」の大通公園会場に実際に制作した。



これからの  
可能性

インターネットをはじめとするコンピュータの技術は日々急激に進歩している。メディアに対する意識も「特別なもの」から「普通のもの」に変わりつつある。映像や音声など異なった形式のデータを総合的にやりとりする「マルチメディア」ということばも、最近では目新しいものと感じられない。

インターネットへの接続は近い将来当たり前のこととなるというのが常識になりつつある。いろいろな問題点はあるにせよ、これからの未来を担う子どもたちには、少しでも早いうちから良質の情報を受け取ったり、自己表現する場をあたえてやるのは、教育者の義務ではないのだろうか。おとなの保守的抵抗感から子どもたちがメディアの中での可能性を追求する機会を奪うわけにはいかない。教育的な価値は子どもたち自身の活動の中から無限に生まれてくるであろうことを確信する。



造形と遊び

造形ともの材料

造形と環境

造形とイメージ

造形とメディア

造形と個性

造形と技

造形と鑑賞



### 第6の扉（ドアーズ6）

## 造形と個性



11:20 12:20(昼食)13:00 14:00 14:10

15:00 15:10

16:00

	扉オリエンテーション	授業の話し合い	第1ステージ		第2ステージ
6 造形と個性	○扉の主張 ・紹介 ・授業について	◎授業についての話し合い 高橋 久美子 (宮の森中) *個性が活かされ認められ、さらに伸びる指導のあり方	20	○提言1 山室ゆかり (西岡小)  ○提言2 岡田 知之 (藤野南小)	○授業及び提言に関する話し合い ・観点別学習状況の評価に関して ・個性をひきだしみとめる教師の支援など *授業における評価について話し合う
	進行 合田 典史				

造形と遊び

造形ともの材料

造形と環境

造形とイメージ

造形とメディア

造形と個性

造形と技

造形と鑑賞



あなたらしい作品だね。

個性とは

個性とは、複数の側面でその個人が持つ性質を総合した人間像だと言うことができます。言葉を換えて言えば一人一人の持つ能力・適性興味・関心・性格等の違い及び知識、思考、価値、心情、技能、行動の体系の違いが千差万別に入り交じって一人一人の個性として現れることを言います。

変わってれば個性？

今、教育の場では「個性を生かす教育」が柱となっています。しかし、この個性と言う言葉はひとつ間違えると「変わってれば個性的」とみなしてしまう部分があるのではないのでしょうか。

作品に表れた個性

ここにひとつ示唆に富む言葉があります。「一人一人の子供や大人が個性的であるということは、そして、いま求められている個性とは「人がその人なりの価値を求める考えや行動を社会的な場に明晰に示すこと」つまり「主体性」をもつこと。」すなわち、個性というのはただ風変わりと言うだけでなく「その子らしさ」が「社会性」と「主体性」をもっていなければならないということです。

個性を発揮できる学級づくりを

では、造形にこのことを当てはめてみるとその子らしい発想や構想を周りに認められるやり方で、自分らしい表現ができるようになることではないのでしょうか。

その子を囲む友だちや教師がその子を分かっていなければ作品を見て「〇〇ちゃんらしい作品だね。」という言葉は出ないと思います。

その子その子にあった支援を

個性を生かす授業を支えるためには教師が子供達一人一人のよさを十分理解するのは勿論、学級全体の子供達もお互いにお互いのよさを認め合っているという人間関係を築くことが大切です。

安心して自分の発想や構想を発表し、創造的に表現できる場があって始めて子供達は自分らしさを発揮することができるのではないのでしょうか。

個性の伸長を支援する者の教師としての立場からいうと、個性の見極め・個性の掘り起こし・個性の内部構築への支援などの手立てを確立して行かなければならないでしょう。

言葉をかえて述べると、子供達の個性を一人一人把握することによって、一つの教材に対する教師の準備の仕方（道具から説明の仕方、製作に詰まりそうなところでの助言の仕方等々）も変わるでしょう。

また、様々な助言によって子供達が気付いていなかった新たな自分を発見することもできますはずです。

更に教師としては作品をつくる際にまわりに迷惑がかかるようなことや、ルールを無視したようなやり方は本当の自分の個性を認めてもらうには



夜店はそのらしい。

マイナスになる部分として指導する必要があるでしょう。

図面工作・美術が作業を伴う教科として創造的な面だけではなく人間性を育てることが求められる部分なのです。

子供は知的好奇心が旺盛でいつも何かを学ぼうとしているものです。ここに、教師の感性と個性を見極め、支援の実践が求められているのです。



おねがいごとく

子供の立場からいえば、自分の考えをしっかりと出せる場が保証されていれば生き生きした作品を生み出すのでしようが、他の子供の作品や制作過程の良いところ・そうでないところを感じとったり、教師の支援で自分を拡げていくことができるかが大切になるのではないのでしょうか。

一人一人の個性の伸長をはかるには、前にも述べたように個性の見極めが必要です。

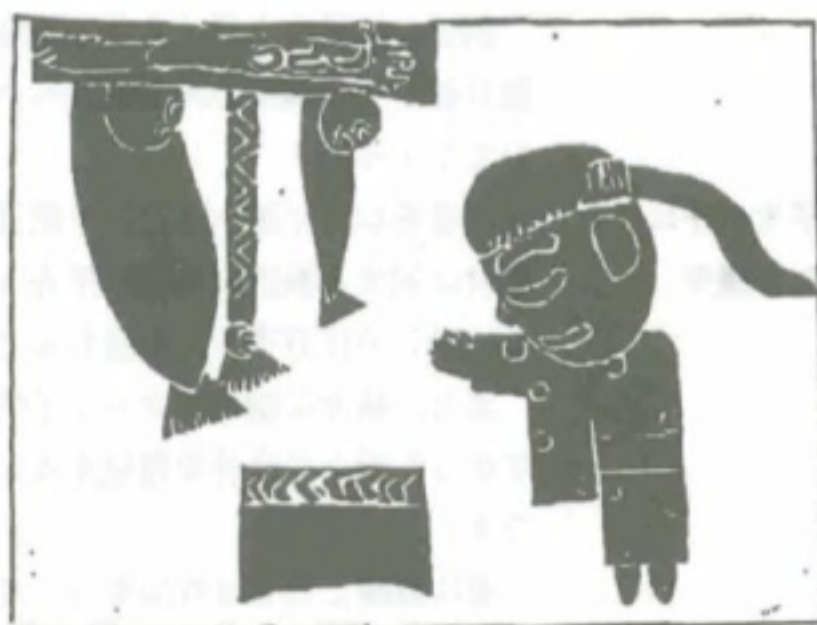
これは教育場面においては評価活動と言い換えてもよいかも知れません。

教育には、子供一人一人にこうなって欲しいという願いがあります。造形活動の場にも伸ばす能力や態度等があります。

これらの能力や態度の獲得の仕方は子供達一人一人の個性によって異なるため、構想・表現のそれぞれの過程で適切に指導・評価しなければなりません。そして、この評価を繰り返し行う中で次にどんなことを考えているか、どんな点でつまずくか等が見えてくるのではないのでしょうか。

これを生かして指導の手立てを考え、子供たちのよい部分を伸ばし、新たに気づいて欲しいことを適切な時に提示できるように準備しておくことができるのではないのでしょうか。さらに子供達の政策意図や考えを知る手段として有効な方法としては、自己評価や相互評価を行わせる方法があります。

子供の夢や願いを一番よく表現できる素材を選択できる力をつけ、会得した表現技法を駆使することができるように、基礎・基本を踏まえ、個性を生かせる教材の工夫や開発を行うこと、多様な表現ができるように素材や用具、技法を拡げていくように、題材の配列を能力・系統的にもう一度見直してみる必要があるのではないのでしょうか。

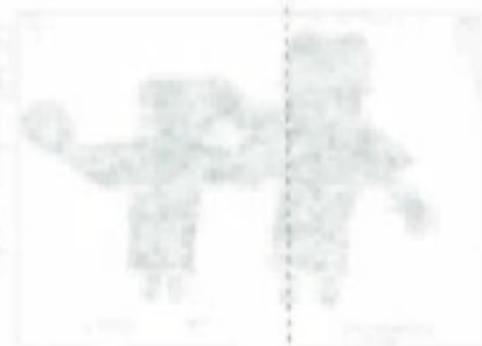


おねがいごとく

その子を  
より伸長する  
効果的な題材

自己評価  
相互評価

表現力を高める  
題材配列を





## 「造形と個性」学習指導案

題材名 「粘土で本物よりも本物らしい野菜をつくらう！～いたずら造形」

指導者：高橋 久美子

本物そっくりの野菜をつくるのだ。

野菜を見抜く力！

個性は複数の側面の総合体

いろいろな野菜の表現に個性が光る。

予測的評価で支援  
支持的風土！

1年生の1学期は小学校から中学校への橋渡しをする大切な時期である。学習では生徒の知的な発達を考慮したうえで、なおかつ楽しみや喜びを味わいながら制作をできるような題材を考えてやりたい。

この題材では、生徒一人ひとりが選んだ野菜を本物以上に本物らしくつくることによって、鋭い観察力と幅の広い発想・構想力、そして一人ひとりの独自の表現力を培うことがねらいである。このような、美的体験を積み重ねることによって個性が生かされ、認められ、さらに伸ばされることが教科の願いである。

個性は、複数の側面でその個人が持つ性質を総合した人間像だということができる。この題材では、身近にあるどんな野菜に興味を持ったか、本物に酷似させるためにどんな素材を使いどんな工夫をしたか、野菜の持つ生命力や自然物の造形の不思議をどう感じたか、いろいろな面で思考・判断・表現をする中で個性が発揮される。従って日頃の十分な生徒理解（自己評価・観察など）とコミュニケーションによる予測的評価をもとに思考・判断・表現について個別化した指導・援助を行うことを試みている。また、個性が生き生きと発揮されるように学習の場に支持的風土を築き、作品づくりや自己評価、相互評価を進める中で生徒が認められ自分の良さに気づき、それを伸ばそうとする力がわいてくるような授業になることを願っている。

指導計画 5時間

第1次—野菜を観察しながら粘土などで形づくる。(2時間)

第2次—野菜を観察しながらいろいろな絵の具で着彩する。

いたずら造形に関わる部分で表現の工夫をする。(90分：本時)

第3次—鑑賞会で自己評価と相互評価を行う。(1時間)

本時の目標と展開

目標 ◎野菜の色を見抜き本物以上に本物らしい野菜にするために着彩や表現の工夫をする。

おもな学習活動	教師のかかわり
<p>〈学習目標の設定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎何人かが本時にこう表現したい！という学習目標を発表する。</li> <li>◎発表や自己評価から、自己の学習目標・学習方法を決める。</li> </ul> <p>〈制作〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎野菜をよく観察し、いろいろな絵の具で着色したり、他の素材を用い、本物以上に本物らしくなるように工夫する。</li> <li>◎遊び心をいかし、付属品を加えたりして仕上げる。</li> <li>◎乾燥させる。</li> <li>◎作品提示用の台紙をつくる。</li> </ul> <p>〈評価〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎自分や友人の作品を鑑賞する。</li> <li>◎自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ビデオセンターで作品や材料の紹介。</li> <li>○予測的評価による情報の先送りを する。必要があれば事前にアドバイスを する。</li> <li>○個人指導・支援 一人ひとりの表現に対応して援助 する。 ※その子らしさが出るように</li> <li>○何人かの作品を取り上げ、鑑賞し、 自己評価を紹介する。</li> <li>○励ましと評価。</li> </ul>

提 言 「造形と個性」

小学3年 市立西岡小学校



題材名 「わたの木を囲んで・・・」

指導者：山室 ゆかり

扉との関連

驚き  
感動  
—  
想い  
個性

実践について

保健室での出来事。「わたしはね、花で・・・」の一言から「えっ、植物なの?」「どこにできるの?見たい!」と大騒ぎ。この驚きと興味を絵に表せたら・・・と考えた。ちょうど理科にホウセンカやオシロイバナの成長と他の草花の成長の違いに気づかせる単元がある。ここで「わたの木」を育てながら、目や耳で感じ取ったり思ったりしたことに想像・空想の場をプラスすることによって、絵の中に自由な想いを広げ、自分達の方法で自分らしい作品に表現させることがねらいである。理科との関連題材である。

身近な存在の「わたし」。それが植物であることの驚き—感は大きい。花の華麗な美しさ、そして実が弾けて「わたし」が飛び出した時の感動はさらに大である。生命に対する神秘と大切にしたい心—美 愛も自然に沸き上がって来る。そこで「わたの木を囲んで何が始まる?」のもとお話づくりへ。花の色や「わたし」への想いをいっぱい広げながら想像の世界へ—遊。そして想。お話に合わせて様々な用具、技法を使うことによって発想や構想、表現の楽しさを味わいながら、主体的に選り想像豊かにその子らしく表せることが願いである。

事前に種々の技法を教えたが、おもしろいおもしろい!の連発であった。特にマーブリングは不思議な模様になるので興味が高かった。「空のようだね。引き込まれそう。」等の言葉が聞かれた。またストローを使った物では「わたが飛んでみたい。」と言う子もいた。「わたし」の成長を楽しみにしながらの題材であることや技法練習用紙を理科観察カードとして利用していたことが「わたし」との関連を深めたようである。



どんな花が咲くかな…。えーと。

ぼくはね、  
この方法だよ。

芽が出た喜びを観察カードに描かせた時、飛び跳ねているだけでなく「わたし」の芽の周りで、遊んでいる自分も描いている。このことは喜びが大きいこと、もう想像の世界に入ってしまったことを示している。自分の夢を広げ、お話の世界にどんどん入り込んで行くが、提示が悪かったために話の焦点がぼけたのが失敗。このことは画面



ぼくね、

よじ上ってみたい。

構成を考える時、支障となる。

技法は選択し、どこに使うか等よく考えていたが、新しい方法を生みだし、発見し自分の想いに合うように工夫していた。まさに自分らしい作品である。

技法にとわれず「こうしたらね、こんなになったよ!」という試す経験から生まれてくる方法が、実は自分の想いを一番表現できるのだ、と強く感じた。今、目指しているもの、個性的表現とは、そういうものではないだろうか。

提 言 「造形と個性」

小学6年札幌市立藤野南小学校



題材名 「お話粘土 ～大造じいさんとがん」

指導者：岡田 知之

扉との関連

題材に  
のめり込む

実践について

自分を生かせ  
る共同製作

想像の世界は誰でも持つことができる反面、あいまいでぼんやりとおぼろげになってしまいがちでもある。そこで自分の内にある漠然とした思いや心情を「何をどう表すのか」という表現活動に結びつくようにはっきりさせる必要がある。この題材では、この物語の中で自分が一番表してみたいと思った場面を考えることで大造じいさんの姿や表情、そのまわりにあるものへと想像を広げていけるようにし、その結果自分なりの考えや活動を生む有無と考えた。また、「大造じいさんとがん」をこの題材に取り上げたのは、国語科の学習時間中、子供達一人一人が自分の思いを持って、大造じいさんの気持ちや残雪の気持ちなどを発表し、興味を持って取り組んだからである。興味を持って学習に臨んだということは、その物語のさまざまな場面のイメージが、子供達のそれぞれの心に鮮明に残っていて、自分らしさを表現する源になると考えた。

子供のイメージは、常に平面的なものばかりでないはずである。絵画的なイメージをすることが得意な子もいれば、実際に作りながら大きさや形または量感などを確かめながらイメージする子もいる。つまり、絵画表現には、空間処理や色彩処理、あるいは描写力などの力が必要であるが、子供のイメージを個性的に表現する方法としては粘土を使うのも有効な方法の一つであろう。ただ、粘土であるがゆえの難しい点（立たせづらい）もあるが、逆に自分の思い通りになるまで何度でも作り直せるという点も、自分が納得のいくイメージの追求にはよかった。

また、この題材をイメージの共通する場面ごとに3名から5名のグループを作った共同製作にした。（グループによって人数が違うのはそれぞれ子供達の作りたいと思う場面があるからである。）共同製作ではあるが、製作にあたっては当然ながら自分のイメージを大切にしながら取り組んだ。しかし、共同製作であるがゆえお互いのイメージをつきあわせる中でともすると「個のイメージを生かさせないで終わるのでは」と、授業を始める前は心配もしたが、子供達が登場人物とそれを取りまく周囲の様子をそれぞれのイメージをぶつけ合うことによって、かえってイメージをよりふくらませていく場面も見られた。また、自分のグループの中での役割分担の中で最大限イメージ

を生かそうとした時、それに対する自分なりの学習目標がひねり出だされていた。そしてまた、自分のイメージとアイデアスケッチ、友達イメージとアイデアスケッチなどをグループの中でもみ合い具現化しようとするときに、イメージが確かなものに練り上げられ製作への意欲にもつながっていった。さらに、そのような活動の中で作品を生み出すまでの計画性を身につけたり共同製作による作品の大きさの迫力、それに伴う感動や、そして作り上げたという成就感もどの子も持てたようである。



造形と遊び

造形ともの材料

造形と環境

造形とイメージ

造形とメディア

造形と個性

造形と技

造形と鑑賞



## 第7の扉（ドアーズ7）

# 造形と技



11:20 12:20(昼食)13:00 14:00 14:10

15:00 15:10

16:00

	扉オリエンテーション	授業の話し合い	第1ステージ		第2ステージ
7 造形と技	○扉の主張 ・紹介 ・授業について 進行 野切 卓	◎授業についての話し合い 石川 早苗 (琴似中) *技を自分のものにするために考えておきたいこと	○提言1 富樫 信博 (藻岩南小) *自分で技をみつける楽しさ	○座長による まとめ	◎実技研修 講師 森川 昭夫 *経験豊かな実践をもとにおもちゃづくりにおける技などすぐに役立つこといっぱい

造形と  
遊び

造形と  
もの材料

造形と  
環境

造形と  
イメージ

造形と  
メディア

造形と  
個性

造形と  
技

造形と  
鑑賞



こんなに上手に切れたよ。

### 伝統と「技」

法隆寺大工の西岡常一氏は最後の宮大工棟梁と言われた人です。棟梁として法隆寺の金堂や薬師寺の金堂、西塔などの修復や再建を果たしました。西岡氏の家は代々法隆寺に仕えた宮大工であり、古くからの知恵が口伝で残されています。その口伝の中に、「技」について次のような言葉がありました。

### 宮大工と口伝

諸々の技法は一日にして成らず、祖神たちの神徳の恵みなり、祖神忘るべからず。『木のいのち 木のころ』草思社より

### 技の系統性

このように、長い年月をかけて間違いを正し、工夫を重ねてきた「技」は普遍性をもっています。私たちが造形教育の中で扱う時も、この「技の体系」ともいべき系統性は無視できません。かつてはこの系統性を重視し、発達段階に応じて、ある時期になると一斉に「技」を教えるという指導方法が一般的でした。「小刀は3年生で」「のこぎりは5年生から」というようにです。

### 一斉指導の効果

しかし、このような方法では「技」が子どもにとって本当に使える力になっていないと指摘されるようになりました。一斉指導は効率が良く合理的ですがその技が全ての子どもに必要なわけではないからです。

### 表現の手段としての「技」

「技」とは子どもたちにとって、自分のイメージ通りの表現をするための手段です。一人一人が異なった目標を持つ図画工作科では、表現の手段もそれぞれ異なります。「何年生までにこの技術」というのは、あくまでも一つの目安にすぎません。「技」を習得すること自体が目的になってはいけません。

では、生きて働く力として、「技」を身につけさせるためにはどうすればよいのでしょうか。

### 「技」の定義

私たちは「技」を次のように定義しました。

「技」・・・それを使うことで、より短時間に、より美しく、より正確に、作業の目的に近づけるように工夫された作業手順。

### 自分で工夫する 楽しさ

この定義からもわかるように、「技」には既に完成された作業手順という側面があります。しかし、この作業手順が全ての人間に当てはまるわけではありません。それを使いこなすのは生身の人間であり、一人一人が自分の個性に合わせて工夫していかななくてはならないものです。完成された作業手順ではなく、工夫していく過



程にこそ「技」本来の意味があり、この過程の中で「技」は「生きて働く力」になっていくのではないのでしょうか。

## 「道具」と「技」

### 「技」習得の 楽しさ

また「技」について考える時、切っても切り離せないものが、「道具」の存在です。例えば、子どもが最初に出会う道具の一つとして、「はさみ」が上げられます。紙を切る時の「しゃきしゃき」という音や、その感触がとても心地よく、小さい子どもが無心に紙を切っている様子をしばしば見かけます。はさみにはこの感触の楽しさと共に、紙などを自分の思いどおりの形にできる楽しさがあります。つまり、「技」習得の楽しさです。この上手に切れるようになるという「技」の上達の楽しさを小さいうちから味あわせたいものです。

### 指導のチャンス

子どもたちははさみを使う時、自分のイメージに合うように、切ってみたいと思うでしょう。ところが、なかなかうまくいかないことがあります。例えば丸い円にしようと思っても、切り口がぎざぎざに乱れたり、線よりも曲がったりします。このように子どもが「もっとうまくになりたい」「上手に切りたい」と思った時が指導のチャンスといえます。脇をしめて使えば良いこと、刃の根もとの方が力が入ることなどをそっと教えてあげるのです。

### 教師の役割

そして、すぐできるようにならなくても、教師が焦ったり、子どもを焦らせる必要はないでしょう。「技」は作品をつくっていく中で、徐々に身につけていけば良いのです。「技」の習得のためには、試行錯誤こそが大切であり、そのための時間を保障することも教師の重要な役割です。前出の西岡氏は「技」の伝承について次のように語っています。

### 試行錯誤の保障

棟梁が弟子を育てるときにすることは、一緒に飯を食って一緒に生活し見本を示すだけです。道具を見てやり、研ぎ方を教え、こないやるんやというようなことは一切しません。(中略)

### 「教える」こと 「育てる」こと

弟子のほうには「教わる」というのはあるかもしれませんが、考えるのは自分ですから。考えてやってみる。これを何度も繰り返し、手に記憶させていくんです。頭で考えたことをやって手に移すんです。なかなか手と頭はつながるんです。そのうち何となくわかって、できるようになる。

『木のいのち 木のころ』草思社より

「技」は教わるものではなく、自分で学びとるものだという事でしょう。子どもたちが真剣に造形活動に取り組んでいる時に身につけた「技」こそが一生使える力となります。そのような場面をどれだけつくり出せるかが私たち教師に問われているのです。

「造形と技」学習指導案

題材名 「造形の秩序を考えて構成する～ポスターカラーで美しく着色しよう！」

指導者：石川 早苗



題材について

この題材では、1年生の時に学習したポスターカラーの基礎技法をもとに、抽象形の構成を行い、構成の方法を理論的に生徒に学習させたい。また、同時に、複雑な図形の着色をすることで、着色技術を身につけることの大切さに気づかせ、そして、技術を自分のものとするすることで、授業に対する興味を高めていきたい。

扉との関連

「技」というのは、私たちが造形教育を行う時に無視することはできません。生徒が発想し、それを自分の作品として表現する際に必ず技術というものが必要になってきます。例えばそれは、彫刻刀での彫り方やカッターやはさみの使い方、絵具の塗り方であったりします。この技術というものを習得し、自分の「技」として使いこなせるかどうかで、生徒は自分の思いをそのまま作品に表現できるかどうかの違いが現れてきます。また、「技」が自分のものとなったことを知った時、生徒は造形活動に興味を持ち、意欲的に参加することになります。

技が自信の源

ここでは、ポスターカラーの着色という場面で、着色方法を中心に、デザイン用具の使い方や、自分のテーマに合った色のつくり方等、デザインの基礎技法を練習していく中で、生徒に「技」というものをつかみとっていかせたい。そして練習（試行錯誤）の大切を知らせ、また、「技」を身につけることで生徒に自信を持たせ、今後の造形活動への意欲を起こさせることができればと思っています。

指導計画 12時間

第1次－抽象形による構成制作（4時間）、第2次－テーマを持たせた配色計画（2時間）、第3次－着色（5時間：本時～1時間目）、第4次－作品鑑賞、自己評価（1時間）

本時の目標と展開

- ①自分のデザインに合った着色方法を確認することができる。
- ②今まで学習してきたことをもとに、用具を使用し、計画にそった着色をすることができる。
- ③ポスターカラーの特性を理解し着色することができる。
- ④自分以外の人の作品を鑑賞し、作品の良さを味わい、今後の自分の作品に生かすことができる。

お も な 学 習 活 動	教師のかかわり
<p><b>本時の学習目標の認識</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配色計画を数名の生徒が発表し、他の生徒は自分の配色と比較、確認した後、着色練習をする。</li> </ul> <p><b>本時の目標の理解</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習中に上手くいかなかった点を発表し、その後デザインによって着色方法がことなることを知る。</li> </ul> <p><b>本時の目標の実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用具の使用法、ポスターカラーの特性を確認し、着色する。</li> <li>・色によって着色順を変える。</li> </ul> <p><b>本時のまとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友人の作品を鑑賞し、自己評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数名の生徒にテーマと配色を発表させ、実物投影器で紹介。</li> <li>・着色前に簡単に着色方法について触れる。（1年時で学習した内容のみ）</li> <li>・実際に着色をして見せる。</li> <li>・用具の使用についても実祭にやって見せる。</li> <li>・数名の生徒の作品を紹介し、同じ数名の生徒に感想を述べさせる。</li> </ul>

表現の手段と  
しての「技」自分でみつけ  
る、見てまね  
る

## 時間の保障

困ったときには  
指導も高学年、低学  
年それぞれの  
技の習得法

この題材では、ジャンボジェット機とスタンプをするときのウェアをデザインするなかで色鉛筆を自分の思い通りに使えるようになることをねらいました。

子供の活動を観察してみると色鉛筆を使う経験が少ないのか思うようにむらなくきれいに着色できていないのである。

しかし、「ドリーム ジャンボ（自分のいってみたい場所にフライトするジャンボ機）」からスタートして、色で遠近感を表現してみようという短い題材を2つ経験した後の「スタンプ ウェアー（組体操の時にチームで着てみたいウェアをデザインする）」では、きれいにぬりたいという子どもたちの思いが少しずつ達成されてきたのである。

むらなく着色するにはどうするとよいのかという「技」を考えながら作品に取り組んできた結果であると考えられる。きれいにぬりたいという思いから、どうするとよいか気をつけながら試行錯誤を繰り返して着色しているうちに、①ふちどりをしてから中をぬる②同一方向に着色する③薄く何回も重ねてぬる④一度着色した後に消しゴムで軽く消してから、その上からまた薄くぬる という「技」を発見し身につけていったのである。もちろん、すべての子がこれらの技をみつけだしたわけではありません。友達の作品を見て、どうやってやったのかを聞いて「技」を身につけた子もいれば、友達の作業を見てまねをすることによって「技」を自分のものにしていく子もいました。自分で「技」を見つけだすことができない子も友達の「技」を見ることによって、そこから新たな技を見つけだすケースもありました。このようにさまざまなかたちでいろいろな「技」がクラスにひろまりました。

色鉛筆の「技」が子どもたちの中に生まれることができた要因は、いくつかあると思われるが、その1つとして時間の保障があると思われる。「ドリームジャンボ」から「スタンプウェア」までに至るまでに2つの作品を製作しました。技をみつけさせるために設定したわけではありません。色鉛筆を使用する回数を増やそう、慣れるようにしようと思って行ったものです。ただ、今になって考えてみますと、使う時間があるということは考え試してみる時間があるということになると思います。だからこそ、失敗を繰り返しながらきれいにぬっていくにはどうすればよいかのかがわかってきたと思います。教師が全く何も指導しなかったわけではありません。薄くぬろうとしていてもうまくいかない、同一方向にぬろうとしてもすき間があいてしまう。子どもが困っているときには、鉛筆の持ち方を少し変えて持つことや強く握り過ぎないことなどを指導してきました。高学年ということもかなり子どもにまかせる部分が多くなりましたが、これが低学年になると違ってくると思います。1年生を担当していたときに「いしのかお」という題材を行いました。石にナットやビーズなどをボンドで接着しようとしたときにどんなボンドをどのようにして使うとよいか、ボンドがたれないようにするには少しずつ出るようにするにはどうするとよいかなど1年生ではなかなか見つけることができませんでした。教師のほうからまず「技」を紹介しなくてはならないと思います。学年にあわせて「技」をみつけ身につけていけるような工夫と準備がたいせつであると考えます。



実技研修 「造形と技」

扉特別講師  
森川 昭夫

1927年 北海道夕張市に生まれる  
北海道教育大学美術工芸科卒卒業  
北海道大学附属札幌小学校教諭，札幌市内3小学校校長を経て，  
北海道教育大学札幌校講師，北海道造形教育連盟顧問

メモ



造形と遊び

造形ともの材料

造形と環境

造形とイメージ

造形とメディア

造形と個性

造形と技

造形と鑑賞



### 第8の扉（ドアーズ8）

## 造形と鑑賞



11:20 12:20(昼食)13:00 14:00 14:10

15:00 15:10

16:00

扉オリエンテーション		授業の話し合い	第1ステージ		第2ステージ
3 造形と環境	○扉の主張	◎授業についての話し合い 氏家 珠実 (桑園小) *自分や友達 のよさに気が 付くことが できる鑑賞 授業	○提言1	○授業・提 言に関する話 し合い	◎造形作家の話 講師 松原 成樹 *造形作家の 見る目と心を 陶芸作品を通 して語る
	・紹介 ・授業について		岡沢 邦彦 (附属中) *主体的な鑑 賞の楽しさ や自信をつ ける学習の あり方		
	進行 箭内 浩之				

造形と  
遊び

造形と  
もの材料

造形と  
環境

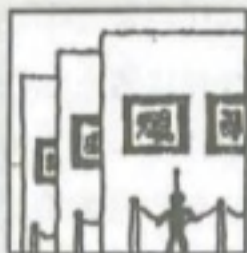
造形と  
イメージ

造形と  
メディア

造形と  
個性

造形と  
技

造形と  
鑑賞



この絵。ぼく、すきだな！

造形教育  
における  
鑑賞教育

感じること  
と  
見ること

鑑賞教育の  
必要性

私たちが何か品物を買おうとするとき、機能だけではなく、そのデザインにも注目して選ぶとします。「モデルチェンジしたあの車は、かっこよくなったねえ。」「そうかなあ。前の型の方が好きだったなあ。」などという会話も日常茶飯に交わされたりもします。

見たり触れたりしたものから自分なりの感じ方をし、価値あるものを見つけ出していく。「鑑賞」とは、そういうものであると考えます。「鑑賞とは、芸術作品を味わい理解することである。」という、何か有名な作家の作品を味わうことで、専門的な知識が必要な難しいことというイメージを持ってしまいそうですが、もっともっと広い意味でとらえるべきでしょう。

造形教育における鑑賞教育も、芸術作品だけではなく授業中に製作した自分や仲間の作品、自然物や身近にある何気ない物もその対象として考えます。ですから、名作を見て、その作者や題名、作品の背景などを知識として知るということは鑑賞教育の手段・きっかけにはなりますが、それだけが目的ということにはなりません。ものの美しさやよさは他人から教えてもらうものではなく、自分の心の中で生まれてくるものです。そういった心を育てるのが鑑賞教育の大きな目的なのです。また、対象からどんな主題や発想があったのか、どのような手法でつくったのかを直観的、客観的に感じ取って、それを自分の表現やこれからの生活に生かすようにさせることも、大切な目的です。

ものの美しさやよさを感じ取る心を育てるためには、それらをすすんで感じ取ろうとする機会を設定することが一助になると考えられます。心の内側からその価値に気づいたり、つくり上げたりするためには、まず、ものを見る目を養わなければなりません。ですから、授業における教師の働きかけはもちろんのこと、子どもたちがお互いに意見を交流し合ったり、教室や廊下、地域など子どもたちが生活する環境においても十分に配慮することも必要になってくるのです。形や色の美しさやよさは、ひとりひとりが登山のように登りつめて見つけるものです。私たちの使命は、この登山がとてすばらしいものであることを、できるだけ的手段を講じて児童、生徒に伝えていくことだと考えます。

目まぐるしく変化する現代社会。我々のまわりにはたくさんの情報やものがあふれています。造形にかかわる情報についても目を見張るものがあり、ルーブル美術館の作品がインターネットによってパソコンの画面に現れるようになりました。日

## いろいろな鑑賞の仕方

本はもとより世界中の多くの美術館や展覧会の案内を手に入れることも可能です。このように、生活は便利で豊かになってきましたが、逆の見方をすると、そのようなたくさんの情報やものの中から、本当に価値のあるものを自分自身で見つけ出していかなければならない状況とも言えるでしょう。このような時代背景の中で、いろいろなものを見て感じたり、まわりの人の思いを聞いて自分なりに考えたりと、価値のあるものを見定める目を持つようにすることがとても必要になってくると思います。鑑賞教育は、それらの力を養うためになくてはならないものであると言えるでしょう。

「多くの規則の中で遊ばなければならない。」となると遊びも窮屈なものでのびのびしなくなります。鑑賞も、枠の中にとらわれることなくいろいろな見方、感じ方があってもよいのです。中学校の授業で「木でつくられた弁当箱のよさ」をテーマに鑑賞を行いました。木の暖かさやシンプルな形のよさについての発表交流の中に「おなかがすいてきました。」という発言があって、みんな大笑いしたのですが、それも一つのよい鑑賞であると思います。対象から受けた思いを素直に表現したり、友達の考えを聞いたりしていくうちにそのものの価値に気づいていくのだと考えるからです。迷路の中を自分でルートを見つけながらゴールにたどり着くような鑑賞、雪山に長靴で新しい道をつくるような鑑賞、砂山を崩して宝物を発見するような鑑賞など、いろいろなイメージをもって作品に向かうことは、いろいろな角度からものを見る目を養うのに大きな役割をはたしてくれるのではないのでしょうか。

有名な作家の展覧会が行われるとなると、その会場はあふれんばかりの人が集まります。「本物をこの目で見てみたい。」そんな思いは、本物が持つよさを直接的に感じとることができるからではないのでしょうか。学校の授業の中でも地域の美術館や資料館、作家の協力を得ることで本物の作品に触れる機会を持つことも可能でしょう。実践例としては、北海道近代美術館を利用した小学校・中学校の鑑賞授業があります。小学校の授業では、6年生が北海道ゆかりの画家・国松登氏の作品を鑑賞しました。作品の大きさやタッチ、マチエールに驚いたり、夢のある作品から自分なりにお話をつくってみたりと、自分なりにいろいろな感じ方を持つことができたようです。この時間の後、教室でスライドを見ながら自分の感想を発表し合い、学芸員の方から国松画伯のエピソードを教えていただきました。自分の思いを知らせたり、友達の考えを聞いたり、作品の背景を学ぶ中から自分なりに作品の持つ価値を感じ取ることができたと思います。また、「違う作品も見たい。」とか、「こんな展覧会もやってほしい。」など、他の作品にも興味を持てたこともこの授業の収穫だったと思います。



美術館を利用した  
実践から

自分らしい感じ方



## 「造形と鑑賞」学習指導案

題材名 「オリジナルストーリー、ぼくとわたしのお話の絵」

～ぼくとわたしのお話の絵・心開いて語り合おう～ 指導者：氏家 珠実

### 題材について

この題材は、自分達のオリジナルストーリーに、夢や願いをこめて描いたお話の絵を鑑賞しながら、それぞれの思いを話し合ったり、混色の仕方、色の出し方について、感じた事を自由に語り合おうという題材である。身近かな作品の中にもよさがあり、互いの作品の美しさや、よさを感じ合う心を養い、感じ取る感覚を今後の生活に生かしていくことを願って一人一人が描いた身近な作品をもとに話し合う場面を設定した。また、普通の物語の絵ではなく、オリジナルストーリーを絵にすることによって、お話作りの時から暖めてきた思いを、色や形に置き換えることができる楽しさを知り、絵を描きながら自由に絵の中の世界で遊ぶことができるのではないかと考えている。鑑賞する場面では、友達同士の自由な意見の交流を通して、絵に込めた思いを汲み取り、それぞれの作品のよさを味わえる感性を磨く機会にしていきたい。

### 心のアンテナ

### 扉との関連

どんなにすばらしい芸術作品も、その素晴らしさを受け止める感性がなければ、そのよさは、伝わってこない。名作を見て、作者や題名、作品の背景などを論じるだけではなく、対象となる作品からどのような印象を受けたのか、それぞれの心の中で受け止めたよさや、美しいと感じる心を大切に授業に向かっていきたいと考える。そこには、草むらに潜む自然や、身近な生活をつかさどる様々なものも対象になることであろう。快さや素敵を感じ、繰り返し選び取る行為の中から、いつか本当のよさを感じとる眼が育っていくことを願ってやまない。

### 指導計画 8時間

第1次－お話を考える（1時間） 第2次－絵にあらわす（6時間）  
第3次－お話の絵をもとに話し合う（1時間：本時）

### 本時の目標と展開

目標 ◎お話の絵をもとに、それぞれの絵の持つよさについて話し合う。

おもな学習活動	教師のかかわり
<p>お互いのお話の絵のよさについて話し合おう。</p> <p>この色使いがすてきだな。</p> <p>お話に登場する○○の形がおもしろいね。</p> <p>ここの描き方はどうやって描いたのだろう。</p> <p>いろいろな絵があってそれぞれによさがあるね。</p>	<p>○互いのよさについて自由に話し合えるよう配慮する。</p> <p>○色々な絵の中から、それぞれのよさがあることに気づかせる。</p>



提 言 「造形と鑑賞」 中学校

題材名 「鑑賞する心が発信する世界へのメッセージ」

指導者：岡澤 邦彦



主体的な鑑賞  
活動を交流す  
る授業

基礎・基本を  
大切に

主体的な鑑賞

鑑賞における  
基礎基本とし  
ての話し合い  
や発表

直感と分析に  
よる鑑賞と  
交流

鑑賞すること  
の楽しさと  
自信

眼力への尊敬

学校で美術を学習するという事は、集団で表現及び鑑賞の能力を身に付けようとする事であるから、楽しいだけの活動にとどまるものではない。教師の役割は、生徒が楽しく学ぶ中で、基礎・基本（技能だけではない）を確実に身に付けられるようにすることである。私たちは、題材の工夫、指導計画、評価、発表の機会などの視点から絶えず授業の改善を図らなければならないが、それは新しい状況に対応しながらも、今までの授業に工夫を加えて新鮮なものにしていく努力も含まれるであろう。その一つ一つに基礎・基本がはっきりと意識される必要があり、それは鑑賞の分野にもあてはまることである。

鑑賞分野の学習は、それぞれの題材の中で、表現の4つの分野との関連で展開されるが、表現からはなれて単独で設定されることもある。その活動はともすると受け身に捉えられがちだが、作品にすすんで向かっていこうとする積極的な心構えがなくてはよい鑑賞にならないのであり、主体的な学習が望まれるであろう。

鑑賞指導のねらいは、「創造の喜びを味わわせ、美術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。」ことにある。鑑賞の活動とは、美術作品などのよさや美しさを味わう美的体験である。それは、感性と深く関わる、極めて個性的、主体的な活動であり、その主体性が生涯を通じて美術を愛好する態度にもつながっていくのであるから、指導においても「その子なりの感じ方」を尊重しなければならない。しかし、鑑賞を一層深めるには、自分が感じ取ったことを心に留めておくだけでなく、お互いの感じ方を発表しあったり、語り合ったりして、他の人の感じ取ったよさや美しさを知ることが必要である。またそのことは、他の人の個性を理解することにもつながり、共に美しさを語り合う喜びを味わうことにもなるのである。

鑑賞にも様々な方法があるが、ここでは生徒が作品に向かった瞬間にどんな感じを受けるかが重要な要素と考え、第一印象を大切に学習を試みる。

個人的な鑑賞の場では、感じたことを言葉にする必要はないが、授業では言葉がお互いの感じ取ったことを明確にさせるための有効な手段になると考えて、文字にしたり話し合わせたりする。しかしそのとらえを最初から自分の言葉で表すことは難しいので、初めはいろいろな言葉をあらかじめ用意して、その中から作品の第一印象にもっとも近いと思われる言葉を選ばせる。次に選んだ言葉をもとに、なぜそのような感じを受けたのかその理由を、発想や技法、また構図などの観点から考えさせ、さらに、自分にとって作品との出会いの意味を問わせる。そして、それらをお互いに発表し合うことによって学習を深めさせる。

このような流れでの鑑賞を繰り返すことによって、生徒は基本的な鑑賞のスタイルの一つを身に付けると同時に、主体的な鑑賞の楽しさや自信を得るものと考え。また、交流を通して多様な感じ方を知ると同時に、より深いよさや美しさへの目も開けるのではないかと考える。

私たちは、人類が創造し続けるであろう造形に対する確かな眼を養い続け、本当に眼力のある人が真に尊敬されるような学習活動を展開すべきものと考え。

松原 成樹 (まつばら しげき) 陶芸家 (50歳)

陶 房 札幌郡広島町字大曲784

経 歴 1946年 千歳市に生まれる  
美術学校で油絵を学び、卒業後に彫金を手掛ける。  
30歳を目前にして陶房に修行に入る。  
1978年 広島町に築窯。作家として活動を始める。  
1985年 「個展」(さいとうギャラリー)  
1986年 「居住するものたち展」(さいとうギャラリー)  
1987年 「炎の心陶芸展」(芸術の森)  
1988年 「個展」(さいとうギャラリー)  
1990年 「ふたりの形象展」(ギャラリーたびお)  
1991年 「リビングのクラフト展」(芸術の森)  
1993年 東京書院刊美術全集「陶」の72巻に作品収録  
1995年 「個展」企画展(陶・工芸ギャラリー銀花)  
その他「個展」「企画展」等

作家紹介 陶芸を生業としているが、制作は、食器よりも造形物とよぶような作品が多い。土へのこだわりだけでなく、木や石などにも温かい目を注ぎ、発想や素材として作品の中に生かしている。

大曲の自然の営みや陶房を包む空気や時間、その間を流れる音や響きが、氏の制作のステージとなっている。自然と向き合った生活が、作品の中の温かさややわらかさを生み出しているのだろう。

じっくりと暖めイメージをつきつめてからの端正な仕事は、土の歌を美しく響かせている。

「ゆたんぼ」「しびん」シリーズに見られる発想の豊かさとフォルムのユニークさは、生きることへの真摯な姿勢と生活を楽しむ遊びの心がバックとなっているように思う。

「骨壺」のシリーズには、人間の尊厳といった深いテーマとともに「愛」についての作家の思いが託されている。

素焼きから釉薬・本焼の工程の他に、研磨という他の作家にはない表現方法を加えることで、氏の作品はその独自性をさらに強めている。



北海道立近代美術館

北海道立三岸好太郎美術館

# 出かけよう！美術館

美術館。

美しい作品が集められた宝の箱。

そこはゆったりとした時間が流れています。

子どもたちと一緒に、じっと耳を澄ましてみると……

美術の歴史を彩ってきた数々の名作が語りかけてきます。

そんな作品のささやきにたっぷりと浸る一日。

それが大会2日目、感性の一日です。

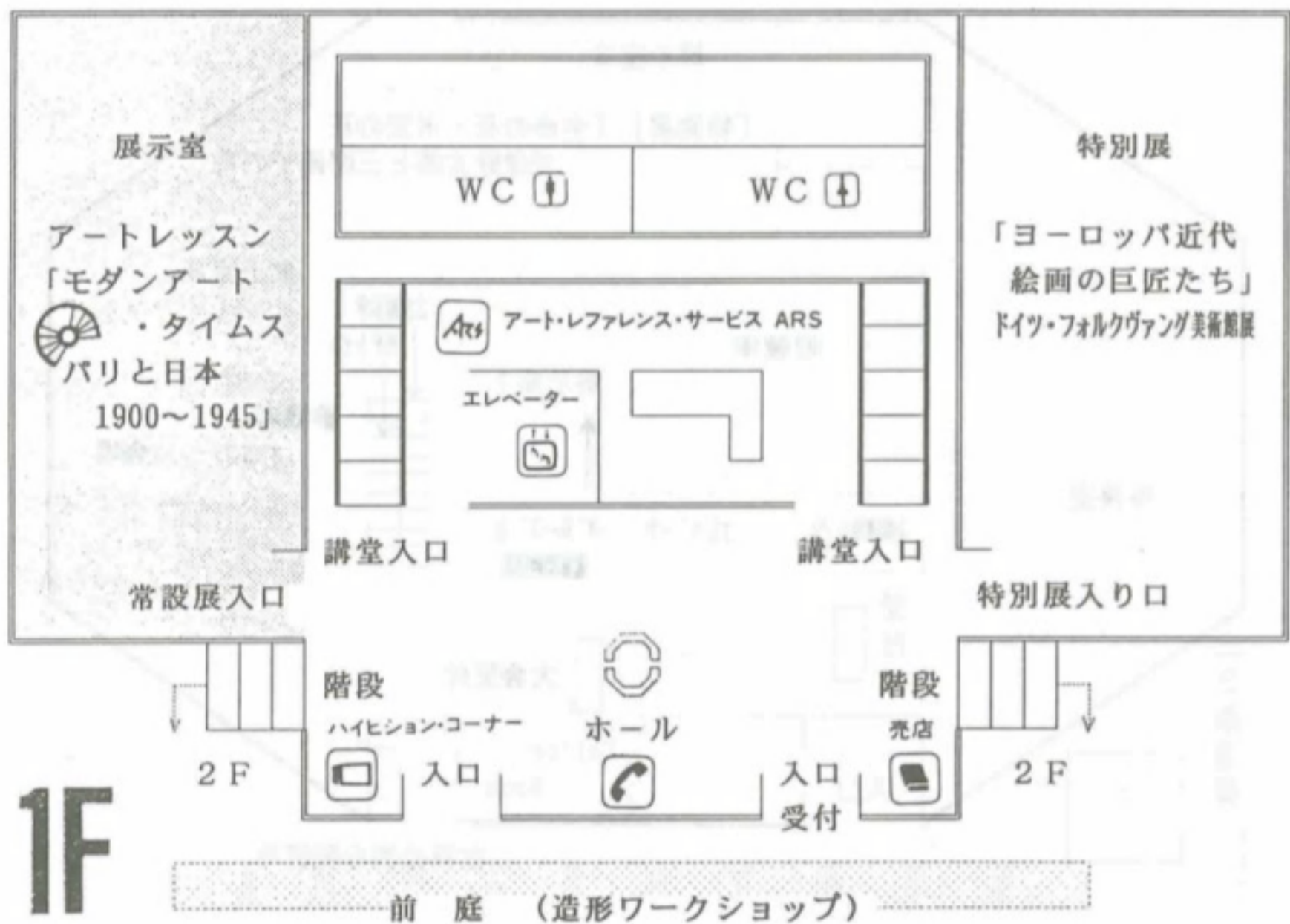
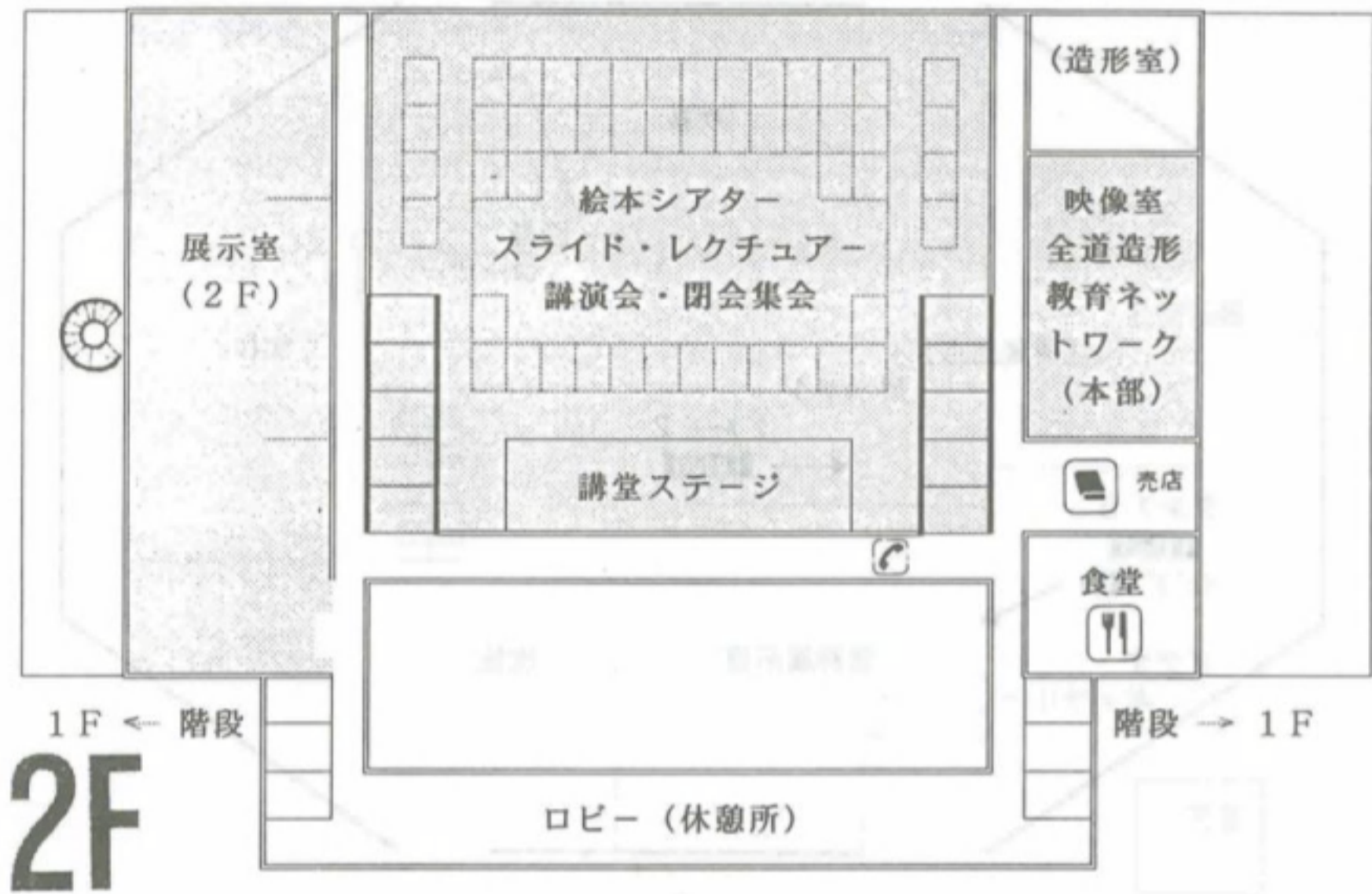
のんびりした気持ちで、子どもたちと一緒に美術館を楽しみましょう。

# 大会2日目の日程

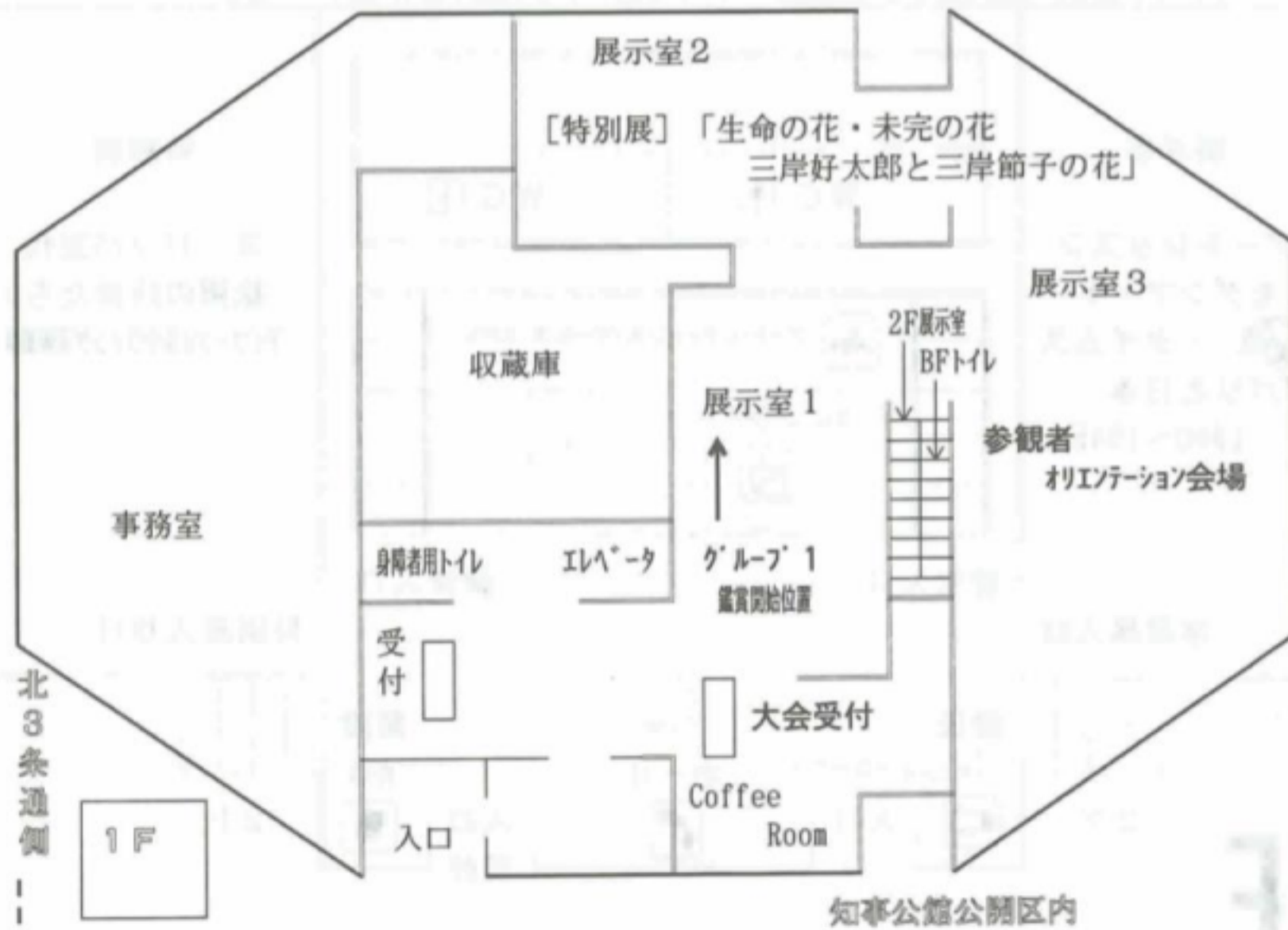
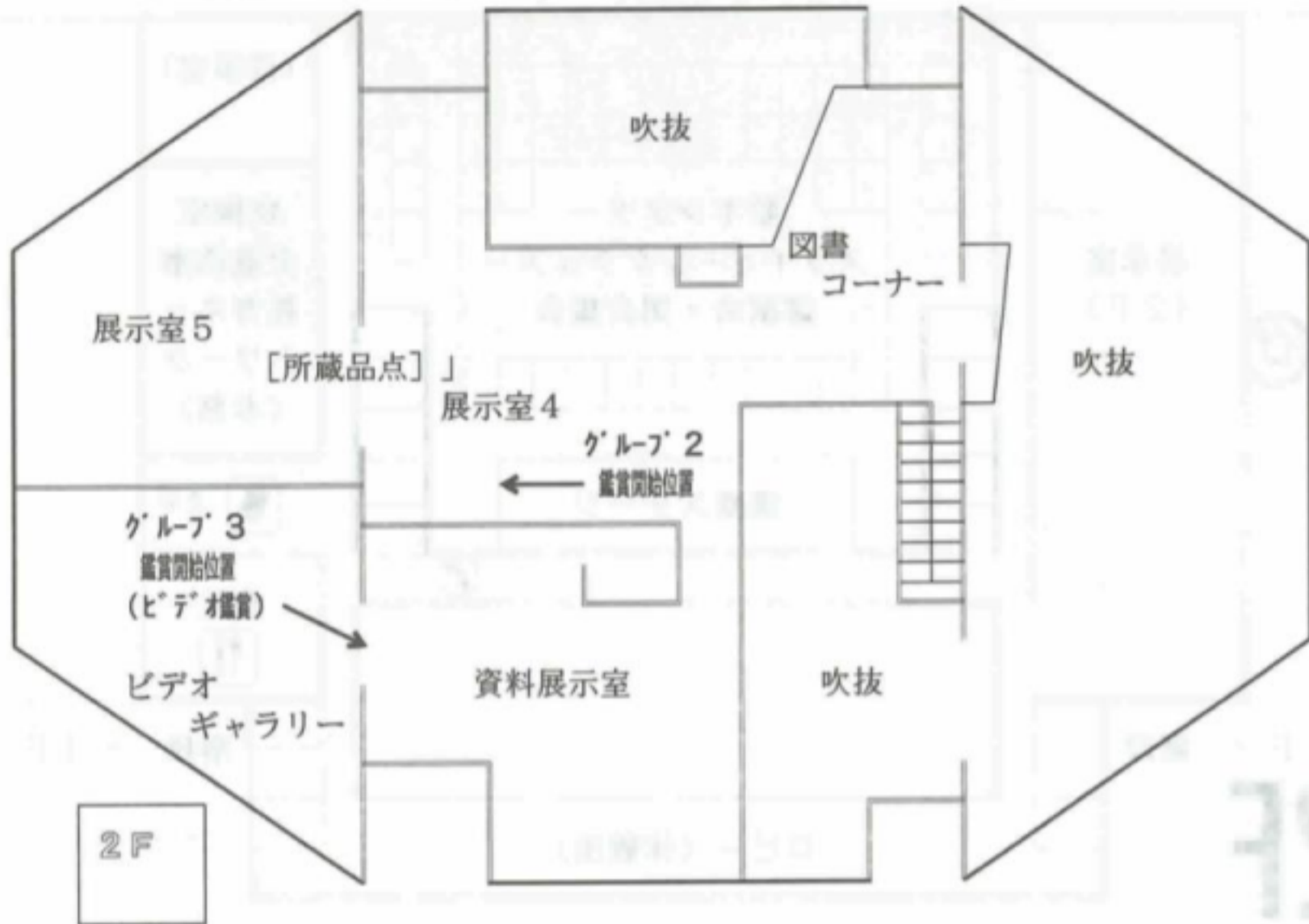
※小学校の鑑賞活動を見学する方は近代美術館で、中学校の鑑賞活動を見学する方は三岸好太郎美術館で受け付けをしてください。

	近代美術館		三岸好太郎 美術館
9:30	札幌大会参加者に開館・玄関で受け付け アートレッスン参加児童・生徒受け付け		
10:00	(展示室)	(講 堂)	(映像室)
		絵本シアター 絵画の鑑賞について、アートレッスンに参加する児童への学芸員のスライドによる指導を見学	全道造形教育 ネットワーク会議  各支部から地域の特性を生かした実践の発表と実践交流
10:30	アートレッスン 「モダンアート・タイムス パリと日本」 児童の鑑賞活動を見学する方は児童と共に展示室へ移動(50名)	スライド・レクチャー 「美術館における教育活動」 美術館の学芸員による解説	アートレッスン たんけん美術館 「『花』をテーマにした節子婦人との二人展」 「常設展」  ワークシートを使用した中学校生徒の鑑賞活動を見学
11:15		移動・休憩・準備	(近代美術館へ移動)
11:30		近代美術館講堂にて記念講演会	
12:30		講師 伊藤 恵 先生 演題 「紙の造形」	
12:45	造形ワークショップ(前庭)  美術館講師の指導による小学校児童の造形活動	閉会集会 ・大会委員長挨拶 ・大会旗譲渡 ・次年度開催 根室支部挨拶	
13:00	児童の制作活動や作品を見学		
15:30		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・閉会集会終了後は自由見学となります</li> <li>・大会のネームプレートを付ければ常設展を無料で鑑賞できます (特別展は有料)</li> </ul> </div>	

道立近代美術館 会場案内図



道立三岸好太郎美術館 会場案内図



## 楽しく学ぶ 美術の世界 ミュージアムスクール

### ◇感性を磨き新たな造形教育の可能性を開く…美術館との協力で作る新境地

生涯を通して生きて働く豊かな感性の育成をめざして、地域社会の公共教育的環境として道立近代美術館のミュージアムスクールの活動と道立三岸好太郎美術館のワークシートを利用した鑑賞レクチャーを通して、わたしたち自らが感性を働かせ、美術に接する感動や創造の喜びをはだで感じ取りながら、開かれた造形教育活動の可能性を求めていきたいと思えます。

## ○絵本シアター

《スライド映像と音楽、語りかけによる美術に関する物語の紹介》 (10:00～10:30)

これから美術館を鑑賞しようとする子供たちに、美術品の見方・とらえ方・楽しみ方などを学芸員がやさしく解説します。

……………アートレッスンに参加する小学校の子供たちといっしょに、講堂で見学してください。

## ○アートレッスン

《学芸員の引率による作品鑑賞ツアー》 (10:30～11:30)

展示室の作品「モダンアート・タイムス パリと日本 1900～1945」を小学生の子供達が数人ずつのグループになって鑑賞しながら巡っていきます。



……………子供たちといっしょに展示室を鑑賞してみませんか？子供たちは作品を観ながらどんなことを話すのでしょうか、そっと耳を傾けてください。(子供たちの活動に影響しないよう参加できる人数は50名ほどになります。グループごとに分散して見学してください。)

## ○スライド・レクチャー

《学芸員による美術館の教育活動の解説》 (10:30～11:15)

子供たちのアートレッスンと平行して、ミュージアムスクールの内容を中心に学芸員が美術館の学芸的活動についてスライドを使って解説してくれます。

……………子供たちといっしょに展示室に入れなかった方も、同様の内容が解説されますので、引き続き講堂で解説をお聞きください。

## ○造形ワークショップ

《美術館の講師の指導による造形活動》 (12:30～15:30)

美術館の前庭で子供たちが造形活動に挑戦します。緑あふれる広々とした空間や、手にする素材の新鮮さが子供たちの創造性に強く働きかけることでしょう。生き生きとした制作ぶりやダイナミックな作品が期待できそうです。(雨天の場合は中止となります)

……………講演会と平行して美術館の前庭で子供たちの造形活動が始まります。閉会集会后、ちょうど形になり始めた作品や制作ぶりがご覧いただけることでしょう。



## ○たんけん美術館

《ワークシートを利用した鑑賞レクチャー》（10:00～11:15）  
特別展「生命の花・未完の花 三岸好太郎と三岸節子の花」と所蔵品展をワークシートを使いながら楽しく、感じ、考えながら学芸員のレクチャーを受けます。

……………ワークシートを持って子どもたちと一緒に展示室をまわって見て下さい。子ども達の目が、気持ちが、どこを向いているのかゆっくりご覧下さい。

## 講演会式次第

進行 札幌市造形教育連盟授業研究部長 阿部 宏行

### 開 会

1. 講師紹介 札幌大会実行委員会  
札幌市造形教育連盟委員長 伊藤 善彬

2. 講 演 『紙 の 造 形』  
講 師 北海道造形教育連盟顧問 伊藤 恵 氏

3. 謝 辞 札幌大会運営副委員長  
札幌市教育研究協議会中学校美術部会主任顧問 香取 正人

### 閉 会

講師  
演説

伊藤 恵 先生

「紙の造形」



〈伊藤 恵 先生〉

北海道造形教育連盟顧問

元日本人形作家連盟会員

現在 幼児教育専門学校講師

伊藤先生は紙工作の実践の第一人者です。

その温かい語りかけは、子供たちはもちろん、周りの先生たちまでもほのぼのとしたよい気分させてくれます。

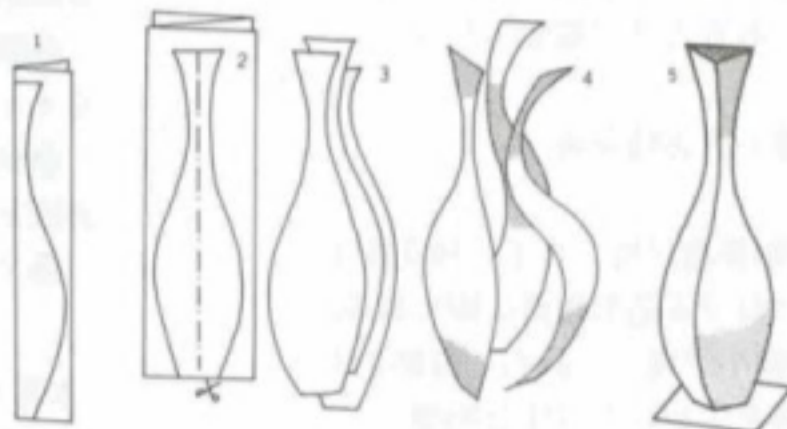
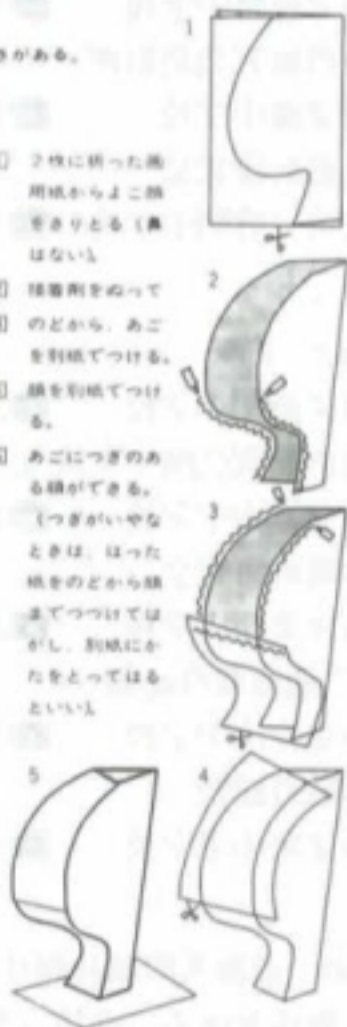
先生は展開図のいらない紙立体の工作法をあみだしました。また、「線接着」の名づけ親でもあります。北海道造形教育連盟のバッジのデザインも担当していただきました。動くものから飾るものまで幅広いレパートリィは、まさに“神（紙）業”です。

先生は本当に研究熱心です。新しいアイデアを思い付き、徹夜で制作に取り組むこともしばしばとか。つい最近も、展開図のいらないスパイラル立体を伝授され、研修に集まった先生たちを感嘆させたばかりです。今回は「大きなものに挑戦したい。」とお忙しい中で意欲的に講演の準備を進めてくださいました。

6 か お

■ よこ顔のもとにしてつくる時がある。

- ① 2枚に折った画用紙からよこ顔をきとる（鼻はない）
- ② 接着剤をぬって
- ③ のどから、あごを別紙でつける。
- ④ 頬を別紙でつける。
- ⑤ あごにつきのある顔ができる。（つぎがいやなときは、はった紙をのどから顔までつけてはがし、別紙にかたをとってほるといい）



伊藤 恵/「展開図のいらない紙工作」より

## 全道造形教育ネットワーク会議

### 「北海道の造形教育の可能性を 広げるネットワークとして」

北海道造形教育連盟 本部事務局 研究部

#### 1・はじめに

3年前の旭川大会で産声を上げた全道造形教育ネットワークも今年で4年目を迎えることになりました。昨年の石狩大会では、会場で子どもの作品の展示を行うなど、ネットワークとしての活動も具体的なものになってきています。

今回の札幌大会では、実践交流など内容的にも充実させ、根室大会に向けての見通しも明確にしたいと考えています。

#### 2・石狩大会の話し合いから

昨年の石狩大会では各支部からの報告と共に、石狩支部から提案された小学校の横の森を使った授業実践について話し合われました。地域の素材を生かした実践として価値ある提案となりました。

また、今回の札幌大会に向けては、次の3点が具体的な活動内容として確認され、継続的に取り組まれています。

##### ①「作品ネットワーク」の開催

○会場に各支部の作品を展示する。

##### ② ネットワークならではの研究発表

○全道を結ぶネットワークのよさを生かし地域素材の交流を図る。

##### ③名簿の発行

○全道18支部を網羅したものを発行する。

#### 3・ネットワーク会議の内容

##### ◆参加者

- 各支部から最低1名の参加をお願いします。
- その他、関心のある方はご参加ください。

##### ◆内容

- 校種・地域を越えた実践交流

- ① 北海道立美唄養護学校 金子 裕美先生  
「養護学校における造形教育の取り組み」
- ② 函館市立青柳小学校 高石 悦郎先生  
「地域の素材を生かした写生会指導」

- 今後の交流を展望 次年度根室大会に向けて

## 4・全道18支部代表者名簿（平成8年6月）

### <道央ブロック>

- ①札幌市造形教育連盟 菅原 清貴  
 札幌市立三角山小学校 ☎011-643-1133
- ②石狩造形連盟 伊藤 光悦  
 恵庭市立柏陽中学校 ☎0123-34-0551
- ③空知美術教育研究会 渡辺 貞之  
 深川市立深川小学校 ☎0164-23-4195
- ④連盟後志支部 田丸 公記  
 余市市立余市中学校 ☎0135-22-3293

### <道北ブロック>

- ⑤上川造形教育研究会 長谷川 まゆみ  
 名寄市立東中学校 ☎01654-2-2041
- ⑥旭川市教育研究会図工美術部会 玉手 稔唯  
 旭川市立永山小学校 ☎0166-48-2811
- ⑦留明地方美術教育研究会 傳法谷 巖  
 留明市立幌糠中学校 ☎0164-46-1144

### <道南ブロック>

- ⑧渡島美術教育研究会 横岸沢 英二  
 七飯町立大中山中学校 ☎0138-65-2221
- ⑨函館市美術教育研究会 鈴木 秀明  
 函館市立昭和小学校 ☎0138-41-4946
- ⑩松山造形教育研究会 福元 喬  
 上ノ国町立上ノ国中学校 ☎01395-5-2028
- ⑪胆振造形教育研究会 常盤 欣也  
 壮瞥町立壮瞥中学校 ☎0142-66-2367
- ⑫室蘭市教育研究会造形部 矢元 政行  
 室蘭市立東中学校 ☎0143-44-5076
- ⑬苫小牧市造形研究会 大月 猛  
 苫小牧市立啓明中学校 ☎0144-67-3115

### <道東ブロック>

- ⑭十勝造形サークル 出村 英和  
 鹿追町立通明小学校 ☎01566-7-2466
- ⑮帯広市教育研究会図工美術部 神 史明  
 帯広市立第四中学校 ☎0155-24-3511
- ⑯釧路造形教育研究会 森 富輝  
 釧路市立美原中学校 ☎0154-37-1171
- ⑰オホーツク造形教育連盟 阿部 賢一  
 余市市立余市中学校 ☎01582-3-3442
- ⑱根室造形教育連盟 山口 長伸  
 余市市立余市中学校 ☎01532-7-2040

本部事務局 道教大附属札幌小 野切 卓  
 ☎002 札幌市北区あいの里5条3丁目1  
 ☎011-778-8607FAX011-778-8475

# 全道18支部のネットワークを

## 道北ブロック

- 上川造形教育研究会
- 旭川市教育研究会図工美術部会
- 留萌地方美術教育研究会

## 全道造形教育ネットワーク

〈担当〉 本部事務局研究部  
 教育大学附属札幌小学校  
 野切 卓  
 〒002 札幌市北区あいの里  
 5条3丁目1-10  
 ☎ 001-778-8607  
 FAX 001-778-8475

## 道央ブロック

- 空知美術教育研究会
- 石狩造形連盟

## 道東ブロック

- オホーツク造形教育連盟

## 札幌ブロック

- 札幌造形教育連盟

## 道西ブロック

- 連盟後志支部

- 根室造形教育連盟

- 釧路造形教育研究会

- 十勝造形サークル

- 帯広市教育研究会図工美術部会

## 道南ブロック

- 渡島美術教育研究会
- 胆振造形教育研究会
- 函館市美術教育研究会
- 室蘭市教育研究会造形部
- 檜山造形教育研究会
- 苫小牧市造形研究会

## 平成8年度 北海道造形教育連盟名簿

1996.5

### 役員

役名	氏名	勤務校	所在地	電話
委員長	白井 罔毅	札幌市立山鼻小長	064 札幌市中央区南14条西10丁目	011(511)6616
副委員長	小杉 信雄	旭川市立神楽岡小長	078 旭川市神楽岡14条3丁目	0166(65)4569
"	石井 久	函館市立日吉が丘小長	041 函館市日吉町2丁目34-1	0138(51)7072
"	鍋谷 尊之	別海町立上西春別小長	088-25 野付郡別海町西春別駅前西町2	01537(7)2050
"	高橋 鯨治	留萌市立留萌中長	077 留萌市千鳥町3丁目	0164(42)1811
"	奥野 郁男	札幌市立向陵中長	064 札幌市中央区北4条西28丁目	011(611)4271
監査	須貝 徹	斜里町立以久科小長	099-41 斜里町以久科南24	01522(3)2916
"	宮川 誠一	江別市立江別第二中長	069 江別市野幌代々木町53	011(382)2456

### 本部事務局

役名	氏名	勤務校	電話
事務局長	吉田 倭雄	発寒小長	(661)2521
次長	小尾 喬	すずらん幼長	(782)4350
"	福嶋 齊	北陽小長	(716)1657
"	村谷 利一	栄南中長	(781)1260
"	香西富士夫	札幌平岸高	(812)2010
会計部長	芝木 秀昭	西野第二小頭	(664)0152
次長	植木 則子	西岡南小	(582)6350
庶務部長	永井 恭子	中央幼長	(251)6700
次長	池田 悦子	円山小	(631)3437
"	今谷 孝	平和小	(663)4384
"	古谷 壽朗	苗穂小	(721)5105
"	高杉 正和	中島中	(521)3351
広報部長	毛馬内國夫	桑園小	(611)4211
次長	安木 尚博	幌南小	(521)0214
"	今 裕子	山鼻小	(511)6616
"	益村 豊	山鼻南小	(532)8340
"	伊藤 尚	米里中	(875)5711

役名	氏名	勤務校	電話
研究部長	菅原 清貴	三角山小	(643)1133
次長	齊藤 三佳	白楊幼	(736)0764
"	柏木 順	いなづみ幼	(683)3185
"	阿部 宏行	中央小	(261)6568
"	篠原 寛	宮の森小	(631)6356
"	桜田 豊	幌西小	(561)2201
"	岡澤 邦彦	附属中	(778)8527
"	八重樫真一	啓明中	(561)4168
"	角力山 旭	明園中	(721)5305
"	小野 泰裕	山鼻中	(531)9941
"	小林 智彦	札幌南高	(521)2311
事業部長	小柳 雄嗣	琴似中央小	(631)6306
次長	稲實 順	創成小	(241)1756
"	白井 真澄	前田小	(683)3749
"	田口 和男	白石小	(861)9265
"	土井 善範	伏見小	(551)2771
"	仲居 正光	月寒東小	(851)7924
"	阿部 時彦	中央中	(241)6266
"	開沼 英則	札幌東陵高	(791)5055

### 事務局

〒063 札幌市西区発寒10条4丁目

札幌市立発寒小学校

TEL 011(661)2521

FAX 0118(661)9457

吉田 倭雄 しずお

本部常任委員

校種	氏名	勤務校	電話	校種	氏名	勤務校	電話	
幼保部	細川 依子	丘珠幼 もいわ幼 いなづみ幼	(782)5235	小学部	野切 卓	附属小	(778)8607	
	花田 正雄		(571)5850		堀口 基一	屯田西小	(773)6105	
	吉田 耕一郎		(663)0363		小野 正二	札苗緑小	(792)2480	
	森 美由紀				氏家 珠実	桑園小	(611)4211	
小学部	花田 正雄	南の沢小	(571)1096	中学部	田中 潤	屯田中央中	(771)5981	
	富所 玲	創成小	241(1756)		中山 龍雄	八軒中	(631)3517	
	熊谷 悦代	篠路小	(771)2221		富田 賢司	美香保中	(711)8151	
	長野 祐平	川北小	(872)5422		池嶋 憲彦	手稲東中	(661)3363	
	元茂 章子	美しが丘小	(884)9860		向 敏光	真栄中	(884)6561	
	小泉 誠	開成小	(783)4492		高橋 久美子	宮の森中	(612)1147	
	濱野 りな	南の沢小	(571)1096		高校部	松井 茂樹 石川 雅昭	札幌月寒高 東海第四高	(851)3111 (571)5175
	板田 恭侑	藤野南小	(592)2120					
	赤石 芳郎	藻岩小	(571)6011					
	小林 万咲彦	石山東小	(591)3495					
	土肥 宏充	厚別北小	(894)3011					
	川島 正夫	伏見小	(551)2771					
	大村 憲一	駒岡小	(584)6433					
	広瀬 恵子	山鼻小	(511)6616					
	加藤 正幸	新琴似北小	(762)1736					

事務局顧問

校種	氏名	勤務校	電話	校種	氏名	勤務校	電話	
幼保部	芝木 捷子	中の島幼長	(821)7414	中学部	香取 正人	南が丘中長	(571)3775	
小学部	板木 武	美しが丘緑小頭事 務取扱開校事務所	(511)1309		島 界二	札苗中	(783)1927	
			(721)5235		武市 尚政	もみじ台中長	(897)4584	
			(861)9265		多田 紘一	北白石中頭	(871)2948	
			(682)8412		早川 輝彦	屯田中央中	(771)5981	
			(872)3084		高校部他	石谷 正美 塚野 昭臣	市研究所 市指導室	(778)8527 (214)4572
			(642)0155					
			(891)1500					
			(631)6361					
			(773)6105					
			(811)8138					

順 問

氏 名	自 宅 住 所	電 話
秋 山 修 世	042 函館市深堀町27-1	0138(51)1992
石 崎 義 政	050 室蘭市東町2-25-12	0143(44)7265
石 塚 潔	059-04 登別市美園町5丁目35-12	01438(4)8820
泉 秀 雄	070 旭川市旭ヶ丘東25	0166(51)6496
伊 藤 恵	004 札幌市豊平区月寒東3条18丁目20-20	011(851)8396
伊 藤 英 明	042-02 函館市立銭亀沢中学校長(函館市豊原町140-30)	0138(58)2524
一ノ戸 信 雄	063 札幌市西区西野6条10丁目15-2	011(662)5002
稲 船 正 男	088-23 標茶町字中茶安別原野基線35	01548(8)6123
遠 藤 久 男	005 札幌市南区石山1条2丁目13-5	011(591)3647
遠 藤 光 男	053 苫小牧市白金町2	0144(74)2767
鹿 嶋 健	065 札幌市東区北20条東6丁目2-24	011(721)5554
加 藤 彬	040 函館市本町26-10	0138(53)3519
加 藤 正	005 札幌市南区南の沢5-2-6-5	011(572)6196
金 井 秀 男	064 札幌市中央区円山西町3丁目4-13	011(631)2748
金 谷 疆	042 函館市榎本町13番地21号	0138(57)0685
上 条 雄 也	070 旭川市末広東1条5丁目	0166(51)0057
川 島 信 也	071 旭川市末広6条5丁目2-7	0166(51)8692
川野上 彰	134 東京都江戸川区清新町1丁目4-15-702	
佐 藤 潔	084 釧路市春採3-5-14	0154(41)1767
佐 藤 吉五郎	006 札幌市手稲区前田8条10丁目6-3	011(683)1054
庄 栄 一	006 札幌市手稲区新発寒6条10丁目10-1	011(684)8542
菅 原 隆 治	090 北見市公園町147	0157(61)5051
諏 訪 英 雄	050 登別市若草町5-13-5	01438(6)3630
高 橋 栄 吉	064 札幌市中央区南16条西13丁目	011(561)9024
滝 村 虎 雄	041 函館市東山1丁目19-16	0138(51)6440
田 邊 康 夫	040 函館市五稜郭町25-13	0138(53)7095
種 市 誠次郎	063 札幌市西区発寒1条2丁目1-11-3	011(611)5784
寺 本 吉 明	082-01 河西郡芽室町平和	0155(62)2106
出 村 保	077 留萌市見晴町1丁目18番地	01632(7)2034
豊 島 豊	047-01 小樽市朝里川温泉1-306 サーム朝里が丘307	0134(52)4058
長谷川 傳	064 札幌市中央区南28条西10丁目5-2	011(511)7509
畠 山 三代喜	005 札幌市南区32条西9丁目388-238 グランドハイッ320	011(581)2709
早 弓 弘 行	073 滝川市本町1丁目7-23	0125(23)4828
船 着 昭 弘	065 札幌市東区北36条東28丁目2-11	011(781)5552
松 島 輝 男	001 札幌市北区屯田3条4丁目11-12	011(771)6191
三 浦 敏 勝	041 函館市山の手3丁目13-1	0138(32)3070
三 谷 哲 司	062 札幌市豊平区月寒西2条10丁目1-15	011(851)8557
宗 廣 義 彦	088-06 釧路町桂4-9-16	0154(37)7670
森 川 昭 夫	001 札幌市北区北28条西5丁目2-25-501号	011(709)5368
柳 原 寿 夫	070 旭川市旭ヶ丘4丁目	0166(52)6086
山 宮 喬 也	090 北見市三輪549-33	0157(36)0114
吉 田 義 晴	099-32 網走郡東藻琴村55 東藻琴幼稚園	0152(66)3548
米 谷 哲 夫	060 札幌市中央区南3条西23丁目	011(621)0793
和 田 弘	061-11 札幌市東区北28条西5丁目2-25-501号	

地区委員

地区	サークル名	氏名	勤務校	所在地	電話
札幌	札幌市造形教育連盟	伊藤 善彬	白石小長	003 白石区本通1丁目北4-1	011(861)9265
	〃	多田 紘一	北白石中頭	003 白石区北郷6条3丁目5-1	011(871)2948
道央	石狩造形教育連盟	吉田 英夫	西の里中長	061-11 広島町西の里790	011(375)2843
	〃	岩間 弘光	恵北中頭	061-13 恵庭市中島松230	0123(36)8966
道西	空知美術教育研究会	内田 暢一	岩見沢第二小頭	069-03 岩見沢市上幌向南3条7丁目	0126(26)1504
	〃	田上 功	南美唄小	072 美唄市南美唄町下18条3丁目	01266(3)2349
道北	後志教育研究会 函工美術部会	田丸 公記	余市東中	046 余市郡余市町朝日町71	0135(22)3293
道南	上川造形教育研究会	長谷川まゆみ	名寄東小	096 名寄市東3条南3丁目	01654(2)2041
	旭川市教育研究会 函工美術部会	飯塚 礼二	東五条小	070 旭川市東5条5丁目2-24	0166(26)0295
道東	〃	小笠原信司	春光台中	071 旭川市春光台5条3丁目	0166(54)5610
	留萌地方 美術教育研究会	織田 達史	問寒別小中長	098-29 天塩郡幌延町問寒別130	01632(6)5141
道南	渡島美術教育研究会	近堂 俊行	古武井小	041-05 亀田郡恵山町字高岱68	0138(85)2304
	函館市美術教育研究会	野呂 憲一	赤川中	041 函館市赤川町125	0134(46)0486
道東	檜山管内 造形教育研究会	福元 喬	上ノ国中長	049-06 檜山郡上ノ国町字大留50番地	01395(5)2028
	胆振造形教育研究会	佐藤 輝彦	大成小	053 苫小牧市大成町2-3-2	0144(72)6434
道東	室蘭市教育研究会 造形部	矢元 政行	東中	050 室蘭市寿町2丁目14-1	0143(44)5076
	苫小牧市教育研究会 造形部会	大月 猛	啓明中	059-12 苫小牧市錦岡439-14	0144(67)3115
道東	十勝造形サークル	斉藤 隆博	更別中央中頭	089-15 河西郡更別村南3線90	0155(52)2838
	帯広市教育研究会 函工美術部会	神 史明	帯広第四中	080 帯広市西5条南25丁目	0155(24)3511
道東	釧路造形教育研究会	奥田 泰朗	東中	085 釧路市春湖台1番3号	0154(41)3591
	〃	森 富輝	美原中	085 釧路市美原4丁目7-1	0154(37)1171
道東	オホーツク 造形教育連盟	須貝 徹	以久科小長	099-41 斜里町以久科南24	01522(3)2916
	根室造形教育連盟	山口 長伸	落石小長	088-17 根室市落石東135	01532(7)2040
道東	〃	大井誠一郎	中標津小頭	086-11 標津郡中標津町西9条北1丁目	01537(2)2565



# 札幌市造形教育連盟 会員名簿

1996.6.1現在

## ★事務局組織★

札幌市造形教育連盟 委員長 伊藤善彬 (白石小校長)  
 副委員長 芝木秀昭 (西野第二小教頭)  
 副委員長 多田紘一 (北白石中教頭)  
 副委員長 香西富士夫 (平岸高校)  
 会計 窪田恵子 (新陵小教頭)  
 会計 今裕子 (山鼻小)  
 会計監査 富田泰 (屯田西小教頭)  
 会計監査 村谷利一 (栄南中校長)  
 事務局長 菅原清貴 (三角山小)

授業研究部 ○阿部宏行 (中央小)  
 柏木順 (いなづみ幼)  
 田口和男 (白石小)  
 土肥宏充 (厚別北小)  
 篠原寛 (宮の森小)  
 野切卓 (附属小)  
 角力山旭 (明園中)  
 小林智彦 (白陵高校)

広報活動部 ○桜田豊 (幌西小)  
 堀口基一 (屯田西小)  
 古谷壽朗 (苗穂小)  
 毛利聡 (厚別東小)  
 今谷孝 (平和小)  
 小野正二 (札苗緑小)  
 八重樫真一 (啓明中)

研修活動部 ○益村豊 (山鼻南小)  
 高橋百合枝 (幌南小)  
 川島正夫 (伏見小)  
 箭内浩之 (幌西小)  
 湯浅大吾 (新陽小)  
 広瀬恵子 (山鼻小)  
 岡澤邦彦 (附属中)

庶務活動部 ○小泉誠 (開成小)  
 森美由紀 (いなづみ幼)  
 斎藤三佳 (白楊幼)  
 富樫信博 (藻岩南小)  
 松本和彦 (稲積小)  
 永井智子 (大倉山小)

【幼稚園】 ○授業研究部会長

NO	氏名	勤務先	〒勤務先住所	勤務先電話
1	○柏木 順	いなづみ 幼	〒006 手稲区前田4条5丁目1-11	683-3185
2	斎藤 三佳	白 楊 幼	〒001 北区北24条西7丁目	736-0764
3	吉田 耕一郎	も い わ 幼	〒003 白石区菊水元町6条1丁目5-1	873-2285
4	森 美由紀	いなづみ 幼	〒063 西区福井3丁目1-9	663-0363
5	細川 依子	丘 珠 幼	〒065 東区北37条東27丁目1-1	783-2233
6	芝木 捷子	なかのしま幼 長	〒062 豊平区中の島2条2丁目	821-7414
7	永井 恭子	中央 幼 長	〒060 中央区北2条西11丁目	251-6700
8	鹿島 健		〒065 東区北20条東6丁目2-24	721-5554

【小学校】 低学年部会 ○授業研究部会長

NO	氏名	勤務先	〒勤務先住所	勤務先電話
1	○篠原 寛	宮の森小 2年	〒064 中央区宮の森4条6丁目2	631-6356
2	野切 卓	附属小 5年	〒002 北区あいの里5条3丁目1	778-8607
3	久保 ふじ子	藻岩小 2年	〒005 南区川沿7条2丁目3	571-6011
4	安木 尚博	幌南小 3年	〒064 中央区南21条西5丁目	521-0214
5	広瀬 恵子	山鼻小 2年	〒064 中央区南14条西10丁目	511-6616
6	江幡 和子	みどり小 1年	〒062 豊平区美園5条2丁目2	812-8164
7	山本 景子	新川小 2年	〒001 北区新川5条15丁目1	762-1737
8	稲實 順	創成小 3年	〒060 中央区南3条西7丁目	241-1756
9	横山 瑞江	三角山小 2年	〒064 中央区宮の森4条1丁目4-1	643-1133
10	山室 ゆかり	西岡小 3年	〒062 豊平区西岡2条9丁目南1	851-9673
11	長野 祐平	川北小 3年	〒003 白石区川北4条2丁目23の8	872-5422
12	桜田 豊	幌西小 5年	〒064 中央区南10条西17丁目1-1	561-2201
13	毛利 聡	厚別東小 2年	〒004 厚別区厚別東4条8丁目1	898-4650
14	湯浅 大吾	新陽小 3年	〒001 北区北27条西14丁目	756-1538
15	石川 絢子	米里小 2年	〒003 白石区米里1条3丁目8	874-8661
16	池田 悦子	円山小 5年	〒064 中央区北1条西25丁目	631-3437
17	武部 珠希	平岡中央小 5年	〒004 豊平区平岡5条3丁目184-4	884-6541
18	平島 恵都子	月寒東小 休職	〒062 豊平区月寒東3条10丁目1	851-7924
19	川島 正夫	伏見小 2年	〒064 中央区南18条西15丁目	551-2771
20	富所 玲	創成小 外	〒060 中央区南3条西7丁目	241-1756
21	花田 正雄	南の沢小 外	〒005 南区南沢3条2丁目18-1	571-1096
22	結城 健介	平和通小 頭	〒003 白石区本通15丁目北3の1	863-0235
23	佐藤 靖	日新小 頭	〒060 中央区北8条西25丁目	631-6361
24	窪田 恵子	新陵小 頭	〒006 手稲区新発寒6条6丁目3	682-8412
25	福嶋 齊	北陽小 長	〒001 北区北31条西9丁目2	716-1657
26	伊藤 善彬	白石小 長	〒003 白石区本通1丁目北4-1	861-9265
27	金井 秀男		〒064 中央区円山西町3丁目4-13	631-2748
28	伊藤 恵		〒004 豊平区月寒東3条18丁目20	851-8396

【小学校】 中学年部会 ○授業研究部会長

NO	氏名	勤務先	〒勤務先住所	勤務先電話
1	○土肥宏充	厚別北小 1年	〒004 厚別区厚別北2条3丁目3-1	894-3011
2	永井智子	大倉山小 3年	〒064 中央区宮の森3条13丁目6	644-3984
3	細江忠子	平岡中央小 4年	〒004 豊平区平岡5条3丁目184-4	884-6541
4	植木則子	西岡南小 1年	〒062 豊平区西岡4条12丁目7-1	582-6350
5	氏家珠実	桑園小 4年	〒060 中央区北8条西17丁目	611-4211
6	太田寿栄子	平岸高台小 5年	〒062 豊平区平岸5条18丁目1-1	813-7751
7	中居正光	月寒東小 4年	〒062 豊平区月寒東3条10丁目1-1	851-7924
8	南畑知子	平和小 1年	〒063 西区平和3条8丁目2-1	663-4384
9	隈元一哉	東苗穂小 3年	〒065 東区東苗穂5条2丁目3-1	781-9191
10	岩田守代	真駒内緑小 4年	〒005 南区真駒内幸町2丁目	582-2131
11	元茂章子	美しが丘小 1年	〒004 豊平区美しが丘2条5丁目1-1	884-9860
12	高橋百合枝	幌南小 1年	〒064 中央区南21条西5丁目	521-0214
13	堀口基一	屯田西小 5年	〒001 北区屯田6条10丁目3-1	773-6105
14	小林万咲彦	石山東小 4年	〒005 南区石山東5丁目6-1	591-3495
15	大村憲一	駒岡小 5年	〒005 南区真駒内143	584-6533
16	小野正二	札苗緑小 1年	〒065 東区東苗穂13条4丁目608	792-2480
17	加藤正幸	新琴似北小 6年	〒001 北区新琴似11条6丁目	762-1736
18	平松美恵子	幌西小 1年	〒064 中央区南10条西17丁目1-1	561-2201
19	加藤雅子	開成小 4年	〒065 東区北21条東21丁目3-1	783-4492
20	今裕子	山鼻小 外	〒064 中央区南14条西10丁目	511-6616
21	板田恭侑	藤野南小 外	〒061-22 南区藤野4条6丁目296	592-2120
22	板木武	幌南小 外	〒064 中央区南21条西5丁目	521-0214
23	藤井正治	東園小 頭	〒062 豊平区豊平1条12丁目1-1	811-8138
24	伊藤暢紀	美香保小 頭	〒065 東区北18条東6丁目	721-5235
25	西寛	青葉小 頭	〒004 厚別区青葉町6丁目2-24	891-1500
26	富田泰	屯田西小 頭	〒001 北区屯田6条10丁目3-1	773-6105
27	小尾喬	すずらん幼 長	〒002 北区篠路4条9丁目3-1	771-2221
28	吉田倭雄	発寒小 長	〒063 西区発寒5条7丁目1-1	661-0412
29	船着昭弘		〒065 東区北36条東28丁目2-11	781-5552
30	鈴木将夫		〒002 北区麻生3丁目4-17	763-7684

【小学校】 高学年部会 ○授業研究部会長

NO	氏名	勤務先	〒勤務先住所	勤務先電話
1	○田口和男	白石小 6年	〒003 白石区本通1丁目北4-1	861-9265
2	高向修子	福井野小 1年	〒063 西区福井6丁目11-1	664-5551
3	澤波隆信	前田中央小 6年	〒006 手稲区前田8条12丁目2-1	681-4811
4	押田一郎	西野第二小 6年	〒063 西区西野8条7丁目1-1	664-0152
5	福島由紀子	南郷小 1年	〒003 白石区本郷通4丁目南3-1	861-9305
6	松本和彦	稲積小 6年	〒006 手稲区前田5条7丁目1-1	685-3871
7	谷山圭子	西宮の沢小 6年	〒006 手稲区宮の沢2条4丁目	694-4291
8	伊藤寿朗	発寒西小 5年	〒063 西区発寒5条7丁目583	661-0397
9	菅原清貴	三角山小 3年	〒064 中央区宮の森4条1丁目4-1	643-1133
10	小泉誠	開成小 6年	〒065 東区北21条東21丁目3-1	783-4492
11	阿部宏行	中央小 4年	〒060 中央区大通東6丁目	261-6568
12	小柳雄嗣	琴似中央小 6年	〒063 西区八軒7条東1丁目	631-6306

NO	氏名	勤務先	〒勤務先住所	勤務先電話
13	白井真澄	前田小 6年	〒006 手稲区前田6条11丁目	683-3749
14	富樫信博	藻岩南小 6年	〒005 南区川沿18条2丁目	572-2101
15	熊谷悦代	篠路小 3年	〒002 北区篠路4条9丁目3-1	771-2221
16	浜野りな	南の沢小 1年	〒005 南区南沢3条2丁目18-1	571-1096
17	益村豊	山鼻南小 1年	〒064 中央区南29条西12丁目	532-8340
18	奈良岡学	和光小 6年	〒001 北区北34条西7丁目3-2	736-7351
19	土井善範	伏見小 5年	〒064 中央区南18条西15丁目	551-2771
20	箭内浩之	幌西小 1年	〒064 中央区南10条西17丁目1-1	561-2201
21	原田香利	美香保小 5年	〒065 東区北18条東6丁目	721-5235
22	蛭子信也	北九条小 講師	〒060 北区北9条西1丁目	736-2564
23	今谷孝	平和小 外	〒063 西区平和3条8丁目2-1	663-4384
24	毛馬内國夫	桑園小 外	〒060 中央区北8条西17丁目	611-4211
25	古谷壽朗	苗穂小 外	〒065 東区北9条東13丁目1-1	721-5105
26	赤石芳郎	藻岩小 外	〒005 南区川沿7条2丁目3-1	591-3495
27	梅野隆	共栄小 外	〒004 厚別区厚別南2丁目21-22	891-4602
28	伊藤武司	あいの里東小 頭	〒002 北区あいの里条丁目	771-3900
29	芝木秀昭	西野第二小 頭	〒063 西区西野8条7丁目1-1	664-0152
30	谷勲	菊水小 長	〒003 白石区菊水元町2条3丁目	872-3084
31	白井國毅	山鼻小 長	〒064 中央区南14条西10丁目	511-6616
32	鶴賀孝三	八軒小 長	〒063 西区八軒4条西1丁目	642-0155

【中学校】 ○授業研究部会長

NO	氏名	勤務先	〒勤務先住所	勤務先電話
1	○角力山旭	明園中	〒065 東区北22条東12丁目1-1	721-5305
2	小林秀史	栄南中	〒065 東区北36条東16丁目1-1	781-1260
3	高杉正和	中の島中	〒062 豊平区中の島2条3丁目9-1	842-3601
4	伊藤尚	米里中	〒003 白石区米里1条4丁目5-1	875-5711
5	岡澤邦彦	附属中	〒002 北区あいの里5条3丁目1-11	778-8527
6	八重樫真一	啓明中	〒064 中央区南9条西22丁目2-1	561-4168
7	阿部時彦	中央中	〒060 中央区北4条東3丁目	241-6266
8	田中潤	屯田中央中	〒001 北区屯田6条8丁目1-1	771-5981
9	中山龍雄	八軒中	〒063 西区八軒8条西8丁目1-1	631-3517
10	富田賢司	美香保中	〒065 東区北17条東6丁目	711-8151
11	池嶋憲彦	手稲東中	〒063 西区西野2条5丁目	661-3363
12	野泰裕	山鼻中	〒064 中央区南23条西13丁目1-1	531-9941
13	小向敏光	真栄中	〒004 豊平区美しが丘1条1丁目2	884-6561
14	高橋久美子	宮の森中	〒064 中央区宮の森1条16丁目5-1	612-1147
15	島界二	札苗中	〒065 東区東苗穂7条1丁目1-1	783-1027
16	築地政樹	宮の丘中	〒063 西区西野3条10丁目9-1	662-6611
17	早川輝彦	屯田中央中	〒001 北区屯田6条8丁目1-1	771-5981
18	多田紘一	北白石中 頭	〒003 白石区北郷6条3丁目5-1	871-2948
19	奥野郁男	向陵中 長	〒064 中央区北4条西28丁目1-30	611-4271
20	香取正人	南が丘中 長	〒005 南区南沢2条1丁目17-1	571-3775
21	武市尚政	上野幌中 長	〒004 厚別区上野幌2条3丁目10-1	895-0531
22	村谷利一	栄南中 長	〒065 東区北36条東16丁目1-1	781-1260

【高校】 ○授業研究部会長

NO	氏名	勤務先	〒勤務先住所	勤務先電話
1	○小林智彦	白陵高	〒003 白石区米里2062番地10	871-5500
2	開沼英則	東陵高	〒065 東区東苗穂町887	791-5055
3	松井茂樹	月寒高	〒062 豊平区月寒東1条3丁目	851-3111
4	石川雅昭	東海第四高	〒005 南区南沢517-1-1	571-5175
5	香西富士夫	平岸高	〒062 豊平区平岸5条18丁目	812-2010

【賛助会員】

NO	氏名	勤務先	〒勤務先住所	勤務先電話
1	阪内洋	東京書籍	〒064 中央区南6条西14丁目1-5	562-5721
2	中元忠	日本文教出版	〒001 北区新琴似9条12丁目1-1	764-1201
3	渡辺克俊	開隆堂	〒060 中央区南1条西4丁目日の出ビル	231-0403

事務局長 菅原清貴(三角山小学校)  
住所: 札幌市中央区宮の森4条1丁目  
電話: (011)643-1133

## 石狩造形教育連盟会員名簿

平成8年5月31日

役職	氏名	学校	住所	電話
顧問	三上 晤		066 千歳市新富2-11-3	0123-24-7756
"	谷村 宏巳		067 江別市大麻197-50	011-386-6507
"	巖 信栄		061-14 恵庭市福住3-16-9	0123-34-5489
"	奈良 孝秋		066 千歳市東雲5-18-1	0123-23-2076
"	和田 弘		061-11 広島町栄町2-2-3	011-373-4230
"	本庄 勝弘		002 札幌市北区篠路2-3-7-12	011-773-5575
委員長	宮川 誠一	江別二中	069 江別市野幌代々木町53	011-382-2456
副委員長	池端 外博	江別中央小	067 江別市向カ丘54	011-384-3001
"	関 建治	千歳北陽小	066 千歳市北陽3丁目9-1	0123-42-3441
"	福田 靖之	江別野幌小	069 江別市西野幌252	011-382-2151
"	横山 和郎	千歳北陽高	066 千歳市北陽2-10-53	0123-24-2818
"	堂下 由紀子	大曲東小	061-11 広島町字大曲466-33	011-377-7000
会計	竹内 督人	江別大麻中	067 江別市大麻宮町1	011-386-5341
監査	柴井 義雄	紅葉山小	061-32 石狩町花川北3条3-1	0133-74-6656
"	菊池 俊弘	石狩八幡小	061-33 石狩町八幡4丁目167	0133-66-3129
事務局長	吉田 英夫	西の里中	061-11 広島町字西の里790	011-375-2843
次長	岩間 弘光	恵庭恵北中	061-13 恵庭市中島松230	0123-36-8966
局員	林 憲一	中小屋小	061-02 当別町字中小屋213	01332-7-2024
"	野澤 紀義	浜益幌中	073-14 浜益村大字幌別村字幌	013379-2217

役職	氏名	学校	住所	電話
局員	木谷史郎	千歳桜木小	066 千歳市自由ヶ丘7-1-1	0123-22-3301
"	土井勝典	広島西部小	061-11 広島町字島松284-1	011-376-2104
"	大釜昭	千歳緑小	066 千歳市緑町4丁目28	0123-23-4107
"	本田章	江別江陽中	067 江別市江別太197-6	011-385-0851
"	桑田正博	江別大麻中	069 江別市大麻宮町1	011-386-5341
"	伊藤光悦	恵庭柏陽中	061-14 恵庭市柏陽町3丁目	0123-34-0551
研究部長	山崎正明	向陽台中	066 千歳市若草5丁目5-5	0123-28-4286
次長	養島裕二	江別三小	067 江別市緑町西1-37	011-382-2205
常任委員	平山一弥	千歳北陽小	066 千歳市北陽3丁目9-1	0123-42-3441
"	豊田治子	野幌若葉小	069 江別市野幌若葉町5-3	011-385-3131
組織部長	墓田充泰	西当別中	061-37 当別町字獅子内17線	01332-6-2252
次長	島田茂	江別小	067 江別市萩ヶ丘19	011-382-3153
常任委員	野口裕司	石狩中	061-33 石狩町大字花畔村293	0133-62-3052
"	安藤信行	広島高台小	061-11 広島町高台町2丁目1	011-373-3330
事業部長	浜口秀樹	千歳中	066 千歳市栄町4丁目33	0123-23-3161
次長	西村司	江別二中	069 江別市野幌代々木町53	011-382-2456
常任委員	中野悟	江別三小	067 江別市緑町西1-37	011-382-2205
"	藤木邦啓	千歳北陽小	066 千歳市北陽3丁目9-1	0123-42-3441
広報部長	山田浩人	千歳青葉中	066 千歳市豊里4丁目1-1	0123-23-4147
次長	工藤雅人	広島大曲中	061-11 広島町字大曲84-1	011-376-2354
"	宮武輝久	厚田望来中	061-35 厚田村大字望来96	01337-7-2121
"	田中嘉	大麻東中	069 江別市大麻697	011-387-0732
千歳地区代表委員	小森政英	向陽台小	066 千歳市若草5丁目1	0123-28-2111
広島地区代表委員	清野宰	広島広葉中	061-11 広島町広葉町5丁目1	011-373-4918
石狩地区代表委員	井上治子	紅葉山小	061-32 石狩町花川北3条3丁目1	0133-74-6656
恵庭地区代表委員	浅田真	恵庭恵明中	061-14 恵庭市黄金北4丁目1	0123-33-3001
厚田・浜益代表委員	石丸靖之	浜益中	073-14 浜益村字下川村141	013379-2046
江別地区代表委員	池田元治	大麻西小	069 江別市大麻扇町1	011-386-5013
当別・新篠津代表委員	工藤知子	当別小	061-02 当別町元町102	01332-3-2102

1996年度 空知美術教育研究会会員名簿

氏名	勤務校	住所	電話番号	役職
渡辺 貞之	深川小学校	深川市西町23	(0164)23-4195	広報部長
池田 香奈	納内中学校	深川市納内町3934	" 24-2040	
加藤 勉	一巳中学校	深川市稲穂町1	" 22-3341	
手島 トモ子	妹背牛小学校	妹背牛町432	" 32-2456	
己丸 聡史	沼田中学校	沼田町南1-1	" 35-2850	
平口山 木綿	雨竜中学校	雨竜町満寿28-26	(0125)77-2150	
伊藤 俊	第一小学校	滝川市一の坂町西2	" 23-2219	
松本 香織	"	" "	" "	
中山 美恵子	第二小学校	" 滝の川町東1	" 22-2786	
島谷 愛子	第三小学校	" 花月町2	" 24-6105	
佐々木 カズミ	"	" "	" "	
松岡 満弘	西小学校	" 西町6	" 24-6275	
鈴木 誠	"	" "	" "	
北村 美穂	東栄小学校	" 東滝川389	" 28-2419	
中島 洋一	江陵中学校	" 黄金町西1	" 24-6155	
鈴木 誠	"	" "	" "	
佐藤 正幸	"	" "	" "	
梅津 守	開西中学校	" 西町3	" 23-3549	
川西 勝	明苑中学校	" 新町4	" 23-2129	
大脇 基樹	新十津川中学校	新十津川町中央25	" 76-2161	
山本 絃正	"	" "	" "	
坂野 郁子	北光小学校	砂川市北光68	" 52-2660	
広川 徹	空知太小学校	" 空知太西5-6	" 53-3077	
佐藤 亜紀子	"	" "	" "	事業部長
住吉 浩二	砂川中学校	" 吉野2南5	" 52-4204	
田家 靖久	"	" "	" "	
南條 理佳	石山中学校	" 空知太東3-1	" 53-3248	
佐藤 一	中央小学校	上砂川町鶴308	" 62-2050	
上杉 真智子	赤平小学校	赤平市大町3	" 32-2806	
嶋倉 訓	百戸小学校	" 百戸町東4-13	" 32-2030	
芳村 桐子	赤間小学校	" 豊里32	" 32-3330	
高橋 ひとみ	茂尻小学校	" 茂尻本町1-3	" 32-2314	
岩田 智弘	中央中学校	" 大町3-1	" 32-3339	
高久保 勝子	西小学校	歌志内市文珠154	" 42-2041	
合田 里美	"	" "	" "	
横山 徹	"	" "	" "	
鈴木 真由美	歌志内中学校	" 神威43	" 42-3057	
川崎 善弘	芦別中学校	芦別市北6東1	(01242)4-2111	
小川 ゆり	上芦別小学校	上芦別町79	" 2-4021	
樋口 百合子	芦別小学校	" 北2東1	" 2-2573	
真鍋 昌子	"	" "	" "	
沢井 登紀子	"	" "	" "	
大林 誠	啓成中学校	" 上芦別町263	" 4-4141	
高田 宏昭	月形小学校	月形町神園町1	(0126)53-2422	

氏名	勤務校	住所	電話番号	役職
中島 琢磨	"	" "	" "	
三沢 やす子	月形中学校	" 赤川1030	" 53-2439	
原田 聡子	中和小学校	" 月ヶ岡370	" 53-2199	
椿 弘司	東小学校	岩見沢市東町2-7	" 22-1018	
新行内 和子	南小学校	" 9条東4	" 22-2618	
川越 康男	第二小学校	" 上幌向南3-7	" 26-1504	
内田 暢一	"	" "	" "	事務局長
鈴木 忠良	東光中学校	" 5条東14	" 22-0329	
石井 睦夫	"	" "	" "	
田中 敏雄	"	" "	" "	
渡部 稔	"	" "	" "	監査委員
高田 幸三	光陵中学校	" 春日町1	(0126)22-0037	
石崎 哲男	"	" "	" "	
玉木 憲治	清園中学校	" 志文町927	" 22-4859	
宮川 美樹	高等養護学校	" 東町2-8	" 23-5055	
渡部 美香	栗山小学校	栗山町中央3	(01237)2-1178	
石蔵 郁子	"	" "	" "	
岩瀬 貴寛	栗山中学校	" 湯地60	" 2-0269	
白井 万寿子	東小学校	美唄市東明町4区	(01266)3-2611	
田島 孝雄	東栄小学校	" 東明3-2	" 3-2629	
五十嵐 伸幸	"	" "	" "	
能戸 桂子	中央小学校	" 西4北1	" 3-4215	
田上 功	南美唄小学校	" 南美唄町下18	" 3-2349	副会長
池内 三津子	"	" "	" "	
辻 義彦	西美唄小学校	" 山形3	" 9-2921	
鎌田 俊博	美唄中学校	" 西5北3	" 3-4211	総務部
伊藤 記子	東中学校	" 東7北2	" 3-2610	
吉水 裕美	西美唄中学校	" 西美唄町山形3	" 9-2050	
松川 哲	幾春別小学校	三笠市奔別新町306	(01267)6-8029	
青竹 栄子	新幌内小学校	" 唐松青山町	" 2-3073	監査委員
佐藤 祈	磯生中学校	" 弥生並木町	" 6-8645	事務局次長
寺谷 安雄	幌内中学校	" 幌内町3	" 2-2169	会長
伊藤 昇	長沼中央小学校	長沼町市街地	(01238)8-2343	
折笠 博三	三川中学校	由仁町本三川484	" 6-2833	
中沢 孝仁	みどり野小学校	南幌町美園2	(011)378-2409	
藤田 道子	南幌中学校	" 南14西9	" 378-2429	
弥勒院 種臣	緑陽中学校	夕張市沼の沢38	(01235)7-2003	
岡山 宏文	夕張小学校	" 本町5	" 2-3305	
藤田 謙吾	清水沢小学校	" 清水沢清陵町	" 9-7328	
野村 幸伸	清水沢中学校	" 南清水沢3	" 9-7480	

<O・B>

氏名	住所	役職
浅野 日出男	美唄市西3北6	
佐々木 栄子	" 東7北3	
一ノ戸 信雄	札幌市西野6-10-15-2	
徳梅 英次郎	" 手稲区稲穂3-3オーシャンビル801	



氏名	住所	役職
堂下 拓美	“ 豊平区北野3-4	
庄 栄一	“ 手稲区新発寒6-10-10-1	
玉木 玲	“ 西区発寒9-13-1-1-701	
早弓 弘行	滝川市本町1-7-23	
中村 多恵子	“ 朝日町西1-3-24	
本田 哲也	由仁町東馬追73-33	
長谷川 まゆみ	名寄市東3南3 名寄東小学校	
川村 恒夫	浦臼町晩生内	監査委員
中里 馨	長沼町市街地	
水谷 淳	深川市北光町2-15-19	
青山 清輝	岩見沢市9条西14サ-ム9条西512	
枝広 健二	“ 7条東3-12	
佐藤 久子	芦別市北5東1	
広川 明男	奈井江町南町6	

## 上川支部会員名簿

会員氏名	勤務学校名	勤務先の住所 (〒)	役職(事務局組織)
坂野 潤治	名寄市立名寄東小学校	〒096名寄市東3条南3丁目 ☎01654-2-2041・2-4179	
長谷川 まゆみ	名寄市立名寄東小学校	〒096名寄市東3条南3丁目 ☎01654-2-2041・2-4179	上川支部 事務局長
宮本 佳世	名寄市立名寄西小学校	〒096名寄市西7条南1丁目 ☎01654-2-4177・2-4178	
工藤 幸恵	名寄市立名寄智恵文小学校	〒094名寄市字智恵文12線南3番地 ☎01654-8-2241	上川支部 事務局
盛本 学史	名寄市立名寄智恵文小学校	〒096名寄市字智恵文12線南3番地 ☎01654-8-2241	
横山 啓一	名寄市立名寄中学校	〒096名寄市豊栄101番地 ☎01654-2-2147・2-2148	上川支部 事務局
成田 慎司	名寄市立名寄東中学校	〒096名寄市西2条北8丁目 ☎01654-2-3174・2-3175	
佐藤 源治	風連町日進小中学校	〒096風連町字日進3141番地 ☎01655-2-6036・2-6711	

平成8年度 旭川市教育研究会図工美術部

名 前	勤務校	勤務先の住所	電話番号	役 職
伊藤 順治	知新小	旭川市8条13丁目	24-3488	
佐藤 孝雄	青雲小	旭川市2条西2丁目	22-7495	
亀淵 興紀	大有小	旭川市旭町1条6丁目	51-4167	
新井 絹恵	啓明小	旭川市南2条22丁目	31-4195	
太田 哲嗣	春光小	旭川市末広1条1丁目	51-5288	研究部副
大山 みのり	北鎮小	旭川市春光町3区4条	51-5111	
五十嵐 一之	高台小	旭川市春光台1条3丁目	51-9302	顧問(校長)
紙谷 恒	近文小	旭川市緑町17丁目	51-1495	
喜多本 恵	"	"	"	
飯塚 礼二	東五条小	旭川市東5条5丁目	26-0295	特別委員会長
大谷 伸也	"	"	"	
川村 由美子	東町小	旭川市豊岡3条1丁目	32-3296	
築山 尚明	雨紛小	旭川市神居町雨紛380	61-6817	特別委員会
新飯田 登	上雨紛小	旭川市神居町上雨紛113	62-5835	
玉手 稔唯	永山小	旭川市永山5条18丁目	62-6207	研究部長
古屋 栄隆	"	"	"	顧問(校長)
中島 貴子	"	"	"	
渡辺 盛子	永山東小	旭川市永山町13丁目	48-1049	
伊藤 久栄	"	"	"	
垣内 寛子	永山西小	旭川市永山7条11丁目	48-1042	編集部副
阿部 英子	"	"	"	
米田 みき	"	"	"	
山田 瑞穂	"	"	"	
長谷田 勉	永山南小	旭川市永山9条6丁目	48-2230	
小川 修二	"	"	"	
赤島 吉昭	旭川第二小	旭川市東旭川旭正236	31-2609	
長瀬 優	"	"	"	
古瀬 真理恵	"	"	"	
北山 憲子	旭川第三小	旭川市東光8条8丁目31-0561		
菅原 敏光	旭川第四小	旭川市東旭川豊田306	76-2112	特別委員会
鳥本 捷夫	"	"	"	編集部長
嶋田 修二	旭川第五小	旭川市東旭川東桜岡72	36-5321	
青木 雄一	千代田小	旭川市東光8条8丁目	31-0967	特別委員会
氏家 貞	"	"	"	
若林 弘士	豊岡小	旭川市豊岡10条3丁目	31-0251	
刀瀬 典雄	"	"	"	
工藤 齊	神楽小	旭川市5条8丁目	61-1171	
中井 光夫	西神楽小	旭川市西神楽北2の3	75-4364	
宮崎 昇	西御料地小	旭川市西神楽3線5号	65-0157	
佐藤 仁彦	"	"	"	顧問(校長)
小杉 信雄	神楽岡小	旭川市神楽岡14条3丁目	65-4569	
村上 奈々江	"	"	"	
本間 和美	"	"	"	
木村 悦子	北光小	旭川市旭町1条16丁目	51-7712	

名 前	勤務校	勤務先の住所	電話番号	役 職
高橋良江	北光小	旭川市旭町1条16丁目	51-7712	
石垣廣	近文第一小	旭川市東鷹栖3線10号	57-4441	図工美術部副
波多野恭輔	近文第二小	旭川市東鷹栖4線16号	57-2201	顧問(校長)
弘田洋子	愛宕小	旭川市豊岡8条6丁目	33-5853	
門脇元	"	"	"	
澁谷幹子	"	"	"	
沢口容子	愛宕東小	旭川市豊岡7条9丁目	32-2311	
居島アヤ子	"	"	"	
坂本幸	緑が丘小	旭川市緑が丘3条4丁目	65-6369	
小倉孝	"	"	"	
村住久恵	神居東小	旭川市神居1条17丁目	62-2932	
西永円	"	"	"	
松浦典生	東光小	旭川市東光18条6丁目	32-9958	
長田和代	"	"	"	
山口徹	"	"	"	
松原實	"	"	"	
市野恵美子	陵雲小	旭川市末広1条7丁目	57-6438	
山科瑞穂	"	"	"	
吉田顕康	忠和小	旭川市忠和4条4丁目	62-2923	研修部長
佐藤之憲	"	"	"	事業部副
長屋京子	"	"	"	
福井洋子	"	"	"	
増田正子	"	"	"	
石道恵智子	末広北小	旭川市末広5条11丁目	57-6635	
宮崎智	附属旭川小	旭川市春光町1区1条	52-2361	
吉中博道	"	"	"	
齋藤恵都子	旭川盲学校	旭川市旭町2条15丁目	51-8101	
真木房子	"	"	"	
鈴木悦子	"	"	"	
山野照人	旭川聾学校	旭川市住吉4条3863	51-6121	
大槻茂	明星中	旭川市5条1丁目	26-0468	
川合薫	"	"	"	
大坪卓司	"	"	"	
中西清治	"	"	"	顧問(校長)
川原潤	光陽中	旭川市豊岡3条1丁目	31-9177	
青木新治	北星中	旭川市住吉町4条	51-5491	編集部副
四十物明紀	"	"	"	
菅導信	聖園中	旭川市5条西5丁目	22-4786	
重山恵	"	"	"	特別委員会
関秋宏	北都中	旭川市8条通16丁目	26-1495	
千葉哲也	六合中	旭川市末広3条2丁目	51-5388	
入井峰生	北門中	旭川市錦町15丁目	51-1431	
吉尾隆市	東光中	旭川市東光8条2丁目	32-1295	
岩永総子	"	"	"	
大口優	"	"	"	特別委員会
菅野敦子	神居中	旭川市神居4条5丁目	61-7261	
本田幸市	永山中	旭川市永山7条19丁目	48-2511	

名 前	勤務校	勤務先の住所	電話番号	役 職
澤田克之	永山中	旭川市永山7条19丁目	48-2511	事業部副
山理利春	旭川中	旭川市東旭川南1条6丁目	36-1007	顧問(校長)
土屋誠	"	"	"	
長野晃児	神楽中	旭川市神楽4条8丁目	61-7196	
宮崎由子	"	"	"	
平野雅拡	"	"	"	
林慶子	西神楽中	旭川市西神楽南2の4	75-4451	
高山弥生	啓北中	旭川市春光6区3条2丁目	52-4499	
森洋	東陽中	旭川市豊岡2条7丁目	34-3047	
大西勤	"	"	"	
石川文江	緑が丘中	旭川市緑が丘3条4丁目	65-6367	
品田潤	"	"	"	事業部長
吉本博二	"	"	"	研修部副
小笠原信志	春光台中	旭川市春光台5条3丁目	54-5610	図工美術部長
飛騨野弘尚	永山南中	旭川市永山町5丁目	48-8117	研修部副
本瀬和子	"	"	"	
森清行	神居東中	旭川市神居4条19丁目	61-8298	事務局
西岡裕英	附属旭川中	旭川市春光1区1条	53-2751	
小山浩一	広陵中	旭川市末広2条7丁目	57-7330	
小町吉隆	"	"	"	
千葉豊治	"	"	"	顧問(校長)
小畑絵理	東明中	旭川市東光16条7丁目	33-3824	
加藤隆	愛宕中	旭川市豊岡8条10丁目	34-9090	図工美術部副
佐藤弘法	忠和中	旭川市忠和1条4丁目	61-5300	研究部副

## 平成8年度 留萌地方美術教育研究会会員名簿

番号	氏名	学校名	住 所	☎	役 職
1	織田 達史	問寒別小中学校	☎098-29 幌延町問寒別130	01632-6-5141	会 長
2	日下 薫	鬼鹿小学校	☎078-34 小平町鬼鹿字田代10	0164-57-1160	副会長、理事研究部員
3	伝法谷 巖	幌糠小学校	☎078-31 留萌市幌糠町1861	0164-46-1144	副 会 長
4	上坪 敏	鬼鹿小学校	☎078-34 小平町鬼鹿字田代10	0164-57-1160	監 査
5	増田 勝治	阿分小学校	☎077-01 増毛町阿分村シンナイ116	0164-54-2304	監 査
6	斎藤 友昭	舎熊小学校	☎077-01 増毛町舎熊村90	0164-54-2121	事務局長、理事
7	竹内 堅治	川口小学校	☎098-33 天塩町川口208-3	01632-2-3266	事務局次長次長
8	池田 優子	緑丘小学校	☎077 留萌市千鳥町3-22	0164-42-1294	会 計
9	池田 忠喜	振老小学校	☎098-33 天塩町字下サロベツ	01632-2-3231	研 究 部 長
10	金沢 典子	港南中学校	☎077 留萌市沖見町2-141	0164-42-1898	事業部長、理事
11	岡田加世子	東光小学校	☎077 留萌市住之江町4丁目	0164-42-1820	理 事
12	松永 直子	羽幌小学校	☎078-41 羽幌町南5条5丁目1番地	01646-2-1040	理 事
13	塩田 晃	天塩小学校	☎098-33 天塩町新栄通5	01632-2-1046	理事、研究部員
14	野島 操	本郷小学校	☎077-02 小平町本郷44-1	0164-56-2275	研究部副員
15	松田 恭子	増毛小学校	☎077-02 増毛町暑寒沢村字弁天山の上	0164-53-2174	研 究 部 員

番号	氏名	学校名	住所	☎	役職
16	居島 順子	緑丘小学校	☎077 留萌市千鳥町3丁目	0164-42-1294	研究部員
17	梅原 賢伸	羽幌中学校	☎078-41 羽幌町北5条3丁目	01646-2-1055	〃
18	工藤 臣	留萌中学校	☎077 留萌市千鳥町3丁目	0164-42-1812	〃
19	高橋 鎌治	留萌中学校	☎077 留萌市千鳥町3丁目	0164-42-1812	〃
20	原田 菊枝	港南中学校	☎077 留萌市沖見町2-141	0164-42-1898	事業副部長
21	角銅 隆	東光小学校	☎077 留萌市住之江町4丁目	0164-42-1820	事業部員
22	山田とし子	留萌小学校	☎077 留萌市寿町2丁目	0164-42-1720	〃
23	高橋 香	増毛小学校	☎077-02 増毛町暑寒沢村字弁天山の上	0164-53-2174	〃
24	前田 裕子	沖見小学校	☎077 留萌市沖見町4丁目62	0164-43-7814	〃
25	佐々木 忍	藤山小学校	☎078-32 留萌市藤山町18線	0164-43-1315	〃
26	滝本 都子	羽幌小学校	☎078-41 羽幌町南5条5丁目1番地	01646-2-1040	〃
27	立花 陽子	古丹別小学校	☎078-36 苫前町古丹別430-3	01646-5-4004	〃
28	村本 隆一	臼谷小学校	☎078-33 小平町字豊平223	0164-57-1160	〃
29	小西 共美	羽幌小学校	☎078-41 羽幌町南5条5丁目1番地	01646-2-1040	〃
30	室谷 雄一	豊岬小学校	☎078-45 初山別村字豊岬182番地	01646-7-2309	〃
31	伊藤 優子	清川小学校	☎098-35 遠別町字清川216	01632-7-3786	〃
32	日下 智子	天塩中学校	☎098-33 天塩町字川口5705-1	01632-2-1522	〃
33	富樫 淳子	天塩小学校	☎098-33 天塩町新栄通5	01632-2-1046	〃
34	野口 修一	川口小学校	☎098-33 天塩町川口208-3	01632-2-3266	〃
35	久米 広美	東光小学校	☎077 留萌市住之江町4丁目	0164-42-1820	〃
36	横溝裕美子	幌延小学校	☎098-32 幌延町東町25	01632-5-2216	〃
37	沢田 幸七	三泊小学校	☎077 留萌市三泊町100	0164-42-0778	〃
38	加藤 真弓	三泊小学校	☎077 留萌市三泊町100	0164-42-0778	〃
39	斉藤 恭子	幌糠小学校	☎078-31 留萌市幌糠町1862-4	0164-46-1044	〃
40	富沢 隆	留萌小学校	☎077 留萌市寿町2丁目	0164-42-1720	〃
41	西塔由希恵	留萌小学校	☎077 留萌市寿町2丁目	0164-42-1720	〃
42	金子智代子	東光小学校	☎077 留萌市住之江町4丁目	0164-42-1820	〃
43	久米 広美	東光小学校	☎077 留萌市住之江町4丁目	0164-42-1820	〃
44	井上満美子	沖見小学校	☎077 留萌市沖見町4丁目62	0164-43-7814	〃
45	渋谷 勉	港北小学校	☎077 留萌市元町3丁目82	0164-42-0335	〃
46	畠山 之史	緑丘小学校	☎077 留萌市千鳥町3-22	0164-42-1294	〃
47	松岡 宏悦	潮静小学校	☎078-32 留萌市潮静3丁目6番地	0164-42-1607	〃

平成8年度 函館市美術教育研究会

役員	氏名	勤務校 / 自宅住所	電話
会長	伊藤英明	銭亀沢中校長 函館市桔梗町337	58-2542 47-1594
副会長	石井久	日吉が丘小校長 函館市美原4丁目4-1	51-7072 46-3581
同	清野恒夫	戸倉中教頭 函館市日吉町1-7-6	59-2141 53-9303
同	繪面和子	南本通小教頭 函館市榎本町6-20	55-1281 57-1147
同	近藤貢	桐花中教頭 函館市神山3-39-5	42-1332 55-2508
同	武田誠	東山小教頭 函館市深堀町30-30	53-5531 52-3629
同	橋本紀勝	北日吉小教頭 函館市本通4-9-16	55-0924 55-3580
幹事長(中)	野呂憲一	赤川中 函館市湯川町2-40-10	46-0486 57-2910
同(小)	大島道夫	中島小 函館市亀田中野町2-91	52-1437 46-7881
研究部長(中)	水口司	港中 大野町本町438-33	41-5790 77-6976
同(小)	鈴木秀明	昭和小 函館市赤川1-2-5	41-4964 46-6679
事業部長(中)	仲井靖典	塩見中 函館市西旭丘町3-48-7	23-4295 50-4860
同(小)	高石悦郎	青柳小 函館市山の手1-2-5	23-8348 53-0832
庶務部長(中)	岩館こずえ	旭丘中 函館市日吉町3-32-30	50-3609 52-9841
同(小)	高橋喜子	港小 函館市松川町26-2	41-5855 45-1036
経理部長(中)	武田文彦	的場中 函館市松川町13-16	52-5108 41-3608
同(小)	角谷聖子	駒場小 函館市山の手1-27-11	52-2364 52-8172
総務	福田隆次	桔梗小 七飯町本町589	46-3607 65-2992
同	佐藤良紀	東山小 函館市深堀町29-11	53-5531 55-5523
同	長谷川正雄	戸倉中 函館市陣川町24-5	59-2141 53-7314
同	安井孝	深堀中 函館市山の手2-50-9	52-2682 54-4261
同	丸山恵三	本通中 函館市美原3-30-8	55-3141 47-0542

役員	氏名	勤務校 / 自宅住所	電話
同	越田善忠	五稜中 函館市人見町5-2	41-3458 56-6988
同	山谷礼司	北美原小 七飯町大川116-20	46-1370 65-5890
同	多胡豊	深堀小 函館市美原3-30-13	53-7822 46-5246
顧問	加藤彬	函館市本町26-10	53-3519
同	漆崎繁雄	函館市榎本町5-10	57-8390
同	木村良	函館市松川町41-18	41-2991
同	宮林繁雄	東京都田市本町田3346-9	0127-23-9850
同	乳井邦衛	函館市柏木町40-18	54-6782
同	田中俊也	函館市柏木町16-6	32-8701
同	大崎義弘	函館市亀田町17-13	42-4488
同	高野政吉	函館市松陰町11-10	51-4459
同	信永昭三	函館市青柳町16-17	22-3714
同	秋山修世	函館市深堀町27-1	51-1992
同	八木橋哲朗	函館市日吉町3-2-20	52-6293
同	菅原昭一	函館市谷地頭町31-18	26-1574
同	田邊康夫	函館市五稜郭町25-13	53-7095
同	金谷疆	函館市榎本町13-21	57-0686
同	木村貢	南茅部町臼尻中校長	01372-3-3281
同	藤井昭夫	砂原町砂原中校長	01374-8-2012

## 平成8年度 函館市美術教育研究会会員名簿

(小学生)

学校名	氏名	学年	学校名	氏名	学年
西			中島	大島道夫	5
弥生			千代田	(橋和子)	
青柳	高石悦郎	6	柏野		
高盛	佐藤洋三		金堀		
東川	浦野喜美江		駒場	河合信彦	
	辻口喜廣			角谷聖子	
大森			深堀	多胡豊	6
中一部				河邊英里子	6
北星			東湯川	吉田徹	2
八幡	川上広義	専	神山		
万年橋	山本良子	1	附属	船橋恭二	2
	(佐々木淑子)		日吉が丘	石井久	校長
港	高橋喜子	5		*井上由里子	1
	出町恵子	2	北日吉	橋本紀勝	教頭
	*井端祐子	4		*笠富美子	4
千代岳	高橋吉隆	専			

学校名	氏名	学年
高丘		
上湯川		
旭岡	大塚香苗	12
亀尾		
鱒川	村國壽英	
蛾眉野		
石崎		
桔梗	福田隆次	専
	*関口純一	6
中の沢	野本節郎	
北昭和	和智由紀子	
昭和	*鈴木秀明	
	安井陽子	

学校名	氏名	学年
亀田		
赤川	長谷川久子	
中央	*岩島寿光之	6
	東堂亮之	4
	野村光	2
北美原	*山谷礼司	5
	寺山若司奈人	5
	仮直昌	5
	西本昌美	3
鍛神山	武田誠	教頭
東山	*佐藤良紀	専
	佐々木英樹	5
本通	*佐々木寿也子	6
南本通	絵面和子	教頭

\* 複数会員の学校の幹事

○ 学校窓口の先生

(中学生)

学校名	氏名	学年
西	戸次正義	2
潮見	仲井靖典	3
宇賀の浦	南部谷京子	2
凌雲	山沢康正	3
五稜	越田喜忠	1
大川	近堂隆志	2
港	水口司	2
光的	白川卓	3
成場	武田文彦	1
	高倉かおり	2
深堀	安井孝	2
	高田修一	1
湯川	狩野まち子	2
戸倉	清野恒夫	教頭
	長谷川正雄	1
	中村吉秀	2

学校名	氏名	学年
旭岡	岩館こずえ	2
銭亀沢	伊藤英明	校長
赤川	野呂恵一	3
	花岡康成	1
亀田	笹木武	1
	多田淳	2
桐花	近藤貢	教頭
	福士雅広	3
本通	丸山恵三	3
	高田敏夫	1
	三谷龍司	2
北	進士龍継	1
	伊藤睦	3
桔梗	館田哲朗	2
付属	佐々木善憲	1
鱒川	福地恵美子	全中
付属養護	堀井朋子	高等



## 室蘭市教育研究会造形部会名簿

役 職	氏 名	学 校	住 所	電 話
部 長	矢 元 政 行	東 中 学 校	室蘭市寿町2-14-1	☎0413-44-5076
副 部 長	今 野 博 信	知利別小学校	室蘭市宮の森町3-1-2	☎0143-44-3755
	佐 藤 務	成徳中学校	室蘭市母恋南町1-32	☎0143-22-8488
研 究 主 任	北 村 哲 朗	中島小学校	室蘭市宮の森町1-5-7	☎0143-44-3757
研 究 委 員	高 橋 原 子	武揚小学校	室蘭市栄町2-3-3	☎0143-22-1788
	高 橋 千 恵	北辰中学校	室蘭市山の手町2-10	☎0143-22-8188
	池 弘 美	母恋小学校	室蘭市母恋北町2-12-3	☎0143-24-6811
	佐 藤 宏 茂	鶴ヶ崎中学校	室蘭市みゆき町2-15-41	☎0143-44-3750
	荒 地 健	向陽中学校	室蘭市中島町2-22-30	☎0143-44-2951
実 技 研 究 グループ責任者	高 橋 裕 子	東園小学校	室蘭市東町3-18-11	☎0143-44-3021
造形展グループ 責 任 者	工 藤 善 蔵	蘭東中学校	室蘭市知利別町1-11-30	☎0143-44-5076
	鈴 木 俊 子	知利別小学校	室蘭市宮の森町3-1-2	☎0143-44-3755
	富 永 珠 后	港南中学校	室蘭市港南町2-5-1	☎0143-22-8388

## 平成8年度 檜山管内造形教育研究会会員名

役 職	氏 名	所属学校	電 話	所 在 地
会 長	校長 福 元 喬	上ノ国中	01395-5-2028	049-06 上ノ国町勝山39
副 会 長	校長 中 川 真一郎	栄浜小	01396-2-2160	043-01 乙部町栄浜477
事務局長	教諭 谷 口 光 伸	乙部小	01396-2-2021	043-01 乙部町緑町641
事務局次長	教諭 日 角 朱 美	日明小	01395-2-0479	043 江差町田沢419
研究部長	教諭 山 谷 佳 公	江差小	01395-2-0140	043 江差町本町170
事業部長	教諭 酒 谷 誠	富岡小	01396-2-3535	043-01 乙部町富岡187-4
幹 事	教諭 寺 谷 修 身	熊石一中	01398-2-3396	043-03 熊石町雲石492
幹 事	教諭 茶碗谷 稔	南ガ丘小	01395-2-0524	043 江差町南浜370
会 員	教諭 上縄手 淳	種川小	01378-2-0506	049-43 今金町種川369
会 員	教諭 佐 藤 美代子	栄浜中	01396-2-2370	043-01 乙部町栄浜476
会 員	教諭 外 崎 芳 江	玉川小	01378-2-5752	049-44 北檜山町丹羽

\* 会員=11名 (中学校=3名・小学校=9名)

## 胆振造形教育研究会名簿

氏名	役職	学校名	学校住所	学校電話番号		
長澤晃	理事	緑小学校	三光町2-6-5	32-6510		
大月猛		啓明中学校	はまなす町2-2-2	67-3115		
小林裕子		東小学校	旭町3-3-4	32-6231		
佐竹秀行		東中学校	旭町1-7-10	32-5231		
餅田利雄		弥生中学校	弥生町1-9-11	72-5234		
石井浩昭		澄川小学校	澄川町2-4-6	67-3131		
長池律子		和光中学校	双葉町1-11-3	32-5237		
吉田とし子		光洋中学校	光洋町2-5-2	72-7255		
佐藤公毅		光洋中学校	光洋町2-5-2	72-7255		
中畑一彦	副会長	開成中学校	清水町2-9-2	32-8278		
大年教子		啓北中学校	啓北町2-12-11	72-7245		
今多博勝		凌雲中学校	青雲町2-15-3	67-0415		
森康博		東中学校	旭町1-7-10	32-5231		
長谷川英二		勇弘中学校	勇弘132	56-0329		
川口真知子		啓明中学校	はまなす町2-2-2	67-3115		
佐藤輝彦		監査	大成小学校	大成町2-3-2	72-6434	
坂東軍治		監査	明倫中学校	日新町3-5-13	74-2146	
吉田隆一			豊川小学校	豊川町4-7-14	73-8024	
田口香苗			本輪西小学校	本輪西町4-16-1	55-7334	
斎藤正宏		副会長	本輪西学校	本輪西町4-16-1	55-7334	
北村哲朗		理事	中島小学校	宮の森町1-5-7	44-3757	
栃尾俊秋			東園小学校	東町3-18-11	44-3021	
佐藤務			成徳中学校	母恋い南町1-32	22-8488	
佐藤広茂			会計	鶴ヶ崎中学校	みゆき町2-15-41	44-3750
矢元政行			会長	東中学校	寿町2-14-1	44-5076
中村民夫				本室蘭中学校	白鳥台2-5-1	59-2681
森田只志				大滝優徳小学校	大滝村優徳94	0142-68-6915
常盤欣也				事務局長	社警中学校	社警町滝之町420
斎藤博	事務局次長			伊達東小学校	伊達市弄月207-1	0142-23-2738
本多正機	監査			伊達長和中学校	伊達市長和462-1	0142-23-2720
佐藤真幸	副会長	登別中学校		登別市登別本町1-1-1	0143-83-1029	
千葉光弘	理事	白老中学校		白老町東町5-3-1	0144-82-2026	
渡辺輝夫	理事	早来安平小学校	早来町安平166	01452-3-2266		

## 苫小牧市造形教育研究部会役員

### 役員

番号	氏名	学校名	学校住所	電話
会長	長澤晃子			
副会長	小林裕子			
〃	大月猛行			
幹事	佐竹秀行			
理事	石井浩昭			
〃	餅田利生			

### 会員

番号	氏名	学校名	学校住所	電話
1	小田真紀	若草小	苫小牧市若草町1-4-5	32-6585
2	川村友子	〃	〃	〃
3	森島新	〃	〃	〃
4	葛保江美子	北星小	〃 桜木町3-8-6	74-2155
5	小林裕子	東小	〃 旭町3-3-4	32-6232
6	照井明美	〃	〃	〃
7	中島由美恵	〃	〃	〃
8	土田融	〃	〃	〃
9	北山英昭	沼小	〃 字沼ノ端519-48	55-0403
10	山村捷昭	〃	〃	〃
11	佐藤輝彦	大成小	〃 大成町2-3-2	72-6434
12	北條祐子	〃	〃	〃
13	伊藤多恵子	〃	〃	〃
14	阿波芳博	〃	〃	〃
15	佐藤昌二	〃	〃	〃
16	岩井左千子	〃	〃	〃
17	河毛幸至	美園小	〃 美園町4-26-2	34-3013
18	湯浅眞司	〃	〃	〃
19	竹田重子	〃	〃	〃
20	名須川公男	〃	〃	〃
21	深澤聡	西小	〃 矢代町3-7-16	72-6442
22	小野寺幹子	〃	〃	〃
23	鈴木恵美子	〃	〃	〃
24	高橋恭子	北光小	〃 北光町3-8-2	73-8192
25	奥津欣弥	〃	〃	〃
26	中島美郁	〃	〃	〃
27	伊東教子	北光小	〃	〃
28	洗美幸子	〃	〃	〃
29	平野恵子	〃	〃	〃
30	佐藤邦子	〃	〃	〃
31	澤田石美国幸	糸井小	〃 日吉町4-12-6	72-3913
32	神国朝治	泉野小	〃 川治町4-5-1	72-3839
33	阿部健治	澄川小	〃 澄川町2-4-6	67-3132
34	石井浩昭	〃	〃	〃

番号	氏名	学校名	学校住所	電話
35	鎌田拓志	澄川小	" 澄川町2-4-6	67-3132
36	佐藤正義	"	"	"
37	山川昌康	明德小	" 明德町3-10-3	67-2916
38	吉田隆一	豊川小	" 豊川町4-7-14	73-8024
39	樋渡敏照	"	"	"
40	村田敦子	"	"	"
41	岩瀬惠	明野小	" 明野新町6-3-1	57-5611
42	坂本美地子	"	"	"
43	谷川永幸	"	"	"
44	田中惠美子	清水小	" 清水町2-10-10	33-7286
45	長澤晃	緑小	" 三光町2-6-5	32-6501
46	宮下肇彰	"	"	"
47	久保聡子	"	"	"
48	星野文男子	"	"	"
49	石栗節子	"	"	"
50	安田勝	"	"	"
51	古川良明	錦岡小	" 宮前町2-30-2	67-0408
52	徳田幸次郎	日新小	" 日新町3-1-7	73-1612
53	板垣泰信	日新小	"	"
54	及川ひとみ	"	"	"
55	久保内久美子	"	"	"
56	西内結子	和光中	" 双葉町1-11-3	32-5238
57	長池律子	"	"	"
58	吉田とし子	光洋中	" 光洋町2-5-2	72-7256
59	佐藤公毅	"	"	"
60	餅田利生	弥生中	" 弥生町1-9-11	72-5235
61	中畑一彦	開成中	" 清水町1-9-11	32-8278
62	井上智洋	沼中	" 字沼ノ端519-5	55-0341
63	大年教子	啓北中	" 啓北町2-12-11	72-7245
64	佐藤理香	"	"	"
65	三間亨子	明野中	" 明野新町3-13-1	57-1811
66	今多博勝	凌雲中	" 青雲町2-15-3	67-6142
67	佐竹秀行	東中	" 旭町1-7-10	32-5231
68	森康博	"	"	"
69	長谷川英二	勇弘中	" 字勇弘132	56-0320
70	川口真知子	啓明中	" はまなす町2-2-2	67-3115
71	大月猛	"	"	"
72	坂東軍治	明倫中	" 日新町3-5-13	74-2146
73	遠藤秀三	"	"	"

# 帯広市教育研究会美術部会員名簿

## 事務局員名簿

役 職	氏 名	学 校	業務分担	電話
部 長	山 口 雅 子	関西小学校	授 業 研	36-8723
副 部 長	海 富 隆	緑園中学校		36-7819
事 務 局 長	斎 藤 卓	第五中学校	連 絡 係	34-5710
事務局次長	嵐 田 美智子	清川中学校	美 術 館	60-2055
事務局員	松 浦 恵 子	明星小学校		24-4471
	谷 口 早 苗	豊成小学校		48-2558
	山 中 みどり	大空小学校	実 技 研	48-7672
	野 原 圭 介	若葉小学校		36-7371
	阿 部 美枝子	明和小学校		34-5615
	新 津 郎 子	森の里小学校		36-5437
	高 橋 康 宏	第一中学校		34-7604
	神 史 明	第四中学校	造 形 展	24-3511
	茶 谷 雄 司	第四中学校		24-3511
	石 原 紀 子	第六中学校		23-6168
	木 村 美 穂	第八中学校		35-6593
	伊 藤 暁 子	大空中学校	作 品 交 流	48-5089
	上 田 美 紀	川西中学校		59-2014

## 帯教研 図工・美術部会名簿

NO	所属校	氏 名	NO	所属校	氏 名	NO	所属校	氏 名	NO	所属校	氏 名
1	帯広小	滝沢 政己	24		三守 宏明	47	若葉小	野原 圭介	70		庄司ひろみ
2		蓮 朋子	25		森戸 春樹	48		野上 素子	71		土岐絵里奈
3		石塚 慎子	26	東 小	松田 信幸	49		安藤 和江	72		大瀬 清嗣
4	西 小	新栄 モト	27		藤崎まゆみ	50	広陽小	高草木静子	73		久保 忍
5		佐藤 史子	28		白木 和子	51		山田 浩子	74		阿部美枝子
6		杉山 明夫	29		土橋 浩子	52		猪狩 圭子	75	森の里小	佐々木智穂
7		小野澤彰子	30	啓西小	宮上 洋子	53		横川貴哉子	76		成田 隆
8	明星小	藤崎みよ子	31		山木かずみ	54		蝦名 統子	77		堀田 啓子
9		三国 紘子	32		谷内 威	55		佐藤 俊顕	78		武田 静香
10		松浦 恵子	33		黒田江美子	56		和田 緑	79		近藤 孝志
11		奥山志穂子	34		木下 桂子	57		今木 織恵	80		安村 美幸
12		無江 真弓	35	稲田小	山田 和彦	58	花園小	富田 千晶	81		松原喜美子
13		井上 敬子	36		飯島 恵美	59		森 里子	82		新津 朗子
14	緑丘小	松邑 宏一	37		大坂 悦子	60		勝部 明子	83		浜中裕奈子
15		太田 靖	38		飯塚ちはる	61	啓北小	木下 広子	84		木村 雅
16		高橋 峰子	39	豊成小	谷口 早苗	62		田島久美子	85		友安 真美
17		長谷川由美子	40		岡戸 一男	63	関西小	山口 雅子	86		伊東 靖子
18		山下 美香	41		加藤 靖寛	64		高畠真知子	87	川西小	船場 和子
19		今野 俊雄	42	大空小	河合 里見	65		平田 弘	88		小原 博親
20		吉田 悟	43		今村 芳弘	66	明和小	中村 悠二	89		田中井香織
21	北栄小	田端 善至	44		宮本 智子	67		大門奈津美	90		遠藤 妙子
22		木村 勝雄	45		山中みどり	68		奥野 栄子	91	清川小	柏木 昌光
23	光南小	川口 修司	46	栄 小	本間 義視	69		大本 映子	92		鏡 解子

NO	所属校	氏名	NO	所属校	氏名	NO	所属校	氏名	NO	所属校	氏名
93	大正小	高橋 佳恵	99	四中	神史 明	105		石原 紀子	111		岡沼 秀雄
94		米田美智子	100		茶谷 雄司	106	八中	霜村 英靖	112	緑園中	海富 隆
95	一中	加瀬谷真理	101	五中	山田 陽子	107		木村 美穂	113		岩山 幾子
96		高橋 康宏	102		斎藤 卓	108	大空中	伊藤 暁子	114	川西中	上田 美紀
97	二中	小西 三雄	103		守谷 道利	109	南町中	佐々木芳徳	115	清川中	嵐田美智子
98	三中	海富 智恵	104	六中	宮沢 克忠	110	西陵中	岡田 正樹			

## 平成8年度 釧路造形教育研究会会員名簿

No.	氏名	勤務学校名及び住所	役職
1	浜崎 千恵子	釧路市立旭小学校 釧路市上川町8-8 ☎0154-23-1457	
2	柳 悟	釧路市立城山小学校 釧路市城山1-14-35 ☎0154-41-1461	会計監査
3	中村 紀雄	釧路市立朝陽小学校 釧路市桜ヶ岡5-3-52 ☎0154-91-6504	副会長
4	佐々木 禮子	釧路市立朝陽小学校 " " " "	
5	小野 三枝子	釧路市立柏木小学校 釧路市柏木町11-15 ☎0154-41-8361	事務局員
6	生田 和江	釧路市立清明小学校 釧路市緑ヶ岡4-8-7 ☎0154-41-8196	
7	佐藤 尚子	釧路市立桂恋小学校 釧路市桂恋172 ☎0154-91-6881	
8	三枝 佑嘉	釧路市立美原小学校 釧路市美原4-2-38 ☎0154-36-2155	会長
9	内山 博之	教育大学付属釧路小学校 釧路市桜ヶ岡7-12-48 ☎0154-91-6324	事務局員
10	中島 健朗	標茶町立阿歴内小学校 標茶町字阿歴内原野基線137-2 ☎01548-7-8343	
11	中島 郁子	標茶町立塘路小中学校 標茶町塘路 ☎01548-7-2140	
12	伊藤 恵理	釧路町立富原小学校 釧路町富原2番地 ☎0154-36-3396	
13	中村 彰	弟子屈町立弟子屈小学校 弟子屈町中央2-1-1 ☎01548-2-2044	
14	中島 欣也	厚岸町立床潭小学校 厚岸町床潭128番地 ☎0153-52-2409	
15	阿部 孝彦	浜中町立茶内小学校 浜中町茶内原野西2線47番地 ☎0153-65-2252	
16	田中 浩	釧路市立東中学校 釧路市春潮台1-3 ☎0154-41-3591	
17	奥田 泰明	釧路市立東中学校 " " " "	事務局長
18	古川 史実	釧路市立東中学校 " " " "	会計
19	和田 達佳	釧路市立春採中学校 釧路市春採5-1-19 ☎0154-41-5831	
20	黒川 真由美	釧路市立共栄中学校 釧路市花園9-40 ☎0154-23-1691	
21	渋谷 弘志	釧路市立景雲中学校 釧路市東川16-1 ☎0154-23-6191	副会長
22	大森 正明	釧路市立緑陵中学校 釧路市緑ヶ岡6-9-42 ☎0154-46-1161	会計監査
23	太子 弘和	釧路市立大楽毛中学校 釧路市大楽毛1-10-1 ☎0154-57-3113	
24	清水 幹雄	釧路市立桜が丘中学校 釧路市桜ヶ岡6-27-12 ☎0154-92-0711	
25	森 富輝	釧路市立美原中学校 釧路市美原4-7-1 ☎0154-37-1171	事務局員
26	吉田 ゆうみ	釧路市立美原中学校 " " " "	
27	中谷内 遵	釧路市立美原中学校 " " " "	
28	北山 貴子	釧路市立鳥取西中学校 釧路市鳥取北9-7-1 ☎0154-53-0211	
29	小池 洋子	釧路町立昆布森中学校 釧路町昆布森3-110 ☎0154-63-2014	
30	葛西 新吾	阿寒町立仁々志別中学校 阿寒町字仁々別32線89番地 ☎0154-60-8021	
31	高橋 潤	鶴居村立鶴居中中学校 鶴居村鶴居東2-31 ☎0154-64-2252	事務局員
32	工藤 朝博	厚岸少年自然の家 厚岸町梅香町2-30 ☎0153-52-1151	
33	池田 奈美	釧路ひぶな幼稚園 釧路市柏木町11-1 ☎0154-41-7418	

No.	氏名	勤務学校名及び住所	役職
34	今野 鈴子	釧路ひぶな幼稚園 釧路市柏木町11-1 ☎0154-41-7418	
35	佐藤 潔	(自宅) 釧路市春採3-5-14 ☎0154-41-1767	顧問
36	西 弘浩	(自宅) 釧路市新富士4-10-24 ☎0154-51-5834	顧問
37	阿部 将	(自宅) 釧路市武佐1-19-6 ☎0154-46-5202	顧問
38	宗廣 義彦	(自宅) 釧路町桂4-9-16 ☎0154-37-7670	顧問
39	岩田 廣	(自宅) 釧路市愛国東4-21-10 ☎0154-37-1991	顧問
40	石橋 巖	(自宅) 釧路市浪花町10-3 ☎0154-22-4916	顧問
41	伊藤 博道	(自宅) 釧路町別保南1-18 ☎0154-62-2549	顧問
42	稲船 正男	(自宅) 標茶町中茶安別基線35 ☎01548-8-6123	顧問

## オホーツク造形教育連盟会員名簿

平成8年4月

役職	氏名	学校	住所	電話
委員長	須貝 徹	斜里町立以久科小学校 長	099-41 以久科24	01522-3-2916
副委員長	竹内 洋嗣	遠軽町立社名淵小学校 長	099-04 社名淵69	01584-2-7891
理事	玉川 博己	網走市立第四中学校 長	099-31 藻琴35	0152-46-2641
理事	佐藤 敬司	美幌町立川上小学校 長	092 田中468	01527-3-3974
理事	猪谷 憲博	斜里町立川上小学校 頭	099-41 川上122	01522-3-3054
理事	花田 光正	常呂町立常呂中学校 頭	093-02 土佐40番地	0152-54-2752
理事	佐藤 将寛	美幌町立美幌小学校 頭	092 西2条北4丁目	01527-3-2019
理事	荒井 孝範	北見市立北光小学校 頭	090 錦町181-3	0157-61-3151
監査	岡崎 公輔	北見市立北光中学校 教	090 北光328	0157-24-1245
監査	青木 修	佐呂間町立佐呂間中学校 頭	093-05 幸町9	01587-2-3445
事務局 長	阿部 賢一	紋別市立紋別中学校 頭	094 南か丘町2-1-53	01582-3-3442
事務局 次長	光岡 光彦	津別町立本岐中学校 頭	092-03 本岐104	01527-7-2224
会計	光成 英二	留辺蕊町立温根湯中学校 教	091-01 温根湯228-2	0157-45-2126
研修部 長	石橋 一郎	女満別町立女満別小学校 教	099-23 昭和13	01527-4-2262
副部長	添田 好美	北見市立緑小学校 教	093 緑町2丁目1-1	0157-36-2688
組織部 長	里見 貴史	網走市立第三中学校 教	093 潮見188	0152-44-8738
副部長	本間 信子	訓子府町立訓子府小学校 教	099-14 仲町65	0157-47-2011
広報部 長	竹内 乃扶子	置戸町立境野小学校 教	099-13 豊住98	0157-55-2310
副部長	佐々木 志保	小清水町立小清水中学校 教	099-36 小清水641	0152-62-2109
会 員	田村 茂喜	清里町立江南小学校 教	099-44 江南370	01522-5-2352
	酒井 貞夫	紋別市立上渚滑小学校 長	099-53 上渚滑6	01582-5-2516
	鈴木 茂男	湧別町立湖陵中学校 長	093-07 芭露411	01586-6-2463
	神田 国昭	北見市立若松小学校 頭	090 若松223	0157-23-7395
	野川 真妃	訓子府町立訓子府中学校 教	099-14 東町410	0157-47-2185
	鈴木 峻二	留辺蕊町立留辺蕊小学校 教	091 栄町18	(外国)
	竹中 博人	清里町立新栄小学校 頭	099-44 上斜里1393	01522-5-2052
	小野寺 和栄	北見市立緑小学校 教	093 緑町2丁目1-1	0157-36-2688
	森沢 真佐子	北見市立中央小学校 教	090 中央町3-51	0157-23-7351
	小西 充	網走市立第一中学校 教	093 台町1丁目	0152-43-4358
	久住呂 志奈子	斜里町立宇登呂中学校 教	099-43 ウトロ高原	01522-4-2838

役職	氏名	学校	住所	電話
	須貝 喜美子	北見市立北光小学校 教	090 錦町181-3	0157-61-3151
	高山 修一	雄武町立雄武中学校 教	098-17 末広町一区	01588-4-2529

役職	氏名	住所	電話
顧問	小松 厚	099-43 斜里町ウトロ香川	01522-4-2653
"	菅原 隆治	090 北見市公園町147	0157-61-5051
"	鷺見 憲治	090 北見市屯田西町226	0157-23-4775
"	西原 進	090 北見市北斗町3-6-22	0157-25-6335
"	横田 勇吉	099-41 斜里町朝日町10	01522-3-0691
"	吉田 義晴	090 北見市高栄東町157-29	
"	黒河 洋輔	090 北見市若葉1丁目5-4	0157-36-0547
"	長谷川 政司	091 留辺蘂町字旭南	
"	狩野 鉄男	099-31 網走市鱒浦79番地1027	0152-45-3991
"	須貝 喜久晴	093 網走市錦町159-22	0152-43-4440
"	田代 巖	099-08 北見市東相内町15	
"	山宮 喬也	090 北見市三輪549-33	0157-36-0114
"	絹笠 二三男	093 網走市潮見町125番地	0152-45-2452

## 平成8年度 根室造形教育連盟会員名簿

番号	氏名	勤務先学校名	郵便番号	勤務先住所	電話番号	役職名
1	鍋谷 尊之	別海町立上西春別小	088-25	野付郡別海町西春別駅前西町2	01537-7-2050	会長
2	本川 勝敏	根室市立和田中	087	根室市西和田219	01532-5-3724	副会長・会計
3	山口 長伸	根室市立落石小	088-17	根室市落石東135	01532-7-2040	事務局長
4	館山 唯郎	中標津町立広陵中	086-11	標津郡中標津町東10南7-1	01537-3-3161	事務局次長
5	大井 誠一郎	中標津町立中標津小	086-11	標津郡中標津町西9北1-2	01537-2-2565	研究部長
6	煤賀 克文	根室市立温根元小	087-01	根室市光洋町2-12	01532-8-3004	研究部副部長
7	坪谷 捷介	根室市立光洋中	087	根室市光洋町2-12	01532-4-3205	会員
8	久保 英樹	根室市立柏陵	087	根室市敷島町1-10	01532-4-3265	"
9	林 輝雄	根室市立落石小	088-17	根室市落石東135	01532-7-2040	"
10	西川 孝	中標津町立計根別小	086-26	標津郡中標津町計根別北1西1-1-1	01537-8-2062	"
11	伊丹 久信	根室市立成央小	087	根室市光洋町1-25	01532-3-6325	"
12	千綾 久美子	中標津町立開陽中	086-12	標津郡中標津町字開陽24線北88-1	01537-4-2101	"
13	宮島 真理子	中標津町立広陵中	086-11	標津郡中標津町東10南7-1	01537-3-3161	"
14	角田 尚美	中標津町立広陵中	086-11	標津郡中標津町東10南7-1	01537-3-3161	"
15	柏尾 和市	中標津町立若竹小	088-26	標津郡中標津町字西竹46線北225	01537-8-2558	"
16	中島 能亜	根室市立花咲小	087	根室市栄町1-1	01532-4-3156	"
17	鈴木 将人	根室市立花咲小	087	根室市栄町1-1	01532-4-3156	"
18	大溝 雅之	羅臼町立春松中	86-18	目梨郡羅臼町八木浜町146	01538-8-2261	"
19	桐沢 亨		087	根室市有機町1-4	01532-3-2329	顧問
20	清水 克美	標津町教育委員会	086-16	標津郡標津町字標津3-5	01538-2-3110	"

後志教育研究会図工美術部会

代表 田丸 公記 余市東中 046 余市郡余市町朝日町71 0135(22)3293



# 第46回北海道造形教育研究大会 札幌大会運営実行委員会

★は実行委員会事務局

大会長	★白井 罔 毅	札幌市立山鼻小学校長	(北海道造形教育連盟委員長)
副大会長	小杉 信 雄	旭川市立神楽岡小学校長	(北海道造形教育連盟副委員長)
副大会長	石井 久	函館市立日吉が丘小学校長	(北海道造形教育連盟副委員長)
副大会長	鍋谷 尊之治	別海町立上西春別小学校長	(北海道造形教育連盟副委員長)
副大会長	高橋 鎌 治	留明市立留明中学校長	(北海道造形教育連盟副委員長)
副大会長	★奥野 郁 男	札幌市立向陵中学校長	(北海道造形教育連盟副委員長)
大会顧問	伊藤 恵		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	遠藤 久 男		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	鹿嶋 健		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	金井 秀 男		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	佐藤 吉五郎		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	高橋 栄 吉		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	種市 誠次郎		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	長谷川 傳		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	畠山 三代喜		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	船着 昭 弘		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	松島 輝 男		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	三谷 哲 司		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	森川 昭 夫		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	米谷 哲 夫		(北海道造形教育連盟顧問)
大会顧問	長尾 光 展	札幌みなみ幼稚園理事長	
大会顧問	塚野 昭 臣	札幌市教育委員会指導室	
大会顧問	石谷 正 美	札幌市教育研究所	
運営委員長	★吉田 倭 雄	札幌市立発寒小学校長	(北海道造形教育連盟事務局長)
運営副委員長	山橋 忠 雄	札幌みなみ幼稚園長	
運営副委員長	水上 豊 後	ときわみなみ幼稚園長	
運営副委員長	香取 正 人	札幌市立南が丘中学校長	(札幌市教育研究協議会中学校美研究部会主任顧問)
運営副委員長	★了寛 紀 明	札幌市立山鼻小学校教頭	(会場校事務局長)
運営委員	川崎 亮 一	札幌市立山鼻小学校	(会場校事務局)
運営委員	佐藤 和	札幌市立山鼻小学校	(会場校事務局)
運営委員	★小尾 喬	札幌市立すすらん幼稚園長	(北海道造形教育連盟事務局次長)
運営委員	★福島 齊	札幌市立北陽小学校長	(北海道造形教育連盟事務局次長)
運営委員	森 美佐子	札幌みなみ幼稚園主任補	
運営委員	中村 美智子	ときわみなみ幼稚園主任	
実行委員長	★伊藤 善 彬	札幌市立白石小学校長	(札幌市造形教育連盟委員長)
副実行委員長	★多田 紘 一	札幌市立北白石中学校教頭	(札幌市造形教育連盟副委員長)
副実行委員長	★角力山 旭	札幌市立明園中学校	(札幌市造形教育連盟副委員長)
副実行委員長	★香西 富士夫	北海道札幌平岸高等学校	(北海道造形教育連盟事務局次長)

— 会計部 —

部長	★芝木秀昭	札幌市立西野第二小学校教頭	(北海道造形教育連盟)
次長	★窪田恵子	札幌市立新陵小学校教頭	(札幌市造形教育連盟)
次長	植木則子	札幌市立西岡南小学校	(北海道造形教育連盟)
次長	今裕子	札幌市立山鼻小学校	(札幌市造形教育連盟)

— 研究部 —

部長	★菅原清貴	札幌市立三角山小学校	(北海道造形教育連盟)
次長	★阿部宏行	札幌市立中央小学校	(札幌市造形教育連盟)
次長	★阿部時彦	札幌市立中央中学校	(札幌市立中央中学校美術研究部会)
次長	★伊藤尚	札幌市立米里中学校	(札幌市立米里中学校美術研究部会)
	桶川公延	札幌市立厚別中学校	(札幌市立厚別中学校美術研究部会)
	浅井邦昭	札幌市立陵北中学校	(札幌市立陵北中学校美術研究部会)
	柏木順	札幌市立いなづみ幼稚園	(北海道造形教育連盟)
	吉田耕一朗	札幌市立もいわ幼稚園	(北海道造形教育連盟)

— 分科会運営者 —

	篠原寛	札幌市立宮の森小学校	(北海道造形教育連盟)
	稲實順	札幌市立創成小学校	(北海道造形教育連盟)
	土肥宏充	札幌市立厚別北小学校	(北海道造形教育連盟)
	★桜田豊	札幌市立幌西小学校	(北海道造形教育連盟)
	野切卓	北海道教育大学附属札幌小学校	(北海道造形教育連盟)
	箭内宏之	札幌市立幌西小学校	(北海道造形教育連盟)
	館内徹	札幌市立平岡中央中学校	(札幌市立平岡中央中学校美術研究部会)
	合田典史	札幌市立前田北中学校	(札幌市立前田北中学校美術研究部会)

— 分科会座長 —

	芝木秀昭	札幌市立西野第二小学校教頭	(北海道造形教育連盟会計部長)
	西寛	札幌市立青葉小学校教頭	(北海道造形教育連盟事務局顧問)
	佐藤靖	札幌市立日新小学校教頭	(北海道造形教育連盟事務局顧問)
	富田泰	札幌市立屯田西小学校教頭	(北海道造形教育連盟事務局顧問)
	藤井正治	札幌市立東園小学校教頭	(北海道造形教育連盟事務局顧問)
	奥野郁男	札幌市立向陵中学校長	(札幌市立向陵中学校美術研究部会顧問)
	村谷利一	札幌市立栄南中学校長	(札幌市立栄南中学校美術研究部会顧問)
	武市尚政	札幌市立上野幌中学校長	(札幌市立上野幌中学校美術研究部会副主顧問)

— 提言者 —

	湯浅大吾	札幌市立新陽小学校	(札幌市造形教育連盟)
	久保ふじ子	札幌市立藻岩小学校	(札幌市造形教育連盟)
	山室ゆかり	札幌市立西岡小学校	(札幌市造形教育連盟)
	毛利聡	札幌市立厚別東小学校	(北海道造形教育連盟)
	東尚典	札幌市立大通小学校	(札幌市造形教育連盟)
	元茂章子	札幌市立美しが丘小学校	(北海道造形教育連盟)
	小野正二	札幌市立札幌苗緑小学校	(北海道造形教育連盟)
	富波修	札幌市立旭小学校	(札幌市立旭小学校図画工作研究部会)
	谷山圭子	札幌市立西宮の沢小学校	(札幌市立西宮の沢小学校図画工作研究部会)
	今谷孝	札幌市立平和小学校	(北海道造形教育連盟)
	富樫信博	札幌市立藻岩南小学校	(札幌市立藻岩南小学校図画工作研究部会)
	岡田知之	札幌市立藤野南小学校	(札幌市立藤野南小学校図画工作研究部会)

中村直子	ときわみなみ幼稚園	
三浦かおり	札幌みなみ幼稚園	
岡澤邦彦	北海道教育大学附属札幌中学校	(札幌研中学校美術研究部会)
黒柳恵利子	札幌市立南が丘中学校	(札幌研中学校美術研究部会)
白崎博	札幌市立東栄中学校	(札幌研中学校美術研究部会)

— 授業者 —

廣瀬恵子	札幌市山鼻小学校	(北海道造形教育連盟)
川島正夫	札幌市伏見小学校	(北海道造形教育連盟)
堀口基一	札幌市屯田西小学校	(北海道造形教育連盟)
氏家珠実	札幌市桑園小学校	(北海道造形教育連盟)
押田一郎	札幌市西野第二小学校	(北海道造形教育連盟)
松本和彦	札幌市稲積小学校	(札幌研小学校図画工作研究部会)
上村治子	札幌みなみ幼稚園	
原田さゆり	札幌みなみ幼稚園	
小口典子	札幌みなみ幼稚園	
高橋久美子	札幌市立宮の森中学校	(札幌研中学校美術研究部会)
向井正樹	札幌市立北白石中学校	(札幌研中学校美術研究部会)
千葉美智子	札幌市立明園中学校	(札幌研中学校美術研究部会)
石川早苗	札幌市立琴似中学校	(札幌研中学校美術研究部会)

— 全校授業 —

今裕子	札幌市立山鼻小学校	(北海道造形教育連盟)
田口和男	札幌市立白石小学校	(北海道造形教育連盟)
上村尚生	札幌市立山鼻小学校	
安藤九一	札幌市立山鼻小学校	
品田亜希江	札幌市立山鼻小学校	
鎌田優子	札幌市立山鼻小学校	
白崎正	札幌市立山鼻小学校	
伊藤寿朗	札幌市立発寒西小学校	(札幌市造形教育連盟)
奈良岡学	札幌市立和光小学校	(札幌市造形教育連盟)
梅野隆	札幌市立共栄小学校	(札幌市造形教育連盟)

— 分科会記録者 —

部いずみ	札幌市立白石小学校	(札幌研中学校美術研究部会)
加藤正幸	札幌市立新琴似北小学校	(札幌研小学校図画工作研究部会)
森美由紀	札幌市立いなづみ幼稚園	(札幌市造形教育連盟)
澤波隆信	札幌市立前田中央小学校	(札幌研小学校図画工作研究部会)
阿部俊樹	札幌市立新陵小学校	(札幌研小学校図画工作研究部会)
古谷壽朗	札幌市立苗穂小学校	(札幌市造形教育連盟)
浅井邦昭	札幌市立陵北小学校	(札幌研中学校美術研究部会)
田辺詩恵	札幌市立緑丘小学校	(札幌研小学校図画工作研究部会)

— 美術館関係担当者 —

近代美術館	★多田絃一	札幌市立北白石中学校教頭	(札幌市造形教育連盟)
	★益村豊	札幌市立山鼻南小学校	(北海道造形教育連盟)
	箭内浩之	札幌市立幌西小学校	(北海道造形教育連盟)
	松原和彦	札幌市立桑園小学校	(札幌研小学校図画工作研究部会)
三岸美術館	阿部時彦	札幌市立中央中学校	(札幌研中学校美術研究部会)

三岸美術館	小野泰裕	札幌市立山鼻中学校	(札幌市立山鼻中学校美術研究部会)
	八重樫真一	札幌市立啓明中学校	(札幌市立啓明中学校美術研究部会)
	角力山旭	札幌市立明園中学校	(札幌市立明園中学校美術研究部会)

— 庶務部 —

部長	★永井恭子	札幌市立中央幼稚園	長	(北海道造形教育連盟)
	小泉誠	札幌市立開成		(札幌市造形教育連盟)
	森美由紀	札幌市立いなづみ幼稚園		(札幌市造形教育連盟)
	永井智子	札幌市立大倉山小学校		(札幌市造形教育連盟)
	富樫信博	札幌市立藻岩南小学校		(札幌市造形教育連盟)
	今谷孝	札幌市立平和小学校		(北海道造形教育連盟)
	池田悦子	札幌市立円山小学校		(北海道造形教育連盟)
	高向修子	札幌市立福井野小学校		(北海道造形教育連盟)
	太田寿栄子	札幌市立平岸高台小学校		(北海道造形教育連盟)
	富田賢司	札幌市立美香保中学校		(札幌市立美香保中学校美術研究部会)
	江幡和子	札幌市立みどり小学校		(札幌市造形教育連盟)
	石川絢子	札幌市立米里小学校		(札幌市造形教育連盟)
	山本景子	札幌市立新川小学校		(札幌市造形教育連盟)
	横山瑞江	札幌市立三角山小学校		(札幌市造形教育連盟)
	武部珠希	札幌市立平岡中央小学校		(札幌市造形教育連盟)
	渡部節子	札幌市立大谷地小学校		(札幌市立大谷地小学校図画工作研究部会)
	館内徹	札幌市立平岡中央中学校		(札幌市立平岡中央中学校美術研究部会)
	高杉正和	札幌市立中の島中学校		(札幌市立中の島中学校美術研究部会)
	富田賢司	札幌市立美香保中学校		(札幌市立美香保中学校美術研究部会)
	村上秀明	札幌市立八条中学校		(札幌市立八条中学校美術研究部会)
	石川弥生	札幌市立陵陽中学校		(札幌市立陵陽中学校美術研究部会)
	後藤由紀子	札幌市立平岡中学校		(札幌市立平岡中学校美術研究部会)
	後藤和司	札幌市立平岡中央中学校		(札幌市立平岡中央中学校美術研究部会)
	霍田文彦	札幌市立東月寒中学校		(札幌市立東月寒中学校美術研究部会)
	山崎久子	札幌市立向陵中学校		(札幌市立向陵中学校美術研究部会)
	小泉信嗣	札幌市立陵北中学校		(札幌市立陵北中学校美術研究部会)
	種市裕子	札幌市立藻岩中学校		(札幌市立藻岩中学校美術研究部会)
	後藤和司	札幌市立平岡中央中学校		(札幌市立平岡中央中学校美術研究部会)
	大和美恵子	札幌市立厚別中学校		(札幌市立厚別中学校美術研究部会)

— 接待 —

田村祥子	札幌市立山鼻小学校
富塚深雪	札幌市立山鼻小学校
島田美代子	札幌市立山鼻小学校
西村正子	札幌市立山鼻小学校
松原雪枝	札幌市立山鼻小学校
佐々木佳子	札幌市立山鼻小学校

— 会場部 —

部長	小柳雄嗣	札幌市立琴似中央小学校	(北海道造形教育連盟)
	白井真澄	札幌市立前田小学校	(北海道造形教育連盟)
	土井善範	札幌市立伏見小学校	(北海道造形教育連盟)



館内	徹	札幌市立平岡中央中学校	(札幌市立平岡中央中学校美術研究部会)
村上	秀明	札幌市立八条中学校	(札幌市立八条中学校美術研究部会)
石川	弥生	札幌市立陵陽中学校	(札幌市立陵陽中学校美術研究部会)

— 記録部 —

部 長	★毛馬内 國夫	札幌市立桑園小学校	(北海道造形教育連盟)
	板木 武	札幌市立美しが丘緑小学校頭事務取扱	(北海道造形教育連盟)
	古谷 壽朗	札幌市立苗穂小学校	(北海道造形教育連盟)
	小野 正二	札幌市立札幌苗緑小学校	(札幌市造形教育連盟)
	元茂 章子	札幌市立美し丘小学校	(北海道造形教育連盟)
	浜野 りな	札幌市立南の沢小学校	(北海道造形教育連盟)
	加藤 正幸	札幌市立新琴似小学校	(札幌市造形教育連盟)
	原田 香利	札幌市立美香保小学校	(札幌市造形教育連盟)
	福島 由紀子	札幌市立南郷小学校	(札幌市造形教育連盟)
	木戸 久美子	札幌市立大谷地東小学校	(札幌市造形教育連盟)
	田中 潤	札幌市立屯田中央中学校	(札幌市造形教育連盟)
	小野 泰裕	札幌市立山鼻中学校	(札幌市造形教育連盟)
	六本木 祐司	札幌市立札幌苗中学校	(札幌市造形教育連盟)
	津田 安彦	札幌市立山鼻小学校	(札幌市造形教育連盟)

— 渉外部 —

部 長	村谷 利一	札幌市立栄南中学校長	(北海道造形教育連盟)
	伊藤 暢紀	札幌市立美香保小学校教頭	(北海道造形教育連盟)
	長野 祐平	札幌市立川北小学校	(北海道造形教育連盟)
	谷 勲	札幌市立菊水小学校校長	(北海道造形教育連盟)
	早川 輝彦	札幌市立屯田中央中学校	(北海道造形教育連盟)
	島 昇二	札幌市立札幌苗中学校	(北海道造形教育連盟)
	伊藤 昌二	札幌市立上野幌東小学校校長	(札幌市造形教育連盟)
	松井 茂樹	北海道札幌月寒高等学校	(北海道造形教育連盟)
	石川 雅昭	東海大学第四高等学校	(北海道造形教育連盟)
	結城 健介	札幌市立平和通小学校教頭	(札幌市造形教育連盟)
	蛭子 信也	札幌市立北九条小学校講師	(札幌市造形教育連盟)
	伊藤 武司	札幌市立あいの里東小学校教頭	(札幌市造形教育連盟)

# 北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的 本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道造形教育の振興を図るをもって目的とする。
2. 事業 本連盟は、目的を達成するため次の事業を行う。  
① 研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援。  
② 造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究。  
③ 機関誌の刊行。  
④ その他造形教育団体との連絡提携  
⑤ その他造形教育振興上必要な事項。
3. 会員 正会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員。  
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの。
4. 組織 サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する。  
本部 本連盟の本部は札幌に置く。
5. 構成及び任務 ① 役員  
委員長 1名 本連盟を代表する。  
副委員長 若干名 委員長を補佐する。  
会計監査 2名 会計の監査をする。  
② 委員  
地区委員 地区1名 地区サークルを代表する。  
常任委員 若干名 本連盟の運営に当たる。  
顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる。
6. 選任 \*委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する。  
\*地区委員は地区サークルで選出する。  
\*常任委員は委員長の委嘱による。  
\*顧問は委員総会において委嘱する。
7. 任期 役員及び委員の任期は1カ年とする。但し再任を妨げない。
8. 会議 \*総会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する。  
\*委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する。  
役員を選出、予算、決算及び年度計画等につき審議する。  
\*常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する。
9. 会計 本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する。  
会費 正会員は1人年額1,000円を納入するものとする。  
サークルは、年額8,000円を本部に納入するものとする。
10. 事務局 \*事務局は事務局長在勤の学校におく。  
\*事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する。  
\*事務局には必要に応じて各部を設け常務の分担をする。
11. 年度 本連盟の事業並びに会計年度は5月に始まり翌年4月に終わる。
12. 規約の改廃 本規約の改廃は委員総会の決議による。

(昭和62年5月3日改定)

(平成6年4月29日改定)

## 全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧

- 第1回（札幌）1950  
情操教育の一貫として本道図工教育の進展を図るため。
- 第2回（札幌）1952  
美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
- 第3回（旭川）1953  
美術教育の指導とは何か。
- 第4回（函館）1954  
図画工作教育実践上の諸問題について。
- 第5回（釧路）1955  
図画工作教育における学習指導上の問題点の解明。
- 第6回（札幌）1956  
造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか。
- 第7回（室蘭）1957  
のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
- 第8回（小樽）1958  
図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。
- 第9回（帯広）1959  
新段階における造形教育のあり方。
- 第10回（網走）1960  
本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう。
- 第11回（滝川）1961  
子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか。
- 第12回（名寄）1962  
子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第13回（余市）1963  
子どもが生活を見つめ造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第14回（札幌）1964  
子どもの造形能力とは何か。
- 第15回（稚内）1965  
子どもの創造能力とは何か。
- 第16回（室蘭）1966  
子どもの創造能力とは何か。
- 第17回（苫小牧）1968  
指導の構築を具体化する。
- 第18回（苫小牧）1968  
指導の構築を具体化する。
- 第19回（札幌）1969  
造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第20回（旭川）1970  
ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか。
- 第21回（札幌）1971  
造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第22回（帯広）1972  
未来に生きる子どもの造形教育（生活に根ざした造形教育をどう高めるか）。
- 第23回（室蘭）1973  
未来に生きる子どもの造形教育（たしかな表現力をどのように育てるか）。
- 第24回（美幌）1974  
未来に生きる子どもの造形教育（ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか）。



- 第25回（江別）1975  
未来に生きる子どもの造形教育（自ら創り出す力をどう育てるか）。
- 第26回（岩見沢）1976  
未来に生きる子どもの造形教育（すべての子どもの造形のよろこびを）。
- 第27回（札幌）1977  
（第30回全国造形教育研究大会とかねる）  
みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践。
- 第28回（函館）1978  
みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践（すべての子どもが生き生きととりくむ学習）。
- 第29回（旭川）1979  
生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方。
- 第30回（苫小牧）1980  
ひろがりやと深まりの造形教育を求めて。
- 第31回（釧路）1981  
創り出す心をよびおこす造形教育
- 第32回（室蘭）1982  
見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを。
- 第33回（留萌）1983  
生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動。
- 第34回（札幌）1984  
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動（わきたつ発想・たしかな表現・つくり出す喜び）。
- 第35回（函館）1985  
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動（心をこめてつくり出す子どもを育てる）。
- 第36回（旭川）1986  
（第39回全国造形教育研究大会とかねる）  
子どもの心をゆり動かす造形教育（つくる心のひろがり求めて）。
- 第37回（紋別）1987  
子どもの心をゆり動かす造形教育（表現の喜びにひたる子どもを育てる）。
- 第38回（滝川）1988  
子どもの心をゆり動かす造形教育（ひたむきに創る心を育てる）。
- 第39回（帯広）1989  
子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実（君はいま創造のとりこに）。
- 第40回（苫小牧）1990  
広がり、深まり、そして感動を！
- 第41回（札幌）1991  
子どもの個性的表現を授ける造形教育（子どものつくる喜びをひらく）。
- 第42回（函館）1992  
子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実（感動、そして創造する喜びを）。
- 第43回（旭川）1993  
思いをあたため心はずませ創る喜びを。
- 第44回（釧路）1994  
心ときめく、創造の喜びを求めて。
- 第45回（千歳）1995  
豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を。
- 第46回（札幌）1996  
自らの心を拓く造形学習の在り方  
～造形＝愛感美遊創 in 札幌～



北海道造形教育連盟  
札幌市造形教育連盟